



ネットワーク管理コマンド

- [cache](#) (5 ページ)
- [clear flow exporter](#) (8 ページ)
- [clear flow monitor](#) (9 ページ)
- [clear snmp stats hosts](#) (11 ページ)
- [collect](#) (12 ページ)
- [collect counter](#) (14 ページ)
- [collect flow sampler](#) (15 ページ)
- [collect interface](#) (16 ページ)
- [collect ipv4 destination](#) (17 ページ)
- [collect ipv4 source](#) (18 ページ)
- [collect timestamp absolute](#) (20 ページ)
- [collect transport tcp flags](#) (21 ページ)
- [collect routing next-hop address](#) (22 ページ)
- [datalink flow monitor](#) (23 ページ)
- [debug flow exporter](#) (24 ページ)
- [debug flow monitor](#) (25 ページ)
- [debug flow record](#) (26 ページ)
- [debug sampler](#) (27 ページ)
- [description](#) (28 ページ)
- [description \(ERSPAN\)](#) (29 ページ)
- [destination \(ERSPAN\)](#) (30 ページ)
- [destination](#) (36 ページ)
- [dscp](#) (38 ページ)
- [et-analytics](#) (39 ページ)
- [et-analytics enable](#) (40 ページ)
- [event manager applet](#) (41 ページ)
- [export-protocol netflow-v9](#) (45 ページ)
- [export-protocol netflow-v5](#) (46 ページ)
- [exporter](#) (47 ページ)

- [fconfigure \(48 ページ\)](#)
- [filter \(ERSPAN\) \(49 ページ\)](#)
- [flow exporter \(51 ページ\)](#)
- [flow monitor \(52 ページ\)](#)
- [flow record \(53 ページ\)](#)
- [header-type \(54 ページ\)](#)
- [inactive time \(55 ページ\)](#)
- [ip flow-export destination \(56 ページ\)](#)
- [ip wccp \(57 ページ\)](#)
- [ip flow monitor \(59 ページ\)](#)
- [ipv6 flow monitor \(61 ページ\)](#)
- [match datalink ethertype \(63 ページ\)](#)
- [match datalink mac \(64 ページ\)](#)
- [match datalink vlan \(65 ページ\)](#)
- [match flow cts \(66 ページ\)](#)
- [match flow direction \(67 ページ\)](#)
- [match interface \(68 ページ\)](#)
- [match ipv4 \(69 ページ\)](#)
- [match ipv4 destination address \(70 ページ\)](#)
- [match ipv4 source address \(71 ページ\)](#)
- [match ipv4 ttl \(72 ページ\)](#)
- [match ipv6 \(73 ページ\)](#)
- [match ipv6 destination address \(74 ページ\)](#)
- [match ipv6 hop-limit \(75 ページ\)](#)
- [match ipv6 source address \(76 ページ\)](#)
- [map platform-type \(77 ページ\)](#)
- [match transport \(78 ページ\)](#)
- [match transport icmp ipv4 \(79 ページ\)](#)
- [match transport icmp ipv6 \(80 ページ\)](#)
- [match platform-type \(81 ページ\)](#)
- [mode random 1 out-of \(82 ページ\)](#)
- [monitor capture \(interface/control plane\) \(83 ページ\)](#)
- [monitor capture buffer \(85 ページ\)](#)
- [monitor capture clear \(86 ページ\)](#)
- [monitor capture export \(87 ページ\)](#)
- [monitor capture file \(88 ページ\)](#)
- [monitor capture limit \(90 ページ\)](#)
- [monitor capture match \(91 ページ\)](#)
- [monitor capture start \(92 ページ\)](#)
- [monitor capture stop \(93 ページ\)](#)
- [monitor session \(94 ページ\)](#)

- [monitor session destination](#) (96 ページ)
- [monitor session filter](#) (101 ページ)
- [monitor session source](#) (103 ページ)
- [monitor session type](#) (106 ページ)
- [option](#) (108 ページ)
- [record](#) (110 ページ)
- [show flow monitor etta-mon cache](#) (111 ページ)
- [show platform software et-analytics](#) (112 ページ)
- [show platform software fed switch active fnf et-analytics-flow-dump](#) (113 ページ)
- [sampler](#) (114 ページ)
- [show capability feature monitor](#) (115 ページ)
- [show class-map type control subscriber](#) (116 ページ)
- [show ip sla statistics](#) (117 ページ)
- [show monitor](#) (119 ページ)
- [show monitor capture](#) (122 ページ)
- [show monitor session](#) (124 ページ)
- [show parameter-map type subscriber attribute-to-service](#) (127 ページ)
- [show platform software fed switch ip wcep](#) (128 ページ)
- [show platform software swspan](#) (130 ページ)
- [show flow exporter](#) (132 ページ)
- [show flow interface](#) (134 ページ)
- [show flow monitor](#) (136 ページ)
- [show flow record](#) (141 ページ)
- [show sampler](#) (142 ページ)
- [show snmp stats](#) (144 ページ)
- [shutdown \(モニタセッション\)](#) (146 ページ)
- [snmp ifmib ifindex persist](#) (147 ページ)
- [snmp-server community](#) (148 ページ)
- [snmp-server enable traps](#) (150 ページ)
- [snmp-server enable traps bridge](#) (154 ページ)
- [snmp-server enable traps bulkstat](#) (155 ページ)
- [snmp-server enable traps call-home](#) (156 ページ)
- [snmp-server enable traps cef](#) (157 ページ)
- [snmp-server enable traps cpu](#) (158 ページ)
- [snmp-server enable traps envmon](#) (159 ページ)
- [snmp-server enable traps errdisable](#) (160 ページ)
- [snmp-server enable traps flash](#) (161 ページ)
- [snmp-server enable traps isis](#) (162 ページ)
- [snmp-server enable traps license](#) (163 ページ)
- [snmp-server enable traps mac-notification](#) (164 ページ)
- [snmp-server enable traps ospf](#) (165 ページ)

- [snmp-server enable traps pim \(167 ページ\)](#)
- [snmp-server enable traps port-security \(168 ページ\)](#)
- [snmp-server enable traps power-ethernet \(169 ページ\)](#)
- [snmp-server enable traps snmp \(170 ページ\)](#)
- [snmp-server enable traps stackwise \(171 ページ\)](#)
- [snmp-server enable traps storm-control \(174 ページ\)](#)
- [snmp-server enable traps stpx \(175 ページ\)](#)
- [snmp-server enable traps transceiver \(176 ページ\)](#)
- [snmp-server enable traps vrfmib \(177 ページ\)](#)
- [snmp-server enable traps vstack \(178 ページ\)](#)
- [snmp-server engineID \(179 ページ\)](#)
- [snmp-server group \(180 ページ\)](#)
- [snmp-server host \(184 ページ\)](#)
- [snmp-server manager \(189 ページ\)](#)
- [snmp-server user \(190 ページ\)](#)
- [snmp-server view \(195 ページ\)](#)
- [source \(197 ページ\)](#)
- [source \(ERSPAN\) \(199 ページ\)](#)
- [socket \(200 ページ\)](#)
- [switchport mode access \(201 ページ\)](#)
- [switchport voice vlan \(202 ページ\)](#)
- [ttl \(203 ページ\)](#)
- [transport \(204 ページ\)](#)
- [template data timeout \(205 ページ\)](#)
- [udp peek \(206 ページ\)](#)

cache

フローモニタのフローキャッシュパラメータを設定するには、フローモニタコンフィギュレーションモードで **cache** コマンドを使用します。フローモニタのフローキャッシュパラメータを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
cache {timeout {active|inactive|rate-limit|update} seconds|type normal}
no cache {timeout {active|inactive|rate-limit|update} |type}
```

構文の説明

timeout	フロー タイムアウトを指定します。
active	アクティブ フロー タイムアウトを指定します。
inactive	非アクティブ フロー タイムアウトを指定します。
update	永久フローキャッシュの更新タイムアウトを指定します。
<i>seconds</i>	タイムアウト値（秒単位）。通常のフローキャッシュの場合、指定できる範囲は 30～604800（7日）です。永久フローキャッシュの場合は、指定できる範囲は 1～604800（7日）です。
type	フローキャッシュのタイプを指定します。
normal	通常キャッシュタイプを設定します。フローキャッシュ内のエントリは、 timeout active seconds および timeout inactive seconds の設定に従って期限切れになります。これがデフォルトのキャッシュタイプです。

コマンドデフォルト

デフォルトのフロー モニタ フロー キャッシュ パラメータが使用されます。
フローモニタの以下のフロー キャッシュ パラメータがイネーブルになっています。

- キャッシュタイプ : **normal**
- アクティブ フロー タイムアウト : 1800 秒

コマンドモード

フロー モニタ コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

各フローモニタには、モニタするすべてのフローの保存に使用するキャッシュがあります。各キャッシュには、フローがキャッシュ内に留まることができる時間など、設定可能な要素があります。フローがタイムアウトするとキャッシュから削除され、対応するフローモニタ用に設定されている任意のエクスポートに送信されます。

cache timeout active コマンドでは、通常タイプのキャッシュのエージング動作を制御します。フローが長時間アクティブになっている場合、通常はエージアウト（そのフローの後続のパケット用の新しいフローを開始）することが望まれます。このエージアウトプロセスを行うことで、エクスポートを受信するモニタリングアプリケーションに最新の情報を反映し続けることができます。デフォルトでは、このタイムアウトは 1800 秒（30分）ですが、システム要件に応じて調整できます。大きい値を設定すると、存続時間の長いフローを単一のフローレコードに記録することができます。小さい値を設定すると、存続時間の長い新しいフローが開始されてから、そのフローのデータがエクスポートされるまでの遅延が短縮されます。アクティブフロー タイムアウトを変更した場合、新しいタイムアウト値はただちに有効になります。

また、**cache timeout inactive** コマンドでも、通常タイプのキャッシュのエージング動作を制御できます。指定した時間内にフローでアクティビティが検出されない場合、そのフローはエージアウトされます。デフォルトでは、このタイムアウトは 15 秒ですが、この値は想定されるトラフィックのタイプに応じて調整できます。存続時間の短いフローが多数存在し、多くのキャッシュエントリが消費されている場合は、非アクティブタイムアウトを短縮することでこのオーバーヘッドを削減できます。多数のフローが、データを収集し終わる前に頻繁にエージアウトしている場合は、このタイムアウトを延長することでフローの相関関係を向上できます。非アクティブフロー タイムアウトを変更した場合、新しいタイムアウト値はただちに有効になります。

cache timeout update コマンドでは、永久タイプのキャッシュによって送信される定期的なアップデートを制御します。この動作は、アクティブタイムアウトの動作に類似しています。ただし、この動作によって、キャッシュからキャッシュエントリは削除されません。デフォルトでは、このタイマー値は 1800 秒（30 分）です。

cache type normal コマンドでは、通常キャッシュタイプを指定します。これがデフォルトのキャッシュタイプです。キャッシュのエントリは、**timeout active seconds** および **timeout inactive seconds** の設定に従って、エージアウトされます。キャッシュエントリはエージアウトされると、キャッシュから削除され、そのキャッシュに対応するモニタ用に設定されているエクスポートによってエクスポートされます。

キャッシュをデフォルト設定に戻すには、**default cache** フロー モニタ コンフィギュレーション コマンドを使用します。



(注) キャッシュが一杯になると、新しいフローはモニタされません。

次に、フローモニタキャッシュのアクティブタイムアウトを設定する例を示します。

```
Device(config)# flow monitor FLOW-MONITOR-1
Device(config-flow-monitor)# cache timeout active 4800
```

次に、フローモニタキャッシュの非アクティブタイマーを設定する例を示します。

```
Device(config)# flow monitor FLOW-MONITOR-1
Device(config-flow-monitor)# cache timeout inactive 30
```

次に、永久キャッシュのアップデートタイムアウトを設定する例を示します。

```
Device(config)# flow monitor FLOW-MONITOR-1  
Device(config-flow-monitor)# cache timeout update 5000
```

次に、通常キャッシュを設定する例を示します。

```
Device(config)# flow monitor FLOW-MONITOR-1  
Device(config-flow-monitor)# cache type normal
```

clear flow exporter

Flexible Netflow フローエクスポートの統計情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clear flow exporter** コマンドを使用します。

clear flow exporter *[[name] exporter-name] statistics*

構文の説明

name	(任意) フローエクスポートの名前を指定します。
<i>exporter-name</i>	(任意) 以前に設定されたフローエクスポートの名前。
statistics	フローエクスポートの統計情報をクリアします。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

clear flow exporter コマンドは、フローエクスポートからすべての統計情報を削除します。これらの統計情報はエクスポートされず、キャッシュ内に保存されていたデータは失われます。

show flow exporter statistics 特権 EXEC コマンドを使用して、フローエクスポートの統計情報を表示できます。

例

次の例では、デバイスで設定されているすべてのフローエクスポートの統計情報をクリアします。

```
Device# clear flow exporter statistics
```

次の例では、FLOW-EXPORTER-1 という名前のフローエクスポートの統計情報をクリアします。

```
Device# clear flow exporter FLOW-EXPORTER-1 statistics
```


clear flow monitor

フローモニタキャッシュまたはフローモニタ統計情報をクリアし、フローモニタキャッシュ内のデータを強制的にエクスポートするには、特権 EXEC モードで **clear flow monitor** コマンドを使用します。

```
clear flow monitor [name] monitor-name [{[cache] force-export | statistics}]
```

構文の説明

name	フローモニタの名前を指定します。
<i>monitor-name</i>	以前に設定されたフローモニタの名前
cache	(任意) フローモニタキャッシュ情報をクリアします。
force-export	(任意) フローモニタキャッシュ統計情報を強制的にエクスポートします。
statistics	(任意) フローモニタの統計情報をクリアします。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

clear flow monitor cache コマンドを実行すると、フローモニタキャッシュからすべてのエントリが削除されます。キャッシュ内のエントリはエクスポートされ、キャッシュ内に保存されていたデータは失われます。



(注) クリアされたキャッシュエントリの統計情報は保持されます。

clear flow monitor force-export コマンドを実行すると、フローモニタキャッシュからすべてのエントリが削除され、それらのエントリはフローモニタに割り当てられているすべてのフローエクスポートを使用してエクスポートされます。このアクションにより、CPU使用率は一時的に増加します。このコマンドの使用には注意が必要です。

clear flow monitor statistics コマンドを実行すると、このフローモニタの統計情報がクリアされます。



(注) **clear flow monitor statistics** コマンドを実行しても、現在のエントリに関する統計情報はクリアされません。なぜなら、この情報はキャッシュ内に保存されているエントリ数のインジケータであり、キャッシュは、このコマンドによってクリアされないためです。

フローモニタの統計情報を表示するには、**show flow monitor statistics** 特権 EXEC コマンドを使用します。

例

次に、FLOW-MONITOR-1 という名前のフローモニタの統計情報とキャッシュエントリをクリアする例を示します。

```
Device# clear flow monitor name FLOW-MONITOR-1
```

次に、FLOW-MONITOR-1 という名前のフローモニタの統計情報とキャッシュエントリをクリアして、強制的にエクスポートする例を示します。

```
Device# clear flow monitor name FLOW-MONITOR-1 force-export
```

次に、FLOW-MONITOR-1 という名前のフローモニタのキャッシュをクリアして、強制的にエクスポートする例を示します。

```
Device# clear flow monitor name FLOW-MONITOR-1 cache force-export
```

次に、FLOW-MONITOR-1 という名前のフローモニタの統計情報をクリアする例を示します。

```
Device# clear flow monitor name FLOW-MONITOR-1 statistics
```

clear snmp stats hosts

NMSのIPアドレス、NMSがエージェントをポーリングした回数、およびポーリングのタイムスタンプをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear snmp stats hosts** コマンドを使用します。

clear snmp stats hosts

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンド デフォルト	SNMP エージェントにポーリングされた SNMP マネージャの詳細がシステムに保存されます。	
コマンド モード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.1.1	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	clear snmp stats hosts コマンドは、SNMP エージェントにポーリングされたすべてのエントリを削除するために使用します。	

次に、**clear snmp stats hosts** コマンドの出力例を示します。

```
Device# clear snmp stats hosts
Request Count                Last Timestamp                Address
```

collect

フローモニタレコードの非キーフィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドへの値の取り込みを有効にするには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **collect** コマンドを使用します。

collect {counter | interface | timestamp | transport}

構文の説明

counter	フローレコードの非キーフィールドとしてフロー内のバイト数またはパケット数を設定します。詳細については、 <i>collect counter</i> を参照してください。
interface	入力および出力インターフェイス名をフローレコードの非キーフィールドとして設定します。詳細については、 <i>collect interface</i> を参照してください。
timestamp	フロー内の最初または最後に確認されたパケットの絶対時間をフローレコードの非キーフィールドとして設定します。詳細については、 <i>collect timestamp absolute</i> を参照してください。
transport	フローレコードからの転送TCPフラグの収集を有効にします。詳細については、 <i>collect transport tcp flags</i> を参照してください。

コマンド デフォルト

フローモニタレコードの非キーフィールドは設定されていません。

コマンド モード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

非キーフィールドの値は、フロー内のトラフィックに関する追加情報を提供するためにフローに追加されます。非キーフィールドの値の変更によって新しいフローが作成されることはありません。ほとんどの場合、非キーフィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取得されます。

collect コマンドは、フローモニタレコードの非キーフィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キーフィールドの値は、フロー内のトラフィックに関する追加情報を提供するためにフローに追加されます。非キーフィールドの値の変更によって新しいフローが作成されることはありません。ほとんどの場合、非キーフィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取得されます。



(注) **flow username** キーワードは、コマンドラインのヘルプストリングには表示されますが、サポートされていません。

次に、フローの合計バイト数を非キーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1  
Device(config-flow-record)# collect counter bytes long
```

collect counter

フローレコードの非キーフィールドとしてフロー内のバイト数またはパケット数を設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **collect counter** コマンドを使用します。フロー（カウンタ）内のバイト数またはパケット数をフローレコードの非キーフィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect counter {bytes layer2 long | bytes long | packets long}
no collect counter {bytes layer2 long | bytes long | packets long}
```

構文の説明

bytes layer2 long フローで確認されるレイヤ2のバイト数を非キーフィールドとして設定し、64 ビットカウンタを使用してフローからレイヤ2の合計バイト数を収集します。

bytes long フローで確認されるバイト数を非キーフィールドとして設定し、64 ビットカウンタを使用してフローから合計バイト数を収集します。

packets long フローで確認されるパケット数を非キーフィールドとして設定し、64 ビットカウンタを使用してフローから合計パケット数を収集します。

コマンド デフォルト

フロー内のバイト数またはパケット数は、非キーフィールドとして設定されません。

コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

collect counter bytes long コマンドは、フローで確認されるバイト数の 64 ビットカウンタを設定します。

collect counter packets long コマンドは、フローでパケットが確認されるたびに増分される 64 ビットのカウンタを設定します。64 ビットのカウンタが 0 に戻って再びカウントを開始することはまず考えられません。

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no collect counter** または **default collect counter** フローレコードコンフィギュレーションコマンドを使用します。

次に、フローの合計バイト数を非キーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# collect counter bytes long
```

次に、フローからの合計パケット数を非キーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# collect counter packets long
```

collect flow sampler

フローサンプラー ID をレコードの非キーフィールドとして設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **collect flow sampler** コマンドを使用します。フローレコードの非キーフィールドとしてフローサンプラー ID を使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

collect flow sampler
no collect flow sampler

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

フローサンプラーは、非キーフィールドとして設定されていません。

コマンドモード

フローレコードコンフィギュレーション (config-flow-record)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

collect コマンドは、フローモニタレコードの非キーフィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キーフィールドの値は、フロー内のトラフィックに関する追加情報を提供するためにフローに追加されます。非キーフィールドの値の変更によって新しいフローが作成されることはありません。ほとんどの場合、非キーフィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取得されます。

collect flow sampler コマンドは、異なるサンプリングレートで複数のフローサンプラーを使用している場合に効果を発揮します。非キーフィールドには、フローのモニタに使用されるフローサンプラーの ID が含まれます。

例

次に、非キーフィールドとしてフローに割り当てられているフローサンプラーの ID を設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# collect flow sampler
```

関連コマンド

コマンド	説明
flow exporter	フローエクスポートを作成します。
flow record	Flexible NetFlow のフローレコードを作成します。

collect interface

フローレコードの非キーフィールドとして入力インターフェイス名を設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **collect interface** コマンドを使用します。入力インターフェイスをフローレコードの非キーフィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

collect interface input
no collect interface input

構文の説明

input 入力インターフェイス名を非キーフィールドとして設定し、フローから入力インターフェイスを収集します。

コマンドデフォルト

入力インターフェイス名は、非キーフィールドとして設定されていません。

コマンドモード

フロー レコード コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Flexible NetFlow **collect** コマンドは、フローモニタレコードの非キーフィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キーフィールドの値は、フロー内のトラフィックに関する追加情報を提供するためにフローに追加されます。非キーフィールドの値の変更によって新しいフローが作成されることはありません。ほとんどの場合、非キーフィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取得されません。

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no collect interface** または **default collect interface** フロー レコード コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次の例では、非キーフィールドとして入力インターフェイスを設定します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# collect interface input
```


collect ipv4 destination

IPv4宛先をフローレコードの非キーフィールドとして設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **collect ipv4 destination** コマンドを使用します。フローレコードの非キーフィールドとして IPv4 宛先フィールドを使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect ipv4 destination {mask | prefix} [minimum-mask mask]
no collect ipv4 destination {mask | prefix} [minimum-mask mask]
```

構文の説明	mask	IPv4 宛先マスクを非キーフィールドとして設定し、IPv4 宛先マスクの値をフローから収集できるようにします。
	prefix	IPv4 宛先のプレフィックスを非キーフィールドとして設定し、IPv4 宛先のプレフィックスの値をフローから収集できるようにします。
	minimum-mask mask	(任意) 最小マスクのサイズをビット単位で指定します。範囲: 1 ~ 32。

コマンドデフォルト IPv4 宛先は非キーフィールドとして設定されていません。

コマンドモード フローレコードコンフィギュレーション (config-flow-record)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **collect** コマンドは、フローモニタレコードの非キーフィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キーフィールドの値は、フロー内のトラフィックに関する追加情報を提供するためにフローに追加されます。非キーフィールドの値の変更によって新しいフローが作成されることはありません。ほとんどの場合、非キーフィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取得されます。

例

次に、プレフィックスが 16 ビットのフローから IPv4 宛先プレフィックスを非キーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device> enable
Device> configure terminal
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# collect ipv4 destination prefix minimum-mask 16
```

関連コマンド	コマンド	説明
	flow record	Flexible NetFlow のフローレコードを作成します。

collect ipv4 source

IPv4 送信元をフローレコードの非キーフィールドとして設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **collect ipv4 source** コマンドを使用します。フローレコードの非キーフィールドとして IPv4 送信元フィールドを使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect ipv4 source {mask|prefix} [minimum-mask mask]
no collect ipv4 source {mask|prefix} [minimum-mask mask]
```

構文の説明		
	mask	IPv4 送信元のマスクを非キーフィールドとして設定し、IPv4 送信元マスクの値をフローから収集できるようにします。
	prefix	IPv4 送信元のプレフィックスを非キーフィールドとして設定し、フローから IPv4 送信元プレフィックスの値を収集できるようにします。
	minimum-mask mask	(任意) 最小マスクのサイズをビット単位で指定します。範囲：1～32。

コマンド デフォルト IPv4 送信元フィールドは非キーフィールドとして設定されていません。

コマンド モード フローレコードコンフィギュレーション (config-flow-record)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **collect** コマンドは、フローモニタレコードの非キーフィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キーフィールドの値は、フロー内のトラフィックに関する追加情報を提供するためにフローに追加されます。非キーフィールドの値の変更によって新しいフローが作成されることはありません。ほとんどの場合、非キーフィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取得されます。

collect ipv4 source prefix minimum-mask

送信元プレフィックスは、IPv4 送信元のネットワーク部分です。オプションの最小マスクを使用すると、大規模ネットワークに関する多くの情報を収集できます。

collect ipv4 source mask minimum-mask

送信元マスクは、送信元のネットワーク部分を構成するビット数です。オプションの最小マスクでは、最小値を設定できます。このコマンドは、送信元プレフィックスフィールドに設定された最小マスクがあり、そのマスクがプレフィックスで使用される場合に役立ちます。この場合、最小マスクに設定されている値は、プレフィックスフィールドとマスクフィールドで同じである必要があります。

また、コレクタがプレフィックスフィールドの最小マスク設定を認識している場合は、最小マスクなしでマスクフィールドを設定して、実際のマスクとプレフィックスを計算できます。

例

次に、プレフィックスが 16 ビットのフローから IPv4 送信元プレフィックスを非キーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# collect ipv4 source prefix minimum-mask 16
```

関連コマンド

コマンド	説明
flow record	Flexible NetFlow のフロー レコードを作成します。

collect timestamp absolute

フロー内の最初または最後に確認されたパケットの絶対時間をフローレコードの非キーフィールドとして設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **collect timestamp absolute** コマンドを使用します。フロー内の最初または最後に確認されたパケットをフローレコードの非キーフィールドとして使用するのを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect timestamp absolute {first | last}
no collect timestamp absolute {first | last}
```

構文の説明

first フロー内の最初に確認されたパケットの絶対時間を非キーフィールドとして設定し、フローからのタイムスタンプの収集を有効にします。

last フロー内の最後に確認されたパケットの絶対時間を非キーフィールドとして設定し、フローからのタイムスタンプの収集を有効にします。

コマンド デフォルト

絶対時間フィールドは非キーフィールドとして設定されていません。

コマンド モード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

collect コマンドは、フローモニタレコードの非キーフィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キーフィールドの値は、フロー内のトラフィックに関する追加情報を提供するためにフローに追加されます。非キーフィールドの値の変更によって新しいフローが作成されることはありません。ほとんどの場合、非キーフィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取得されます。

次に、フロー内の最初に確認されたパケットの絶対時間に基づくタイムスタンプを非キーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# collect timestamp absolute first
```

次に、フロー内の最後に確認されたパケットの絶対時間に基づくタイムスタンプを非キーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# collect timestamp absolute last
```

collect transport tcp flags

フローからの転送 TCP フラグの収集をイネーブルにするには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **collect transport tcp flags** コマンドを使用します。フローからの転送 TCP フラグの収集をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

collect transport tcp flags
no collect transport tcp flags

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

トランスポート層フィールドは非キーフィールドとして設定されていません。

コマンドモード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

トランスポート層フィールドの値は、フロー内のすべてのパケットから取得されます。収集する TCP フラグを指定することはできません。転送 TCP フラグの収集のみ指定できます。すべての TCP フラグはこのコマンドで収集されます。次の転送 TCP フラグを収集します。

- **ack** : TCP 確認応答フラグ
- **cwr** : TCP 輻輳ウィンドウ縮小フラグ
- **ece** : TCP ECN エコー フラグ
- **fin** : TCP 終了フラグ
- **psh** : TCP プッシュ フラグ
- **rst** : TCP リセット フラグ
- **syn** : TCP 同期フラグ
- **urg** : TCP 緊急フラグ

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no collect collect transport tcp flags** または **default collect collect transport tcp flags** フローレコードコンフィギュレーションコマンドを使用します。

次に、フローから TCP フラグを収集する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# collect transport tcp flags
```

collect routing next-hop address

ネクストホップアドレス値を非キーフィールドとして設定し、フローからネクストホップ情報を収集するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **collect routing next-hop address** コマンドを使用します。フローレコードの非キーフィールドとして1つ以上のルーティング属性を使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

collect routing next-hop address ipv4
no collect routing next-hop address ipv4

構文の説明	ipv4	ネクストホップアドレス値がIPv4アドレスであることを指定します。
-------	-------------	-----------------------------------

コマンド デフォルト ネクストホップアドレス値が非キーフィールドとして設定されていません。

コマンド モード フローレコードコンフィギュレーション (config-flow-record)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **collect** コマンドは、フローモニタレコードの非キーフィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キーフィールドの値は、フロー内のトラフィックに関する追加情報を提供するためにフローに追加されます。非キーフィールドの値の変更によって新しいフローが作成されることはありません。ほとんどの場合、非キーフィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取得されます。

例 次に、ネクストホップアドレスを非キーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# collect routing next-hop address ipv4
```

関連コマンド	コマンド	説明
	flow record	フローレコードを作成し、Flexible NetFlow フローレコードコンフィギュレーションモードを開始します。

datalink flow monitor

インターフェイスに Flexible NetFlow フローモニタを適用するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **datalink flow monitor** コマンドを使用します。Flexible NetFlow フローモニタをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

datalink flow monitor *monitor-name* **sampler** *sampler-name* **input**
no datalink flow monitor *monitor-name* **sampler** *sampler-name* **input**

構文の説明	<i>monitor-name</i>	インターフェイスに適用するフローモニタの名前。
	sampler <i>sampler-name</i>	フローモニタ用に指定したフローサンプラーをイネーブルにします。
	input	スイッチがインターフェイスで受信するトラフィックをモニタします。

コマンドデフォルト フローモニタはイネーブルになっていません。

コマンドモード インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **datalink flow monitor** コマンドを使用してインターフェイスにフローモニタを適用する前に、**flow monitor** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用してフローモニタを作成し、**sampler** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用してフローサンプラーを作成しておく必要があります。

フローモニタ用のフローサンプラーをイネーブルにするには、事前にサンプラーを作成しておく必要があります。



(注) **datalink flow monitor** コマンドは、非 IPv4 および非 IPv6 トラフィックだけをモニタします。IPv4 トラフィックをモニタするには、**ip flow monitor** コマンドを使用します。IPv6 トラフィックをモニタするには、**ipv6 flow monitor** コマンドを使用します。

次に、インターフェイス上での Flexible NetFlow データリンク モニタリングをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# datalink flow monitor FLOW-MONITOR-1 sampler FLOW-SAMPLER-1 input
```

debug flow exporter

Flexible NetFlow フローエクスポートのデバッグ出力をイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug flow exporter** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug flow exporter [[name] exporter-name] [{error | event | packets number}]
no debug flow exporter [[name] exporter-name] [{error | event | packets number}]
```

構文の説明

name	(任意) フローエクスポートの名前を指定します。
<i>exporter-name</i>	(任意) 前に設定されたフローエクスポートの名前。
error	(任意) フローエクスポートのエラーのデバッグをイネーブルにします。
event	(任意) フローエクスポートのイベントのデバッグをイネーブルにします。
packets	(任意) フローエクスポートのパケットレベルのデバッグをイネーブルにします。
<i>number</i>	(任意) フローエクスポートのパケットレベルのデバッグでデバッグするパケット数。指定できる範囲は 1 ~ 65535 です。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、フローエクスポートのパケットがプロセス送信用のキューに格納されたことを示しています。

```
Device# debug flow exporter
May 21 21:29:12.603: FLOW EXP: Packet queued for process send
```


debug flow monitor

Flexible NetFlow フローモニタのデバッグ出力をイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug flow monitor** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug flow monitor [{error|[name] monitor-name [{cache [error]|error|packets packets}]]]
no debug flow monitor [{error|[name] monitor-name [{cache [error]|error|packets
packets}]]]
```

構文の説明

error	(任意) すべてのフローモニタまたは指定されたフローモニタのフローモニタエラーのデバッグをイネーブルにします。
name	(任意) フローモニタの名前を指定します。
<i>monitor-name</i>	(任意) 事前に設定されたフローモニタの名前。
cache	(任意) フローモニタ キャッシュのデバッグをイネーブルにします。
cache error	(任意) フローモニタ キャッシュエラーのデバッグをイネーブルにします。
packets	(任意) フローモニタのパケットレベルのデバッグをイネーブルにします。
パケット	(任意) フローモニタのパケットレベルのデバッグでデバッグするパケットの数。指定できる範囲は 1 ~ 65535 です。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、FLOW-MONITOR-1 のキャッシュが削除されたことを示しています。

```
Device# debug flow monitor FLOW-MONITOR-1 cache
May 21 21:53:02.839: FLOW MON: 'FLOW-MONITOR-1' deleted cache
```

debug flow record

Flexible NetFlow フローレコードのデバッグ出力をイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug flow record** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug flow record [{name} record-name | options {sampler-table} [{detailed | error}]]
no debug flow record [{name} record-name | options {sampler-table} [{detailed | error}]]
```

構文の説明

name	(任意) フローレコードの名前を指定します。
<i>record-name</i>	(任意) 前に設定されたユーザ定義のフローレコードの名前。
options	(任意) 他のフローレコードオプションに関する情報が含まれます。
sampler-table	(任意) サンプラーテーブルに関する情報が含まれます。
detailed	(任意) 詳細情報を表示します。
error	(任意) エラーのみを表示します。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、フローレコードのデバッグを有効にする例を示します。

```
Device# debug flow record FLOW-record-1
```

debug sampler

Flexible NetFlow サンプラーのデバッグ出力をイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug sampler** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sampler [{detailed|error|[name] sampler-name [{detailed|error|sampling samples}]]]
no debug sampler [{detailed|error|[name] sampler-name [{detailed|error|sampling}]]]
```

構文の説明

detailed	(任意) サンプラー要素の詳細デバッグをイネーブルにします。
error	(任意) サンプラー エラーのデバッグをイネーブルにします。
name	(任意) サンプラーの名前を指定します。
<i>sampler-name</i>	(任意) 前に設定されたサンプラーの名前。
sampling samples	(任意) サンプリングのデバッグをイネーブルにし、デバッグするサンプルの数を指定します。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、デバッグ プロセスが SAMPLER-1 というサンプラーの ID を取得した場合の出力例を示します。

```
Device# debug sampler detailed
*May 28 04:14:30.883: Sampler: Sampler(SAMPLER-1: flow monitor FLOW-MONITOR-1 (ip,Et1/0,0)
get ID succeeded:1
*May 28 04:14:30.971: Sampler: Sampler(SAMPLER-1: flow monitor FLOW-MONITOR-1 (ip,Et0/0,I)
get ID succeeded:1
```

description

フロー モニタ、フロー エクスポート、またはフロー レコードの説明を設定するには、該当するコンフィギュレーションモードで **description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *description*
no description *description*

構文の説明

description フロー モニタ、フロー エクスポート、またはフロー レコードを説明するテキスト文字列。

コマンド デフォルト

フロー サンプラー、フロー モニタ、フロー エクスポート、またはフロー レコードのデフォルトの説明は「ユーザ定義」です。

コマンド モード

次のコマンド モードがサポートされています。

フロー エクスポート コンフィギュレーション
 フロー モニタ コンフィギュレーション
 フロー レコード コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、該当するコンフィギュレーション モードで **no description** または **default description** コマンドを使用します。

次に、フロー モニタの説明を設定する例を示します。

```
Device(config)# flow monitor FLOW-MONITOR-1
Device(config-flow-monitor)# description Monitors traffic to 172.16.0.1 255.255.0.0
```

description (ERSPAN)

Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) 送信元セッションを説明するには、ERSPAN モニタ送信元セッション コンフィギュレーション モードで **description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *description*
no description

構文の説明

description このセッションのプロパティについて説明します。

コマンド デフォルト

説明は設定されていません。

コマンド モード

ERSPAN モニタ送信元セッション コンフィギュレーション モード (config-mon-erspan-src)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

description 引数は 240 文字以内で指定します。

例

次に、ERSPAN 送信元セッションを説明する例を示します。

```
Device(config)# monitor session 2 type erspan-source
Device(config-mon-erspan-src)# description source1
```

関連コマンド

コマンド	説明
monitor session type	ローカルの ERSPAN 送信元または宛先セッションを設定します。

destination (ERSPAN)

Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) 送信元セッションの宛先を設定するには、ERSPAN モニタ送信元セッション コンフィギュレーション モードで **destination** コマンドを使用します。宛先セッションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

destination
no destination

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

送信元セッションの宛先は設定されていません。

コマンド モード

ERSPAN モニタ送信元セッション コンフィギュレーション モード (config-mon-erspan-src)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.1.1	IPv6 ERSPAN のサポートとして、送信元セッション宛先コンフィギュレーション モードに ipv6 キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

ERSPAN トラフィックは、GRE カプセル化された SPAN トラフィックで、ERSPAN 宛先セッションによってだけ処理されます。

destination コマンドを入力すると、コマンドモードがモニタ送信元セッション コンフィギュレーション モード (config-mon-erspan-src) から送信元セッション宛先コンフィギュレーションモード (config-mon-erspan-src-dst) に切り替わります。このモードで使用できるコマンドの一覧を表示するには、システムプロンプトで疑問符 (?) を入力します。

erspan-id <i>erspan-ID</i>	ERSPAN トラフィックを識別するため、宛先セッションで使用される ID を設定します。有効な値の範囲は 1 ~ 1023 です。
exit	モニタ ERSPAN 宛先セッション送信元プロパティモードを終了します。

<p>ip { address <i>ipv4-address</i> dscp <i>dscp-value</i> ttl <i>ttl-value</i> }</p>	<p>IP プロパティを指定します。次のオプションを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• address <i>ipv4-address</i> : ERSPAN 宛先セッションの IP アドレスを設定します。すべての ERSPAN 送信元セッション（最大 8）の宛先 IP アドレスが同一である必要はありません。 <p>ERSPAN 送信元セッションの宛先 IP アドレスが（宛先スイッチ上のインターフェイスで設定される）、ERSPAN 宛先セッションが宛先ポートに送信するトラフィックの送信元です。送信元セッションおよび宛先セッションの両方に同一のアドレスを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• dscp <i>dscp-value</i> : ERSPAN トラフィックのパケットの DiffServ コードポイント (DSCP) 値を設定します。有効値は 0 ~ 63 です。 <p>DSCP 値を削除するには、このコマンドの no 形式を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none">• ttl <i>ttl-value</i> : ERSPAN トラフィックのパケットの存続可能時間 (TTL) 値を設定します。有効値は 2 ~ 255 です。 <p>TTL 値を削除するには、このコマンドの no 形式を使用します。</p>
---	---

ipv6 { address <i>ipv6-address</i> dscp <i>dscp-value</i> flow-label ttl <i>ttl-value</i> }	<p>IPv6 プロパティを指定します。次のオプションを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • address <i>ipv6-address</i> : ERSPAN 宛先セッションの IPv6 アドレスを設定します。すべての ERSPAN 送信元セッション（最大 8）の宛先 IPv6 アドレスが同一である必要はありません。 <p>ERSPAN 送信元セッションの宛先 IPv6 アドレスが（宛先スイッチ上のインターフェイスで設定される）、ERSPAN 宛先セッションが宛先ポートに送信するトラフィックの送信元です。送信元セッションおよび宛先セッションの両方に同一のアドレスを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • dscp <i>dscp-value</i> : ERSPAN トラフィックのパケットの DiffServ コードポイント (DSCP) 値を設定します。有効値は 0 ~ 63 です。 <p>DSCP 値を削除するには、このコマンドの no 形式を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • flow-label : フローラベルを設定します。有効な値は 0 ~ 1048575 です。 • ttl <i>ttl-value</i> : ERSPAN トラフィックのパケットの存続可能時間 (TTL) 値を設定します。有効値は 2 ~ 255 です。 <p>TTL 値を削除するには、このコマンドの no 形式を使用します。</p>
mtubytes	<p>ERSPAN の切り捨ての最大伝送ユニット (MTU) サイズを指定します。デフォルト値は 9000 バイトです。</p>
origin { ip address <i>ip-address</i> ipv6 address <i>ipv6-address</i> }	<p>ERSPAN トラフィックの送信元を設定します。IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを入力できます。</p>
vrfvrf-id	<p>宛先セッションの Virtual Routing and Forwarding (VRF) を設定します。VRF ID を入力します。</p>

ERSPAN トラフィックは、GRE カプセル化された SPAN トラフィックで、ERSPAN 宛先セッションによってだけ処理されます。

例

次に、ERSPAN 送信元セッションの宛先を設定し、ERSPAN モニタ宛先セッション コンフィギュレーションモードを開始して、各種プロパティを設定する例を示します。

次の例では、宛先プロパティ **ip** を指定します。

```
Device(config)# monitor session 2 type erspan-source
```



```
Device(config-mon-erspan-src)# destination
Device(config-mon-erspan-src-dst)#ip address 10.1.1.1
Device(config-mon-erspan-src-dst)#
```

次に、宛先セッションの ERSPAN ID を設定する例を示します。

```
Device(config)# monitor session 2 type erspan-source
Device(config-mon-erspan-src)# destination
Device(config-mon-erspan-src-dst)# erspan-id 3
```

次に、ERSPAN トラフィックの DSCP 値を設定する例を示します。

```
Device(config)# monitor session 2 type erspan-source
Device(config-mon-erspan-src)# destination
Device(config-mon-erspan-src-dst)# ip dscp 15
```

次に、ERSPAN トラフィックの TTL 値を設定する例を示します。

```
Device(config)# monitor session 2 type erspan-source
Device(config-mon-erspan-src)# destination
Device(config-mon-erspan-src-dst)# ip ttl 32
```

次の例では、宛先プロパティ **ipv6** を指定します。

```
Device(config)# monitor session 3 type erspan-source
Device(config-mon-erspan-src)# destination
Device(config-mon-erspan-src-dst)#ipv6 address 2001:DB8::1
Device(config-mon-erspan-src-dst)#
```

次に、ERSPAN トラフィック IPv6 の DSCP 値を設定する例を示します。

```
Device(config)# monitor session 3 type erspan-source
Device(config-mon-erspan-src)# destination
Device(config-mon-erspan-src-dst)# ipv6 dscp 10
```

次に、ERSPAN トラフィック IPv6 のフローラベル値を設定する例を示します。

```
Device(config)# monitor session 3 type erspan-source
Device(config-mon-erspan-src)# destination
Device(config-mon-erspan-src-dst)# ipv6 flow-label 6
```

次に、ERSPAN トラフィック IPv6 の TTL 値を設定する例を示します。

```
Device(config)# monitor session 3 type erspan-source
Device(config-mon-erspan-src)# destination
Device(config-mon-erspan-src-dst)# ipv6 ttl 32
```

次に、1000 バイトの MTU を指定する例を示します。

```
Device(config)# monitor session 2 type erspan-source
```

```
Device(config-mon-erspan-src)# destination
Device(config-mon-erspan-src-dst)# mtu 1000
```

次に、ERSPAN 送信元セッションの IP アドレスを設定する例を示します。

```
Switch(config)# monitor session 2 type erspan-source
Switch(config-mon-erspan-src)# destination
Switch(config-mon-erspan-src-dst)# origin ip address 192.0.2.1
```

次に、ERSPAN 送信元セッションの IPv6 アドレスを設定する例を示します。

```
Switch(config)# monitor session 3 type erspan-source
Switch(config-mon-erspan-src)# destination
Switch(config-mon-erspan-src-dst)# origin ipv6 address 2001:DB8:1::1
```

次に、宛先セッションの VRF を設定する例を示します。

```
Switch(config)# monitor session 3 type erspan-source
Switch(config-mon-erspan-src)# destination
Switch(config-mon-erspan-src-dst)# vrf vrfexample
```

次の **show monitor session all** の出力例には、送信元セッションの宛先の異なる IP アドレスが示されています。

```
Device# show monitor session all

Session 1
-----
Type : ERSPAN Source Session
Status : Admin Disabled
Description : session1
Destination IP Address : 10.1.1.1

Session 2
-----
Type : ERSPAN Source Session
Status : Admin Disabled
Description : session2
Destination IP Address : 192.0.2.1

Session 3
-----
Type : ERSPAN Source Session
Status : Admin Disabled
Description : session3
Destination IP Address : 198.51.100.1

Session 4
-----
Type : ERSPAN Source Session
Status : Admin Disabled
Description : session4
Destination IP Address : 203.0.113.1

Session 5
-----
Type : ERSPAN Source Session
```

Status : Admin Disabled
Description : session5
Destination IP Address : 209.165.200.225

関連コマンド

コマンド	説明
monitorsession type	ローカルの ERSPAN 送信元または宛先セッションを設定します。

destination

フロー エクスポートのエクスポート宛先を設定するには、フロー エクスポート コンフィギュレーションモードで **destination** コマンドを使用します。フロー エクスポートのエクスポート宛先を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
destination {hostnameip-address} vrf vrf-label
no destination {hostnameip-address} vrf vrf-label
```

構文の説明

hostname NetFlow 情報を送信するデバイスのホスト名。

ip-address NetFlow 情報を送信するワークステーションの IPv4 アドレス。

vrf (任意) エクスポート データ パケットをグローバルルーティング テーブルではなく、名前付きバーチャルプライベート ネットワーク (VPN) ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスに送信して、宛先にルーティングするように指定します。

vrf-label VRF インスタンスの名前。

コマンド デフォルト

エクスポート宛先は設定されていません。

コマンド モード

フロー エクスポート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

各フロー エクスポートには、宛先アドレスまたはホスト名を1つのみ指定できます。

デバイスの IP アドレスの代わりに、ホスト名を設定すると、ホスト名は直ちに解決され、IPv4 アドレスが実行コンフィギュレーションに保存されます。ドメインネームシステム (DNS) の最初の名前解決に使用されたホスト名と IP アドレスのマッピングが DNS サーバ上で動的に変わる場合は、デバイスでこれが検出されないため、エクスポートされたデータは最初の IP アドレスに送信され続け、データは失われます。

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、フロー エクスポート コンフィギュレーションモードで **no destination** または **default destination** コマンドを使用します。

次の例に、宛先システムに Flexible NetFlow キャッシュエントリをエクスポートするようにネットワークデバイスを設定する方法を示します。

```
Device(config)# flow exporter FLOW-EXPORTER-1
Device(config-flow-exporter)# destination 10.0.0.4
```

次の例に、VRF-1 という名前の VRF を使用して宛先システムに Flexible NetFlow キャッシュエントリをエクスポートするようにネットワークデバイスを設定する方法を示します。

```
Device(config)# flow exporter FLOW-EXPORTER-1  
Device(config-flow-exporter)# destination 172.16.0.2 vrf VRF-1
```

dscp

フロー エクスポート データグラム の Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServ コードポイント) の値を設定するには、フロー エクスポート コンフィギュレーション モードで **dscp** コマンドを使用します。フロー エクスポート データグラム の DSCP 値を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dscp *dscp*
no dscp *dscp*

構文の説明

dscp エクスポートされたデータグラムの DSCP フィールドで使用される DSCP。指定できる範囲は 0 ~ 63 です。デフォルトは 0 です。

コマンド デフォルト

Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServ コードポイント) 値は 0 です。

コマンド モード

フロー エクスポート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no dscp** または **default dscp** フロー エクスポート コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、エクスポートされたデータグラムの DSCP フィールドの値を 22 に設定する例を示します。

```
Device(config)# flow exporter FLOW-EXPORTER-1
Device(config-flow-exporter)# dscp 22
```

et-analytics

グローバル **et-analytics** コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **et-analytics** コマンドを使用します。

et-analytics

構文の説明	et-analytics	グローバル et-analytics コンフィギュレーション モードを開始します。
コマンド デフォルト	ディセーブル	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション (config)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例 :

次に、**et-analytics** コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
Device>enable
Device#configure terminal
Device(config)# et-analytics
```

et-analytics enable

特定のインターフェイスで **et-analytics** 設定を有効にするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **et-analytics enable** コマンドを使用します。 **et-analytics** をディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

et-analytics enable
no et-analytics enable

構文の説明	et-analytics enable	特定のインターフェイス上で et-analytics イネーブルにします。
コマンド デフォルト	ディセーブル	
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例：

次に、インターフェイス GigabitEthernet1/0/2 で **et-analytics** を有効にする例を示します。

```
Device>enable
Device#configure terminal
Device(config)# interface g11/0/2
Device(config-if)# et-analytics enable
```


event manager applet

Embedded Event Manager (EEM) にアプレットを登録してアプレットコンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **event manager applet** コマンドを使用します。アプレットを登録解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

event manager applet *applet-name* [**authorization bypass**] [**class class-options**] [**trap**]
no event manager applet *applet-name* [**authorization bypass**] [**class class-options**] [**trap**]

構文の説明

<i>applet-name</i>	アプレット ファイルの名前。
authorization	(任意) アプレットの AAA 許可タイプを指定します。
bypass	(任意) EEM の AAA 許可タイプのバイパスを指定します。
class	(任意) EEM ポリシー クラスを指定します。
<i>class-options</i>	(任意) EEM ポリシー クラス。次のいずれかを指定できます： <ul style="list-style-type: none"> • <i>class-letter</i> : 各ポリシークラスを識別する A～Z の文字。任意の <i>class-letter</i> を 1 つ指定できます。 • default : デフォルトクラスに登録されたポリシーを指定します。
trap	(任意) ポリシーがトリガーされたときに簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップを生成します。

コマンド デフォルト EEM アプレットは登録されません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (**config**)

コマンド履歴

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン EEM アプレットは、イベントスクリーニング基準とイベント発生時に実行するアクションを定義する簡潔な方法です。

アプレットコンフィギュレーションでは、**event** コンフィギュレーション コマンドを 1 つだけ使用できます。アプレットコンフィギュレーションサブモードが終了し、**event** コマンドが存在しない場合は、アプレットにイベントが関連付けられていないことを示す警告が表示されません。イベントが指定されていない場合、このアプレットは登録されたと判断されないため、アプレットは表示されません。このアプレットにアクションが割り当てられない場合、イベントはトリガーされますが、アクションは実行されません。1 つのアプレットコンフィギュレーション内で複数の **action** アプレットコンフィギュレーション コマンドが使用できます。登録

済みのアプレットを表示するには、**show event manager policy registered** コマンドを使用します。

アプレット コンフィギュレーション モードを終了しないと既存のアプレットが置き換えられないため、EEM アプレットを変更する前に、このコマンドの **no** 形式を使用して登録を解除します。アプレット コンフィギュレーション モードでアプレットを修正中であっても、既存のアプレットを実行できます。アプレット コンフィギュレーション モードを終了すると、古いアプレットが登録解除され、新しいバージョンが登録されます。



- (注) 部分的な変更は行わないでください。EEM は、すでに登録されているポリシーの部分的な変更をサポートしません。EEM ポリシーは、変更で再登録する前に、常に登録解除する必要があります。

action コンフィギュレーション コマンドは、**label** 引数を使用することで一意に識別できます。**label** 引数には任意の文字列値が使用できます。アクションは、**label** 引数をソートキーとして、英数字のキーの昇順にソートされ、この順序で実行されます。

EEM は、ポリシー自体に含まれているイベントの指定内容に基づいて、ポリシーをスケジューリングおよび実行します。アプレット コンフィギュレーション モードが終了するとき、EEM は、入力された **event** コマンドと **action** コマンドを検査し、指定されたイベントの発生時に実行されるようにアプレットを登録します。

EEM ポリシーは、登録されたときに **class class-letter** が指定されている場合はクラスに割り当てられます。クラスなしで登録された EEM ポリシーは、**default** クラスに割り当てられます。**default** をクラスとして保持するスレッドは、スレッドが作業に利用可能であるとき、デフォルトクラスにサービスを提供します。特定のクラス文字に割り当てられたスレッドは、スレッドが作業に利用可能であるとき、クラス文字が一致する任意のポリシーをサービスします。

EEM 実行スレッドが、指定されたクラスのポリシー実行に利用可能でない場合で、クラスのスケジューラールールが設定されている場合は、ポリシーは該当クラスのスレッドが実行可能になるまで待ちます。同じ入力イベントからトリガーされた同期ポリシーは、同一の実行スレッドにスケジューラールールされなければなりません。ポリシーは、**queue priority** をキューイング順序として使用し、各クラスの別々のキューにキューイングされます。

ポリシーがトリガーされると、AAA が設定されている場合は、許可のために AAA サーバに接続します。**authorization bypass** キーワードの組み合わせを使用して、AAA サーバへの接続をスキップし、ポリシーをただちに実行することができます。EEM は、AAA バイパス ポリシー名をリストに保存します。このリストは、ポリシーがトリガーされたときに検査されます。一致が見つかった場合、AAA 許可はバイパスされます。

EEM ポリシーによって設定されたコマンドの許可を避けるために、EEM は AAA が提供する名前付き方式リストを使用します。これらの名前付き方式リストは、コマンド許可を持たないように設定できます。

次に、AAA の設定例を示します。

この設定は、192.168.10.1 のポート 10000 に TACACS+ サーバを想定しています。TACACS+ サーバがイネーブルでない場合、コンフィギュレーションコマンドは、コンソールで許可されます。ただし、EEM ポリシーとアプレット CLI の相互作用は失敗します。

```
enable password lab
aaa new-model
tacacs-server host 128.107.164.152 port 10000
tacacs-server key cisco
aaa authentication login consoleline none
aaa authorization exec consoleline none
aaa authorization commands 1 consoleline none
aaa authorization commands 15 consoleline none
line con 0
  exec-timeout 0 0
  login authentication consoleline
aaa authentication login default group tacacs+ enable
aaa authorization exec default group tacacs+
aaa authorization commands 1 default group tacacs+
aaa authorization commands 15 default group tacacs+
```

authorization キーワード、**class** キーワード、**trap** キーワードは任意の組み合わせで使用できます。

例

次に、IPSLAping1 という名前の EEM アプレットが登録され、指定された SNMP オブジェクト ID の値と完全一致する（正常な IP SLA ICMP エコー動作を表す）場合に実行される例を示します（これは **ping** コマンドに相当します）。エコー操作が失敗した場合は 4 つのアクションがトリガーされ、イベント モニタリングは 2 回目の失敗後までディセーブルにされます。サーバへの ICMP エコー動作が失敗したことを示すメッセージが **syslog** に送信され、SNMP トラップが生成され、EEM はアプリケーション固有のイベントをパブリッシュし、IPSLA1F というカウンタが値 1 で増分されます。

```
Router(config)# event manager applet IPSLAping1
Router(config-applet)# event snmp oid 1.3.6.1.4.1.9.9.42.1.2.9.1.6.4 get-type exact
entry-op eq entry-val 1 exit-op eq exit-val 2 poll-interval 5
Router(config-applet)# action 1.0 syslog priority critical msg "Server IP echo failed:
OID=$_snmp_oid_val"
Router(config-applet)# action 1.1 snmp-trap strdata "EEM detected server reachability
failure to 10.1.88.9"
Router(config-applet)# action 1.2 publish-event sub-system 88000101 type 1 arg1 10.1.88.9
arg2 IPSLAEcho arg3 fail
Router(config-applet)# action 1.3 counter name _IPSLA1F value 1 op inc
```

次に、名前 **one**、クラス **A** でアプレットを登録し、タイマー イベント デテクタが 10 秒ごとにイベントをトリガーするアプレット コンフィギュレーションモードを開始する例を示します。イベントがトリガーされると、**action syslog** コマンドにより、**syslog** にメッセージ「hello world」が書き込まれます。

```
Router(config)# event manager applet one class A
Router(config-applet)# event timer watchdog time 10
Router(config-applet)# action syslog syslog msg "hello world"
Router(config-applet)# exit
```

次に、名前 **one**、クラス **A** でアプレットを登録するときに、AAA 許可をバイパスする例を示します。

```
Router(config)# event manager applet one class A authorization bypass
Router(config-applet)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show event manager policy registered	登録されている EEM ポリシーを表示します。

export-protocol netflow-v9

NetFlow バージョン 9 エクスポートを Flexible NetFlow エクスポートのエクスポートプロトコルとして設定するには、フローエクスポート コンフィギュレーションモードで **export-protocol netflow-v9** コマンドを使用します。

export-protocol netflow-v9

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

NetFlow バージョン 9 がイネーブルです。

コマンド モード

フロー エクスポート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバイスは NetFlow v5 エクスポートフォーマットをサポートしていません。NetFlow v9 エクスポートフォーマットのみがサポートされています。

次の例では、NetFlow バージョン 9 エクスポートを NetFlow エクスポートのエクスポートプロトコルとして設定します。

```
Device(config)# flow exporter FLOW-EXPORTER-1
Device(config-flow-exporter)# export-protocol netflow-v9
```

export-protocol netflow-v5

NetFlow バージョン 5 エクスポートを Flexible NetFlow エクスポートのエクスポートプロトコルとして設定するには、フローエクスポート コンフィギュレーションモードで **export-protocol netflow-v5** コマンドを使用します。

export-protocol netflow-v5

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

NetFlow バージョン 5 がイネーブルです。

コマンド モード

フロー エクスポート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

exporter

フローモニタのフローエクスポートを追加するには、適切なコンフィギュレーションモードで **exporter** コマンドを使用します。フローモニタ用のフローエクスポートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

exporter *exporter-name*
no exporter *exporter-name*

構文の説明	<i>exporter-name</i> 事前に設定したフローエクスポートの名前
-------	--

コマンドデフォルト	エクスポートは設定されていません。
-----------	-------------------

コマンドモード	フロー モニタ コンフィギュレーション
---------	---------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **exporter** コマンドを使用してフローモニタにフローエクスポートを適用するには、**flow exporter** コマンドを使用して事前にフローエクスポートを作成しておく必要があります。

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no exporter** または **default exporter** フロー モニタ コンフィギュレーション コマンドを使用します。

例

次の例では、フローモニタのエクスポートを設定します。

```
Device(config)# flow monitor FLOW-MONITOR-1
Device(config-flow-monitor)# exporter EXPORTER-1
```

fconfigure

チャンネルのオプションを指定するには、TCL コンフィギュレーション モードで **fconfigure** コマンドを使用します。

fconfigure *channel-name remote* [*host port*] **broadcast** *boolean* **vrf** *vrf-table-name*

構文の説明

remote	リモートセッションを設定します。IPv4アドレスとIPv6アドレスの両方をサポートします。
broadcast	ブロードキャストを有効または無効にします。オプションの値は適切なブール値である必要があります。
vrf	指定されたソケットのローカル VRF テーブル名を返します。指定されたソケットに VRF テーブルが設定されていない場合、TCL_ERROR が返され、「No VRF table configured」がインタープリタの結果に追加されます。

コマンド デフォルト

コマンド モード

TCL コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1	myvrf キーワードが導入されました。

filter (ERSPAN)

Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) 送信元がトランクポートの場合に、ERSPAN 送信元 VLAN フィルタリングを設定するには、ERSPAN モニタ送信元セッション コンフィギュレーションモードで **filter** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
filter {ip access-group {standard-access-list extended-access-list acl-name} | ipv6 access-group
acl-name | mac access-group acl-name | sgt sgt-id [{,}] [-]} | vlan vlan-id[{,}] [-]}
no filter {ip [{access-group | [{ standard-access-list extended-access-list acl-name}]}] | ipv6
[{access-group}] | mac [{access-group}] | sgt sgt-id [{,}] [-]} | vlan vlan-id[{,}] [-]}
```

構文の説明

ip	IP アクセス制御ルールを指定します。
access-group	アクセス制御グループを指定します。
<i>standard-access-list</i>	標準 IP アクセスリスト。
<i>extended-access-list</i>	拡張 IP アクセスリスト。
<i>acl-name</i>	アクセスリスト名。
ipv6	IPv6 アクセス制御ルールを指定します。
mac	Media Access Control (MAC) ルールを指定します。
sgt sgt-ID	セキュリティグループタグ (SGT) を指定します。有効値は 1 ~ 65535 です。
vlan vlan-ID	ERSPAN 送信元 VLAN を指定します。有効な値は 1 ~ 4094 です。
,	(任意) 別の VLAN を指定します。
-	(任意) VLAN の範囲を指定します。

コマンド デフォルト

送信元 VLAN フィルタリングは設定されていません。

コマンド モード

ERSPAN モニタ送信元セッション コンフィギュレーション モード (config-mon-erspan-src)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	sgt キーワードが導入されました。

使用上のガイドライン

送信元 VLAN とフィルタ VLAN を同じセッションに含めることはできません。

モニタされたトランクインターフェイス上で **filter** コマンドを設定した場合、指定された VLAN セット上のトラフィックだけがモニタされます。

例

次に、送信元 VLAN フィルタリングを設定する例を示します。

```
Device(config)# monitor session 2 type erspan-source  
Device(config-mon-erspan-src)# filter vlan 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
monitor session type	ローカルの ERSPAN 送信元または宛先セッションを設定します。

flow exporter

Flexible NetFlow フローエクスポートを作成するか既存の Flexible NetFlow フローエクスポートを変更し、Flexible NetFlow フローエクスポート コンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **flow exporter** コマンドを使用します。Flexible NetFlow フローエクスポートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

flow exporter *exporter-name*
no flow exporter *exporter-name*

構文の説明

exporter-name 作成または変更するフローエクスポートの名前。

コマンド デフォルト

Flexible NetFlow フローエクスポートは、コンフィギュレーション内には存在しません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローエクスポートでは、フロー モニタ キャッシュ内のデータをリモートシステム（たとえば、分析および保管のために NetFlow コレクタを実行するサーバ）にエクスポートします。フローエクスポートは、コンフィギュレーションで別のエンティティとして作成されます。フローエクスポートは、フローモニタにデータエクスポート機能を提供するためにフローモニタに割り当てられます。複数のフローエクスポートを作成して、1つまたは複数のフローモニタに適用すると、いくつかのエクスポート先を指定することができます。1つのフローエクスポートを作成し、いくつかのフローモニタに適用することができます。

例

次に、FLOW-EXPORTER-1 という名前のフローエクスポートを作成し、Flexible NetFlow フローエクスポート コンフィギュレーションモードを開始する例を示します。

```
Device(config)# flow exporter FLOW-EXPORTER-1
Device(config-flow-exporter)#
```

flow monitor

フローモニタを作成するか、または既存のフローモニタを変更して、フロー モニタ コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **flow monitor** コマンドを使用します。フローモニタを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

flow monitor *monitor-name*
no flow monitor *monitor-name*

構文の説明

monitor-name 作成または変更するフローモニタの名前。

コマンド デフォルト

Flexible NetFlow フローモニタは、コンフィギュレーション内には存在しません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローモニタは Flexible NetFlow のネットワークトラフィックの監視を実行するコンポーネントで、インターフェイスに適用されます。フローモニタは、フローレコードとキャッシュで構成されます。フローモニタを作成した後に、フローモニタにレコードを追加します。フローモニタのキャッシュは、フローモニタが最初のインターフェイスに適用されると自動的に作成されます。フローデータは、モニタリングプロセス中にネットワークトラフィックから収集されます。このデータ収集は、フローモニタのレコード内のキーフィールドおよび非キーフィールドに基づいて実行され、フローモニタのキャッシュに保存されます。

例

次の例では、FLOW-MONITOR-1 という名前のフローモニタを作成し、フロー モニタ コンフィギュレーション モードを開始します。

```
Device(config)# flow monitor FLOW-MONITOR-1
Device(config-flow-monitor)#
```

flow record

Flexible NetFlow フローレコードを作成するか既存の Flexible NetFlow フローレコードを変更し、Flexible NetFlow フローレコード コンフィギュレーションモードを開始するには、グローバル コンフィギュレーションモードで **flow record** コマンドを使用します。Flexible NetFlow レコードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

flow record *record-name*
no flow record *record-name*

構文の説明

record-name 作成または変更するフローレコードの名前。

コマンド デフォルト

Flexible NetFlow フローレコードは設定されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードでは、フロー内のパケットを識別するために Flexible NetFlow で使用するキーとともに、Flexible NetFlow がフローについて収集する他の関連フィールドを定義します。キーと関連フィールドを任意の組み合わせで指定して、フローレコードを定義できます。デバイスは、幅広いキーセットをサポートします。フローレコードでは、フロー単位で収集するカウンタのタイプも定義します。64 ビットのパケットまたはバイトカウンタを設定できます。

例

次に、FLOW-RECORD-1 という名前のフローレコードを作成し、Flexible NetFlow フローレコード コンフィギュレーションモードを開始する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)#
```

header-type

カプセル化の ERSPAN ヘッダタイプを設定するには、ERSPAN モニタ送信元セッション コンフィギュレーションモードで **header-type** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
header-type header-type
no header-type header-type
```

構文の説明	<i>header-type</i> ERSPANヘッダタイプ。有効なヘッダタイプは2および3です。
-------	--

コマンド デフォルト	ERSPAN ヘッダタイプは2に設定されています。
------------	---------------------------

コマンド モード	ERSPAN モニタ送信元セッション コンフィギュレーション モード (config-mon-erspan-src)
----------	--

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが導入されました。

例

次に、ERSPAN ヘッダタイプを3に変更する例を示します。

```
Device(config)# monitor session 2 type erspan-source
Device(config-mon-erspan-src)# header-type 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
monitor session type	ローカルのERSPAN送信元または宛先セッションを設定します。

inactive time

et-analytics 非アクティブタイマー値を設定するには、et-analytics コンフィギュレーションモードで **inactive time seconds** コマンドを使用します。タイマー設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

inactive time *seconds*
no inactive time *seconds*

構文の説明	inactive time	非アクティブタイマー値を設定します。
	<i>seconds</i>	秒単位のタイマーの値。範囲は 1 ~ 604800 で、デフォルトは 60 秒です。
コマンド デフォルト	ディセーブル	
コマンド モード	et-analytics 設定 (config-et-analytics)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例 :

次に、非アクティブタイマーを 10 秒に設定する例を示します。

```
Device>enable
Device#configure terminal
Device(config)# et-analytics
Device(config-et-analytics)# inactive time 10
```

ip flow-export destination

グローバルコレクタの宛先 IP アドレスを設定するには、**et-analytics** コンフィギュレーションモードで **ip flow-export destination ip_address port** コマンドを使用します。コレクタの宛先 IP アドレスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip flow-export destination ip_address port
no ip flow-export destination ip_address port

構文の説明	ip flow-export destination	グローバルコレクタの宛先 IP アドレスとポートを設定します。
	<i>ip_address</i>	宛先の IP アドレス。
	<i>port</i>	宛先ポート。
コマンド デフォルト	ディセーブル	
コマンド モード	et-analytics 設定 (config-et-analytics)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例：

次に、フローエクスポートの宛先 IP アドレスを 10.1.1.1 に、ポートを 2055 に設定する例を示します。

```
Device>enable
Device#configure terminal
Device(config)# et-analytics
Device(config-et)# ip flow-export destination 10.1.1.1 2055
```


ip wccp

Web キャッシュサービスをイネーブルにし、アプリケーションエンジンで定義されたダイナミックサービスに対応するサービス番号を指定するには、デバイスで **ip wccp** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用します。サービスをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip wccp {web-cache | service-number} [group-address groupaddress] [group-list access-list]
[redirect-list access-list] [password encryption-number password]
no ip wccp {web-cache | service-number} [group-address groupaddress] [group-list
access-list] [redirect-list access-list] [password encryption-number password]
```

構文の説明

web-cache	Web キャッシュサービスを指定します (WCCP バージョン 1 とバージョン 2)。
<i>service-number</i>	ダイナミック サービス ID。このサービスの定義は、キャッシュによって示されます。ダイナミック サービス番号は 0 ~ 254 の範囲で指定できます。サービスの最大数 (web-cache キーワードで指定する Web キャッシュサービスを含む) は 256 です。
group-address <i>groupaddress</i>	(任意) サービスグループに参加するためにデバイスおよびアプリケーションエンジンが使用するマルチキャストグループアドレスを指定します。
group-list <i>access-list</i>	(任意) マルチキャストグループアドレスが使用されない場合、サービスグループに加入しているアプリケーションエンジンに対応する有効な IP アドレスのリストを指定します。
redirect-list <i>access-list</i>	(任意) ホストから特定のホストまたは特定のパケットのリダイレクトサービスを指定します。
password <i>encryption-number</i> <i>password</i>	(任意) 暗号化番号を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 7 です。暗号化しない場合は 0、独自の場合は 7 を使用します。また、7 文字以内でパスワード名を指定します。デバイスは、パスワードと MD5 認証値を組み合わせて、デバイスとアプリケーションエンジンとの接続にセキュリティを確保します。デフォルトでは、パスワードは設定されておらず、認証も実行されていません。

コマンドデフォルト

WCCP サービスがデバイスでイネーブルにされていません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

シスコ エクスプレス フォワーディング スイッチングがイネーブルのとき、WCCP の透過的 キャッシングはネットワーク アドレス変換 (NAT) をバイパスします。この状況に対処するには、発信方向で WCCP 透過キャッシングを設定し、コンテンツ エンジン インターフェイスで Cisco Express Forwarding スイッチングを有効にし、**ip wccp web-cache redirect out** コマンドを指定します。キャッシュに面するルータ インターフェイスで **ip wccp redirect exclude in** コマンドを指定し、内部インターフェイスの着信方向に WCCP を設定します。この設定は、そのインターフェイスに到着したパケットのリダイレクションを回避します。

サービス グループを設定するときにリダイレクト リストを含めることもできます。指定されたリダイレクト リストは、NAT (送信元) IP アドレスを含むパケットを拒否して、リダイレクションを阻止します。

このコマンドは、指定されたサービス番号または Web キャッシュサービス名のサポートをイネーブルまたはディセーブルにするようデバイスに指示します。サービス番号は 0 ~ 254 の範囲で指定できます。サービス番号または名前がイネーブルになると、ルータはサービスグループの確立に参加できます。

no ip wccp コマンドが入力されると、デバイスはサービスグループへの参加を終了し、引き続きサービスが設定されているインターフェイスがなければ領域の割り当てを解除し、他のサービスが設定されていない場合は WCCP タスクを終了します。

web-cache に続くキーワードと *service-number* 引数はオプションで、任意の順序で指定できますが、1 回しか指定できません。

例

次に、Web キャッシュ、アプリケーション エンジンまたはサーバに接続されたインターフェイス、およびクライアントに接続するインターフェイスを設定する例を示します。

```
Device(config)# ip wccp web-cache
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# no switchport
Device(config-if)# ip address 172.20.10.30 255.255.255.0
Device(config-if)# no shutdown
Device(config-if)# exit
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/2
Device(config-if)# no switchport
Device(config-if)#
*Dec 6 13:11:29.507: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet1/0/3, changed state to
down

Device(config-if)# ip address 175.20.20.10 255.255.255.0
Device(config-if)# no shutdown
Device(config-if)# ip wccp web-cache redirect in
Device(config-if)# ip wccp web-cache group-listen
Device(config-if)# exit
```

ip flow monitor

デバイスが受信する IPv4 トラフィックの Flexible NetFlow フローモニタをイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ip flow monitor** コマンドを使用します。フローモニタをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip flow monitor *monitor-name* [**sampler** *sampler-name*] **input**
no ip flow monitor *monitor-name* [**sampler** *sampler-name*] **input**

構文の説明	<i>monitor-name</i>	インターフェイスに適用するフローモニタの名前。
	sampler <i>sampler-name</i>	(任意) フローモニタ用に指定したフローサンプラーの名前をイネーブルにします。
	input	デバイスがインターフェイスで受信する IPv4 トラフィックをモニタします。
コマンドデフォルト	フローモニタはイネーブルになっていません。	
コマンドモード	インターフェイス コンフィギュレーション	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **ip flow monitor** コマンドを使用して、任意のインターフェイスにフローモニタを適用するには、事前に **flow monitor** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、フローモニタを作成しておく必要があります。

フローモニタにサンプラーを追加すると、その名前付きサンプラーによって選択されたパケットだけがキャッシュに保存され、フローを形成します。サンプラーを使用するたびに、その使用に対応する統計情報が別個に保存されます。

インターフェイスですでにイネーブルになっているフローモニタにサンプラーを追加することはできません。まず、そのフローモニタをインターフェイスから削除してから、同じフローモニタをサンプラーとともに追加する必要があります。



(注) 想定される使用状況を得るには、各フローの統計情報をスケールする必要があります。たとえば、100 パケットにつき 1 パケットをサンプリングするサンプラーを使用した場合は、パケットカウンタとバイトカウンタを 100 倍する必要があります。

次に、入力トラフィックのモニタリングのためにフローモニタをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# ip flow monitor FLOW-MONITOR-1 input
```

次に、サンプラーによってサンプリングされる入力パケット数を制限した状態で、入力トラフィックをモニタするようにフローモニタをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# ip flow monitor FLOW-MONITOR-1 sampler SAMPLER-1 input
```

次の例では、サンプラーなしでインターフェイスでイネーブルになっているフローモニタにサンプラーを追加する場合の動作を示します。

```
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# ip flow monitor FLOW-MONITOR-1 sampler SAMPLER-2 input
% Flow Monitor: Flow Monitor 'FLOW-MONITOR-1' is already on in full mode and cannot be
enabled with a sampler.
```

次の例では、フローモニタをサンプラーと一緒にイネーブルにできるようにするために、インターフェイスからいったん削除する方法を示します。

```
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# no ip flow monitor FLOW-MONITOR-1 input
Device(config-if)# ip flow monitor FLOW-MONITOR-1 sampler SAMPLER-2 input
```

ipv6 flow monitor

デバイスが受信する IPv6 トラフィックのフローモニタをイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ipv6 flow monitor** コマンドを使用します。フローモニタをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ipv6 flow monitor *monitor-name* [**sampler** *sampler-name*] **input**
no ipv6 flow monitor *monitor-name* [**sampler** *sampler-name*] **input**

構文の説明

<i>monitor-name</i>	インターフェイスに適用するフローモニタの名前。
sampler <i>sampler-name</i>	(任意) フローモニタ用に指定したフローサンプラーの名前をイネーブルにします。
input	デバイスがインターフェイスで受信する IPv6 トラフィックをモニタします。

コマンドデフォルト

フローモニタはイネーブルになっていません。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ipv6 flow monitor コマンドを使用して、任意のインターフェイスにフローモニタを適用するには、事前に **flow monitor** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、フローモニタを作成しておく必要があります。

フローモニタにサンプラーを追加すると、その名前付きサンプラーによって選択されたパケットだけがキャッシュに保存され、フローを形成します。サンプラーを使用するたびに、その使用に対応する統計情報が別個に保存されます。

インターフェイスですでにイネーブルになっているフローモニタにサンプラーを追加することはできません。まず、そのフローモニタをインターフェイスから削除してから、同じフローモニタをサンプラーとともに追加する必要があります。



- (注) 想定される使用状況を得るには、各フローの統計情報をスケールする必要があります。たとえば、100 パケットにつき 1 パケットをサンプリングするサンプラーを使用した場合は、パケットカウンタとバイトカウンタを 100 倍する必要があります。

次に、入力トラフィックのモニタリングのためにフローモニタをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# ipv6 flow monitor FLOW-MONITOR-1 input
```

次に、サンプラーによってサンプリングされる入力パケット数を制限した状態で、入力トラフィックをモニタするようにフローモニタをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# ipv6 flow monitor FLOW-MONITOR-1 sampler SAMPLER-1 input
```

次の例では、サンプラーなしでインターフェイスでイネーブルになっているフローモニタにサンプラーを追加する場合の動作を示します。

```
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# ipv6 flow monitor FLOW-MONITOR-1 sampler SAMPLER-2 input
% Flow Monitor: Flow Monitor 'FLOW-MONITOR-1' is already on in full mode and cannot be
enabled with a sampler.
```

次の例では、フローモニタをサンプラーと一緒にイネーブルにできるようにするために、インターフェイスからいったん削除する方法を示します。

```
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# no ipv6 flow monitor FLOW-MONITOR-1 input
Device(config-if)# ipv6 flow monitor FLOW-MONITOR-1 sampler SAMPLER-2 input
```

match datalink ethertype

パケットの EtherType をフローレコードのキーフィールドとして設定するには、フローレコード コンフィギュレーション モードで **match datalink ethertype** コマンドを使用します。パケットの EtherType をフローレコードのキーフィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match datalink ethertype
no match datalink ethertype

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

パケットの EtherType はキーフィールドとして設定されません。

コマンド モード

フローレコード コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

match datalink ethertype コマンドを使用して、パケットの EtherType をフローレコードのキーフィールドとして設定すると、トラフィックフローは、インターフェイスに割り当てられたフローモニタのタイプに基づいて作成されます。

- **datalink flow monitor** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、データリンクフローモニタがインターフェイスに割り当てられると、異なるレイヤ2 プロトコルに対して一意のフローが作成されます。
- **ip flow monitor** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、IP フローモニタがインターフェイスに割り当てられると、異なる IPv4 プロトコルに対して一意のフローが作成されます。
- **ipv6 flow monitor** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、IPv6 フローモニタがインターフェイスに割り当てられると、異なる IPv6 プロトコルに対して一意のフローが作成されます。

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no match datalink ethertype** または **default match datalink ethertype** フローレコード コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次の例では、パケットの EtherType を Flexible NetFlow フローレコードのキーフィールドとして設定しています。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match datalink ethertype
```

match datalink mac

フローレコードのキーフィールドとして MAC アドレスを使用するように設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match datalink mac** コマンドを使用します。フローレコードのキーフィールドとして MAC アドレスを使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match datalink mac {destination address input|source address input}
no match datalink mac {destination address input|source address input}
```

構文の説明

destination address	キーフィールドとして宛先 MAC アドレスを使用するように設定します。
input	入力パケットの MAC アドレスを指定します。
source address	キーフィールドとして送信元 MAC アドレスを使用するように設定します。

コマンドデフォルト

MAC アドレスは、キーフィールドとして設定されていません。

コマンドモード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

input キーワードを使用して、**match datalink mac** コマンドで使用する観測ポイントを指定し、ネットワークトラフィックの一意の MAC アドレスに基づいてフローを作成します。



- (注) データリンクフローモニタがインターフェイスまたは VLAN レコードに割り当てられている場合、非 IPv6 または非 IPv4 トラフィック用のフローだけが作成されます。

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no match datalink mac** または **default match datalink mac** フローレコードコンフィギュレーションコマンドを使用します。

次の例では、フローレコードのキーフィールドとして、デバイスによって受信されるパケットの宛先 MAC アドレスを使用するように設定します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match datalink mac destination address input
```


match datalink vlan

VLAN ID をフローレコードのキーフィールドとして設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match datalink vlan** コマンドを使用します。VLAN ID をフローレコードのキーフィールドとして使用することを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match datalink vlan input
no match datalink vlan input

構文の説明

input デバイスが受信しているトラフィックの VLAN ID をキーフィールドとして設定します。

コマンド デフォルト

VLAN ID はキーフィールドとして設定されていません。

コマンド モード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

input キーワードは **match datalink vlan** コマンドがネットワークトラフィックに固有の VLAN ID に基づいてフローを作成するための観測点を指定するために使用されます。

次に、デバイスが受信しているトラフィックの VLAN ID をフローレコードのキーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match datalink vlan input
```

match flow cts

フローレコードの CTS 送信元グループタグおよび宛先グループタグを設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match flow cts** コマンドを使用します。グループタグをフローレコードのキーフィールドとして使用することを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match flow cts {source | destination} group-tag
no match flow cts {source | destination} group-tag

構文の説明	cts destination group-tag	CTS 宛先フィールドグループをキーフィールドとして設定します。
	cts source group-tag	CTS 送信元フィールドグループをキーフィールドとして設定します。
コマンドデフォルト	CTS 宛先または送信元フィールドグループ、フロー方向およびフローサンプラー ID は、キーフィールドとして設定されていません。	
コマンドモード	Flexible NetFlow フローレコードコンフィギュレーション (config-flow-record) ポリシーインラインコンフィギュレーション (config-if-policy-inline)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	<p>フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、match コマンドを使用して定義されます。</p> <p>次に、送信元グループタグをキーフィールドとして設定する例を示します。</p> <pre>Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1 Device(config-flow-record)# match flow cts source group-tag</pre>	

match flow direction

フロー方向をフローレコードのキーフィールドとして設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match flow direction** コマンドを使用します。フロー方向をフローレコードのキーフィールドとして使用することを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match flow direction
no match flow direction

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

フロー方向はキーフィールドとして設定されていません。

コマンドモード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

match flow direction コマンドは、フローの方向をキーフィールドとしてキャプチャします。この機能は、入力フローと出力フローに対して単一のフローモニタが設定されている場合に最も役立ちます。また、入力と出力で1回ずつ、2回モニタされているフローを見つけ、除外するために使用することができます。このコマンドは、2つのフローが反対方向に流れている場合に、エクスポートされたデータ内のフローのペアを一致させるために役立つ場合もあります。

次に、フローがモニタされた方向をキーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match flow direction
```

match interface

入力インターフェイスと出力インターフェイスをフローレコードのキーフィールドとして設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match interface** コマンドを使用します。入力インターフェイスと出力インターフェイスをフローレコードのキーフィールドとして使用することを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match interface {input | output}
no match interface {input | output}
```

構文の説明

input 入力インターフェイスをキーフィールドとして設定します。

output 出力インターフェイスをキーフィールドとして設定します。

コマンドデフォルト

入力インターフェイスと出力インターフェイスは、キーフィールドとして設定されていません。

コマンドモード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

次に、入力インターフェイスをキーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match interface input
```

次に、出力インターフェイスをキーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match interface output
```

match ipv4

フローレコードのキーフィールドとして1つ以上のIPv4フィールドを設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match ipv4** コマンドを使用します。フローレコードのキーフィールドとして1つ以上のIPv4フィールドを使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match ipv4 {destination address | protocol | source address | tos | ttl | version}
no match ipv4 {destination address | protocol | source address | tos | ttl | version}
```

構文の説明

destination address	キーフィールドとしてIPv4宛先アドレスを設定します。詳細については、 <i>match ipv4 destination address</i> を参照してください。
protocol	キーフィールドとしてIPv4プロトコルを設定します。
source address	キーフィールドとしてIPv4宛先アドレスを設定します。詳細については、 <i>match ipv4 source address</i> を参照してください。
tos	キーフィールドとしてIPv4 ToS を設定します。
ttl	フローレコードのキーフィールドとしてIPv4 存続可能時間 (TTL) フィールドを設定します。詳細については、 <i>match ipv4 ttl</i> を参照してください。
version	キーフィールドとしてIPv4ヘッダーのIPバージョンを設定します。

コマンドデフォルト

ユーザ定義のフローレコードのキーフィールドとして1つ以上のIPv4フィールドを使用する設定は、イネーブルになっていません。

コマンドモード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

次の例では、キーフィールドとしてIPv4プロトコルを設定します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match ipv4 protocol
```

match ipv4 destination address

IPv4 宛先アドレスをフローレコードのキーフィールドとして設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match ipv4 destination address** コマンドを使用します。IPv4 宛先アドレスをフローレコードのキーフィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match ipv4 destination address
no match ipv4 destination address

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

IPv4 宛先アドレスはキーフィールドとして設定されていません。

コマンドモード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no match ipv4 destination address** または **default match ipv4 destination address** フローレコードコンフィギュレーションコマンドを使用します。

次の例では、IPv4 宛先アドレスをフローレコードのキーフィールドとして設定します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match ipv4 destination address
```

match ipv4 source address

IPv4 送信元アドレスをフロー レコードのキー フィールドとして設定するには、フロー レコード コンフィギュレーション モードで **match ipv4 source address** コマンドを使用します。フロー レコードのキー フィールドとして IPv4 送信元アドレスを使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match ipv4 source address
no match ipv4 source address

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

IPv4 送信元アドレスがキー フィールドとして設定されません。

コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フロー レコードをフロー モニタで使用するには、1 つ以上のキー フィールドが必要になります。キー フィールドはフローを区別するものです。各フローのキー フィールドには、一連の一意の値が設定されています。キー フィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no match ipv4 source address** または **default match ipv4 source address** フロー レコード コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、キー フィールドとして IPv4 送信元アドレスを設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match ipv4 source address
```

match ipv4 ttl

フローレコードのキーフィールドとして IPv4 存続可能時間 (TTL) フィールドを設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match ipv4 ttl** コマンドを使用します。フローレコードのキーフィールドとして IPv4 TTL を使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match ipv4 ttl
no match ipv4 ttl

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

IPv4 存続可能時間 (TTL) フィールドは、キーフィールドとして設定されていません。

コマンドモード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match ipv4 ttl** コマンドを使用して定義されます。

次に、キーフィールドとして IPv4 TTL を設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match ipv4 ttl
```


match ipv6

フローレコードのキーフィールドとして1つ以上のIPv6フィールドを設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match ipv6** コマンドを使用します。フローレコードのキーフィールドとして1つ以上のIPv6フィールドを使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match ipv6 {destination address | hop-limit | protocol | source address | traffic-class | version}
no match ipv6 {destination address | hop-limit | protocol | source address | traffic-class | version}
```

構文の説明

destination address	キーフィールドとしてIPv4宛先アドレスを設定します。詳細については、 <i>match ipv6 destination address</i> を参照してください。
hop-limit	キーフィールドとしてIPv6ホップリミットを設定します。詳細については、 <i>match ipv6 hop limit</i> を参照してください。
protocol	キーフィールドとしてIPv6プロトコルを設定します。
source address	キーフィールドとしてIPv4宛先アドレスを設定します。詳細については、 <i>match ipv6 source address</i> を参照してください。
traffic-class	キーフィールドとしてIPv6トラフィッククラスを設定します。
version	キーフィールドとしてIPv6ヘッダーのIPv6バージョンを設定します。

コマンドデフォルト

IPv6の各フィールドは、キーフィールドとして設定されていません。

コマンドモード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

次の例では、キーフィールドとしてIPv6プロトコルフィールドを設定します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match ipv6 protocol
```

match ipv6 destination address

IPv6 宛先アドレスをフローレコードのキーフィールドとして設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match ipv6 destination address** コマンドを使用します。IPv6 宛先アドレスをフローレコードのキーフィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match ipv6 destination address
no match ipv6 destination address

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

IPv6 宛先アドレスはキーフィールドとして設定されていません。

コマンド モード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no match ipv6 destination address** または **default match ipv6 destination address** フローレコードコンフィギュレーションコマンドを使用します。

次の例では、キーフィールドとして IPv6 宛先アドレスを設定します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match ipv6 destination address
```

match ipv6 hop-limit

フローレコードのキーフィールドとしてIPv6ホップリミットを設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match ipv6 hop-limit** コマンドを使用します。フローレコードのキーフィールドとしてIPv6パケットのセクションを使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match ipv6 hop-limit
no match ipv6 hop-limit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ユーザ定義のフローレコードのキーフィールドとしてIPv6ホップリミットを使用する設定は、デフォルトでイネーブルになっていません。

コマンド モード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

次に、キーフィールドとしてフローパケットのホップリミットを設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match ipv6 hop-limit
```

match ipv6 source address

IPv6 送信元アドレスをフローレコードのキーフィールドとして設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match ipv6 source address** コマンドを使用します。フローレコードのキーフィールドとして IPv6 送信元アドレスを使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match ipv6 source address
no match ipv6 source address

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

IPv6 送信元アドレスはキーフィールドとして設定されていません。

コマンドモード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no match ipv6 source address** または **default match ipv6 source address** フローレコードコンフィギュレーションコマンドを使用します。

次に、IPv6 送信元アドレスをキーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match ipv6 source address
```

map platform-type

パラメータマップ属性フィルタ基準をプラットフォームタイプに設定するには、パラメータマップ フィルタ モードで **map platform-type** コマンドを使用します。この基準を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
map-number map platform-type {{eq | not-eq | regex} platform-type}
no map-number map platform-type {{eq | not-eq | regex} platform-type}
```

構文の説明

<i>map-number</i>	パラメータマップ番号。
eq	フィルタタイプ名がプラットフォームタイプ名と同じであることを指定します。
not-eq	フィルタタイプ名がプラットフォームタイプ名と同じでないことを指定します。
regex	フィルタタイプ名が正規表現であることを指定します。
<i>platform-type</i>	パラメータマップ属性フィルタ基準のプラットフォームタイプ。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

パラメータマップフィルタ (config-parameter-map-filter)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.1	このコマンドが導入されました。

例

次に、パラメータマップ属性フィルタ基準をプラットフォームタイプに設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# parameter-map type subscriber attribute-to-service Aironet-Policy-para
Device(config-parameter-map-filter)# 10 map platform-type eq C9xxx
```

関連コマンド

コマンド	説明
parameter-map type subscriber attribute-to-service	サブスクリイバパラメータ マップを設定し、パラメータマップフィルタ コンフィギュレーションモードを開始します。

match transport

フローレコードのキーフィールドとして1つ以上のトランスポートフィールドを設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match transport** コマンドを使用します。フローレコードのキーフィールドとして1つ以上のトランスポートフィールドを使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match transport {destination-port | icmp ipv4 | icmp ipv6 | igmp type | source-port}
no match transport {destination-port | icmp ipv4 | icmp ipv6 | igmp type | source-port}
```

構文の説明

destination-port	キーフィールドとしてトランスポート宛先ポートを設定します。
icmp ipv4	ICMP IPv4 のタイプフィールドとコードフィールドをキーフィールドとして設定します。詳細については、 match transport icmp ipv4 (79 ページ) を参照してください。
icmp ipv6	ICMP IPv6 のタイプフィールドとコードフィールドをキーフィールドとして設定します。詳細については、 match transport icmp ipv6 (80 ページ) を参照してください。
igmp type	システム稼働時間に基づくタイムスタンプをキーフィールドとして設定します。
source-port	キーフィールドとしてトランスポート送信元ポートを設定します。

コマンド デフォルト

トランスポートフィールドは、キーフィールドとして設定されていません。

コマンド モード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

次の例では、宛先ポートをキーフィールドとして設定します。

```
(config)# flow record FLOW-RECORD-1
(config-flow-record)# match transport destination-port
```

次の例では、送信元ポートをキーフィールドとして設定します。

```
(config)# flow record FLOW-RECORD-1
(config-flow-record)# match transport source-port
```

match transport icmp ipv4

ICMP IPv4 のタイプフィールドとコードフィールドをフローレコードのキーフィールドとして設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match transport icmp ipv4** コマンドを使用します。ICMP IPv4 のタイプフィールドとコードフィールドをフローレコードのキーフィールドとして使用するのをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match transport icmp ipv4 {code | type}
no match transport icmp ipv4 {code | type}
```

構文の説明

code ICMP IPv4 コードをキーフィールドとして設定します。

type ICMP IPv4 タイプをキーフィールドとして設定します。

コマンドデフォルト

ICMP IPv4 のタイプフィールドとコードフィールドはキーフィールドとして設定されていません。

コマンドモード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

次に、ICMP IPv4 コードフィールドをキーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match transport icmp ipv4 code
```

次に、ICMP IPv4 タイプフィールドをキーフィールドとして設定する例を示します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match transport icmp ipv4 type
```

match transport icmp ipv6

ICMP IPv6 のタイプフィールドとコードフィールドをフローレコードのキーフィールドとして設定するには、フローレコードコンフィギュレーションモードで **match transport icmp ipv6** コマンドを使用します。ICMP IPv6 のタイプフィールドとコードフィールドをフローレコードのキーフィールドとして使用するのをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match transport icmp ipv6 {code | type}
no match transport icmp ipv6 {code | type}
```

構文の説明

code IPv6 ICMP コードをキーフィールドとして設定します。

type IPv6 ICMP タイプをキーフィールドとして設定します。

コマンド デフォルト

ICMP IPv6 タイプフィールドおよびコードフィールドはキーフィールドとして設定されていません。

コマンド モード

フローレコードコンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローレコードをフローモニタで使用するには、1つ以上のキーフィールドが必要になります。キーフィールドはフローを区別するものです。各フローのキーフィールドには、一連の一意の値が設定されています。キーフィールドは、**match** コマンドを使用して定義されます。

次の例では、IPv6 ICMP コードフィールドをキーフィールドとして設定します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match transport icmp ipv6 code
```

次の例では、IPv6 ICMP タイプフィールドをキーフィールドとして設定します。

```
Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1
Device(config-flow-record)# match transport icmp ipv6 type
```


match platform-type

プラットフォームタイプに基づいて制御クラスを評価するには、コントロール クラスマップ フィルタ モードで **match platform-type** コマンドを使用します。この条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match platform-type *platform-name*
no match platform-type *platform-name*

構文の説明

platform-name プラットフォームの名前。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コントロール クラスマップ フィルタ (config-filter-control-classmap)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.1	このコマンドが導入されました。

例

次に、クラスマップフィルタでプラットフォームタイプを照合するように設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# class-map type control subscriber match-all DOT1X_NO_AGENT
Device(config-filter-control-classmap)# match platform-type C9xxx
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map type control subscriber	制御クラスを作成し、制御クラスマップフィルタモードを開始します。

mode random 1 out-of

ランダムサンプリングを有効にし、Flexible NetFlow サンプラーのパケット間隔を指定するには、サンプラー コンフィギュレーション モードで **mode random 1 out-of** コマンドを使用します。Flexible NetFlow サンプラーのパケット間隔情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mode random 1 out-of window-size
no mode

構文の説明	<i>window-size</i> パケットを選択するウィンドウサイズを指定します。指定できる範囲は2～1024です。
-------	--

コマンド デフォルト	サンプラーのモードとパケット間隔は設定されていません。
------------	-----------------------------

コマンド モード	サンプラー コンフィギュレーション
----------	-------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバイスでは、計4つの固有のサンプラーがサポートされています。パケットは、トラフィックパターンのバイアスを除外し、モニタリングを回避するためのユーザによる試行を無効にする方法で選択されます。



(注) **deterministic** キーワードは、コマンドラインのヘルプストリングに表示されますが、サポートされていません。

例

次の例では、ウィンドウサイズ1000でランダムサンプリングをイネーブルにします。

```
Device(config)# sampler SAMPLER-1
Device(config-sampler)# mode random 1 out-of 1000
```

monitor capture (interface/control plane)

接続ポイントおよびパケットフロー方向を指定してモニタキャプチャポイントを設定する、またはキャプチャポイントに接続ポイントを追加するには、特権 EXEC モードで **monitor capture** コマンドを使用します。指定した接続ポイントおよびパケットフロー方向でモニタキャプチャを無効にする、またはキャプチャポイント上の複数の接続ポイントのいずれかを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor capture {capture-name} {interface interface-type interface-id | control-plane} {in | out | both}
```

```
no monitor capture {capture-name} {interface interface-type interface-id | control-plane} {in | out | both}
```

構文の説明

<i>capture-name</i>	定義するキャプチャの名前。
interface <i>interface-type</i> <i>interface-id</i>	<i>interface-type</i> および <i>interface-id</i> とのインターフェイスを接続ポイントとして指定します。引数の意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • GigabitEthernet <i>interface-id</i> : ギガビットイーサネット IEEE 802.3z インターフェイス。 • vlan <i>vlan-id</i> : VLAN。 <i>vlan-id</i> の範囲は 1 ~ 4095 です。
control-plane	コントロールプレーンを接続ポイントとして指定します。
in out both	キャプチャするトラフィックの方向を指定します。

コマンド デフォルト

Wireshark キャプチャは設定されていません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

接続ポイントがこのコマンドを使用してキャプチャポイントに関連付けられると、方向を変更する唯一の方法は、このコマンドの **no** 形式を使用して接続ポイントを削除し、新しい方向に接続ポイントを再接続することです。接続ポイントの方向は上書きできません。

接続ポイントがキャプチャポイントから削除され、1つの接続ポイントのみが関連付けられている場合、キャプチャポイントは効率的に削除されます。

このコマンドを別の接続ポイントで再実行することで、複数の接続ポイントをキャプチャポイントと関連付けることができます。次に例を示します。

インターフェイスの出力方向にキャプチャされたパケットは、スイッチの書き換えによって行われた変更（TTL、VLAN タグ CoS、チェックサム、および MAC アドレス、DSCP、プレシデント、UP など）が反映されないこともあります。

特定の順序はキャプチャ ポイントを定義する場合には適用されません。任意の順序でキャプチャ ポイント パラメータを定義できます。Wireshark CLI では、単一行のパラメータ数に制限はありません。これはキャプチャ ポイントを定義するために必要なコマンドの数を制限します。

VRF、管理ポート、プライベート VLAN はいずれも接続ポイントとして使用することはできません。

Wireshark は宛先 SPAN ポートでパケットをキャプチャできません。

VLAN が Wireshark の接続ポイントとして使用されている場合、パケットは、入力方向でのみキャプチャされます。

例

物理インターフェイスを接続ポイントとして使用してキャプチャ ポイントを定義するには次を実行します。

```
Device# monitor capture mycap interface GigabitEthernet1/0/1 in
Device# monitor capture mycap match ipv4 any any
```



- (注) 2つ目のコマンドは、キャプチャ ポイントのコア フィルタを定義します。これは、キャプチャポイントが機能するために必要です。

複数の接続ポイントを持つキャプチャ ポイントを定義するには次を実行します。

```
Device# monitor capture mycap interface GigabitEthernet1/0/1 in
Device# monitor capture mycap match ipv4 any any
Device# monitor capture mycap control-plane in
Device# show monitor capture mycap parameter
    monitor capture mycap interface GigabitEthernet1/0/1 in
    monitor capture mycap control-plane in
```

複数の接続ポイントで定義されたキャプチャ ポイントから接続ポイントを削除するには次を実行します。

```
Device# show monitor capture mycap parameter
    monitor capture mycap interface GigabitEthernet1/0/1 in
    monitor capture mycap control-plane in
Device# no monitor capture mycap control-plane
Device# show monitor capture mycap parameter
    monitor capture mycap interface GigabitEthernet1/0/1 in
```

monitor capture buffer

モニタキャプチャ（WireShark）のバッファを設定するには、特権 EXEC モードで **monitor capture buffer** コマンドを使用します。モニタキャプチャバッファを無効にする、またはバッファを循環バッファからデフォルトの線形バッファに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor capture {capture-name} buffer {circular [size buffer-size ] | size buffer-size}
no monitor capture {capture-name} buffer [circular ]
```

構文の説明

capture-name バッファが設定されるキャプチャの名前。

circular バッファが循環タイプであることを指定します。循環タイプのバッファは、バッファが消費された後も以前にキャプチャされたデータを上書きすることでデータのキャプチャを継続します。

size buffer-size (任意) バッファのサイズを指定します。範囲は 1 ~ 100 MB です。

コマンド デフォルト

線形バッファが設定されます。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

最初に WireShark のキャプチャを設定すると、小規模の循環バッファが提案されます。

例

1 MB のサイズの循環バッファを設定する場合は次を実行します。

```
Device# monitor capture mycap buffer circular size 1
```

monitor capture clear

モニタキャプチャ（WireShark）バッファをクリアするには、特権 EXEC モードで **monitor capture clear** コマンドを使用します。

monitor capture {*capture-name*} **clear**

構文の説明

capture-name バッファがクリアされるキャプチャの名前。

コマンド デフォルト

バッファのコンテンツはクリアされません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

キャプチャ中、または1つ以上の最終条件が満たされたか **monitor capture stop** コマンドを入力したためにキャプチャが停止された後に、**monitor capture clear** コマンドを使用します。キャプチャが停止した後に **monitor capture clear** コマンドを入力した場合、バッファにキャプチャされたパケットがないため、ファイルへのキャプチャされたパケットのコンテンツの保存に使用された **monitor capture export** コマンドには影響はありません。

パケットをバッファ内に保存する複数のキャプチャがある場合、メモリロスを避けるため、新しいキャプチャを開始する前にバッファをクリアしてください。

例

mycap をキャプチャするためにバッファ コンテンツをクリアするには次を実行します。

```
Device# monitor capture mycap clear
```

monitor capture export

ファイルにモニタキャプチャ（WireShark）をエクスポートするには、特権 EXEC モードで **monitor capture export** コマンドを使用します。

monitor capture {*capture-name*} **export** *file-location* : *file-name*

構文の説明

<i>capture-name</i>	エクスポートするキャプチャの名前。
<i>file-location</i> : <i>file-name</i>	（任意）キャプチャストレージファイルの場所およびファイル名を指定します。 <i>file-location</i> に使用可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • flash : オンボードフラッシュストレージ • : USB ドライブ

コマンド デフォルト

キャプチャされたパケットは保存されません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ストレージの宛先がキャプチャバッファである場合にのみ **monitor capture export** コマンドを使用します。ファイルはリモートにもローカルにも保存できます。キャプチャ中またはパケットキャプチャ停止後にこのコマンドを使用します。パケットキャプチャは、1つ以上の終了条件が満たされた場合、または **monitor capture stop** コマンドを入力すると停止します。

WireShark がスタック内のスイッチで使用される場合、パケットキャプチャは前述の *file-location* で指定されたアクティブスイッチに接続されるデバイス上にのみ保存されます。例：flash1 はアクティブなスイッチに接続されています。flash2 はセカンダリスイッチに接続されています。この場合、パケットキャプチャの保存に使用できるのは flash1 だけです。



(注) サポートされていないデバイスまたはアクティブなスイッチに接続されていないデバイスにパケットキャプチャを保存しようとするエラーが発生する可能性があります。

例

キャプチャバッファの内容を flash ドライブの mycap.pcap にエクスポートするには次を実行します。

monitor capture file

モニタキャプチャ（WireShark）ストレージファイル属性を設定するには、特権 EXEC モードで **monitor capture file** コマンドを使用します。ストレージファイル属性を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor capture {capture-name} file{ [ buffer-size temp-buffer-size ] [ location file-location
: file-name ] [ ring number-of-ring-files ] [ size total-size ] }
no monitor capture {capture-name} file{ [ buffer-size ] [ location ] [ ring ] [ size ] }
```

構文の説明

<i>capture-name</i>	変更するキャプチャの名前。
buffer-size <i>temp-buffer-size</i>	（任意）一時バッファのサイズを指定します。 <i>temp-buffer-size</i> の範囲は 1 ～ 100 MB です。これはパケット損失を削減するために指定されます。
location <i>file-location</i> : <i>file-name</i>	（任意）キャプチャストレージファイルの場所およびファイル名を指定します。 <i>file-location</i> に使用可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • flash : オンボードフラッシュストレージ • : USB ドライブ
ring <i>number-of-ring-files</i>	（任意）キャプチャが循環ファイルチェーンに保存されること、およびファイルリング内のファイル数を指定します。
size <i>total-size</i>	（任意）キャプチャファイルの合計サイズを指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ストレージの宛先がファイルである場合にのみ **monitor capture file** コマンドを使用します。ファイルはリモートにもローカルにも保存できます。パケットキャプチャの停止後にこのコマンドを使用します。パケットキャプチャは、1 つ以上の終了条件が満たされた場合、または **monitor capture stop** コマンドを入力すると停止します。

WireShark がスタック内のスイッチで使用される場合、パケットキャプチャは前述の *file-location* で指定されたアクティブスイッチに接続されるデバイス上にのみ保存されます。例：flash1 はアクティブなスイッチに接続されています。flash2 はセカンダリスイッチに接続されています。この場合、パケットキャプチャの保存に使用できるのは flash1 だけです。



-
- (注) サポートされていないデバイスまたはアクティブなスイッチに接続されていないデバイスにパケット キャプチャを保存しようとするエラーが発生する可能性があります。
-

例

フラッシュドライブに保管されているファイル名が `mycap.pcap` であることを指定するには次を実行します。

```
Device# monitor capture mycap file location flash:mycap.pcap
```

monitor capture limit

キャプチャ制限を設定するには、特権 EXEC モードで **monitor capture limit** コマンドを使用します。キャプチャ制限を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor capture {capture-name} limit {[duration seconds] [packet-length size] [packets num] }
```

```
no monitor capture {capture-name} limit [duration] [packet-length] [packets]
```

構文の説明

capture-name キャプチャ制限を割り当てられるキャプチャの名前。

duration *seconds* (任意) キャプチャ期間 (秒) を指定します。範囲は 1 ~ 1000000 です。

packet-length *size* (任意) パケット長 (バイト) を指定します。実際のパケットが特定の長さより長い場合、数がバイト引数によって示される最初のセットのバイトのみが保存されます。

packets *num* (任意) キャプチャに対して処理されるパケット数を指定します。

コマンド デフォルト

キャプチャ制限は設定されません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

例

60 秒のセッション制限および 400 バイトのパケットセグメント長を設定するには次を実行します。

```
Device# monitor capture mycap limit duration 60 packet-len 400
```

monitor capture match

モニタ（Wireshark）キャプチャに対して明示的にインラインコアフィルタを定義するには、特権 EXEC モードで **monitor capture match** コマンドを使用します。このフィルタを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor capture {capture-name} match {any | mac mac-match-string | ipv4 {any | host | protocol}{any | host} | ipv6 {any | host | protocol}{any | host}}
no monitor capture {capture-name} match
```

構文の説明

<i>capture-name</i>	コアフィルタを割り当てられるキャプチャの名前。
any	すべてのパケットを指定します。
mac mac-match-string	レイヤ 2 パケットを指定します。
ipv4	IPv4 パケットを指定します。
host	ホストを指定します。
protocol	プロトコルを指定します。
ipv6	IPv6 パケットを指定します。

コマンドデフォルト

コア フィルタは設定されていません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

ソースまたは宛先上の任意の IP バージョン 4 パケットに一致するキャプチャポイントに対してキャプチャポイントおよびコアフィルタを定義するには、次を実行します。

```
Device# monitor capture mycap interface GigabitEthernet1/0/1 in
Device# monitor capture mycap match ipv4 any any
```

monitor capture start

トラフィック トレースポイントでパケットデータのバッファへのキャプチャを開始するには、特権 EXEC モードで **monitor capture start** コマンドを使用します。

monitor capture {*capture-name*} **start**

構文の説明	<i>capture-name</i> 開始するキャプチャの名前。	
コマンド デフォルト	バッファのコンテンツはクリアされません。	
コマンド モード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン キャプチャポイントが定義された後にパケットデータキャプチャを有効にするには、**monitor capture clear** コマンドを使用します。パケットデータのキャプチャを停止するには、**monitor capture stop** コマンドを使用します。

CPU およびメモリなどのシステム リソースがキャプチャの開始前に使用可能であることを確認します。

例

バッファ コンテンツのキャプチャを開始するには次を実行します。

```
Device# monitor capture mycap start
```

monitor capture stop

トラフィック トレース ポイントでパケットデータのキャプチャを停止するには、特権 EXEC モードで **monitor capture stop** コマンドを使用します。

monitor capture {*capture-name*} **stop**

構文の説明

capture-name 停止するキャプチャの名前。

コマンド デフォルト

パケット データ キャプチャが進行中です。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

monitor capture stop コマンドを使用して、**monitor capture start** コマンドによって開始したパケットデータのキャプチャを停止します。線形および循環の2つのタイプのキャプチャバッファを設定できます。線形バッファがいっぱいになった場合、データキャプチャは自動的に停止します。循環バッファがいっぱいになると、データキャプチャは最初から開始し、データは上書きされます。

例

バッファ コンテンツのキャプチャを停止するには次を実行します。

```
Device# monitor capture mycap stop
```

monitor session

ポート間のトラフィック分析のために、イーサネットスイッチドポートアナライザ（SPAN）セッション、リモートスイッチドポートアナライザ（RSPAN）セッション、またはEncapsulated Remote Switched Port Analyzer（ERSPAN）セッションのコンフィギュレーションを新規作成するか、既存のセッションのコンフィギュレーションに追加するには、**monitor session** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用します。セッションをクリアするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor session session-number {destination | filter | source | type {erspan-destination |
erspan-source}}
no monitor session {session-number [destination | filter | source | type {erspan-destination
| erspan-source}] | all | local | range session-range | remote}
```

構文の説明		
	<i>session-number</i>	セッションで識別されるセッション番号。指定できる範囲は 1 ～ 66 です。
	all	すべてのモニタセッションをクリアします。
	local	すべてのローカルモニタセッションをクリアします。
	range <i>session-range</i>	指定された範囲のモニタセッションをクリアします。
	remote	すべてのリモートモニタセッションをクリアします。

コマンド デフォルト モニタセッションは設定されていません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	type { erspan-destination erspan-source } キーワードが導入されました。

使用上のガイドライン 2 つのローカル SPAN セッションおよび RSPAN 送信元セッションを組み合わせた最大値を設定することができます。スイッチまたはスイッチスタック上で、合計 66 の SPAN、RSPAN、および ERSPAN セッションを保有できます。

設定を確認するには、**show monitor** 特権 EXEC コマンドを入力します。**show running-config** 特権 EXEC コマンドを入力すると、スイッチの SPAN、RSPAN、FSPAN、FRSPAN、および ERSPAN の設定を表示することができます。SPAN 情報は出力の最後付近に表示されます。

例

次に、ローカル SPAN セッション 1 を作成して Po13 (EtherChannel ポート) のトラフィックをモニタし、セッションの SPAN トラフィックを VLAN 1281 のみに限定する例を示します。出力トラフィックは送信元を複製します。入力転送はイネーブルになりません。

```
Device(config)# monitor session 1 source interface Po13
Device(config)# monitor session 1 filter vlan 1281
Device(config)# monitor session 1 destination interface GigabitEthernet2/0/36 encapsulation
replicate
Device(config)# monitor session 1 destination interface GigabitEthernet3/0/36 encapsulation
replicate
```

次に、これらのセットアップ手順を完了した後の **show monitor session all** コマンドの出力を示します。

```
Device# show monitor session all

Session 1
-----
Type                : Local Session
Source Ports        :
   Both              : Po13
Destination Ports   : Gi2/0/36,Gi3/0/36
   Encapsulation     : Replicate
   Ingress           : Disabled
Filter VLANs        : 1281
...
```

monitor session destination

新規にスイッチドポートアナライザ (SPAN) セッションまたはリモート SPAN (RSPAN) 宛先セッションを開始し、ネットワークセキュリティ デバイス (Cisco IDS Sensor アプライアンスなど) の宛先ポート上の入力トラフィックをイネーブルにし、既存の SPAN または RSPAN セッションでインターフェイスを追加または削除するには、**monitor session destination** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。SPAN または RSPAN セッションを削除したり、SPAN または RSPAN セッションから宛先インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor session session-number destination {interface interface-id [, | -] [encapsulation
{replicate | dot1q} ] {ingress [dot1q | untagged] } | {remote} vlan vlan-id
no monitor session session-number destination {interface interface-id [, | -] [encapsulation
{replicate | dot1q} ] {ingress [dot1q | untagged] } | {remote} vlan vlan-id
```

構文の説明

<i>session-number</i>	SPAN または RSPAN セッションで識別されるセッション番号。指定できる範囲は 1～66 です。
interface <i>interface-id</i>	SPAN または RSPAN セッションの宛先または送信元インターフェイスを指定します。有効なインターフェイスは物理ポート (タイプ、スタック メンバ、モジュール、ポート番号を含む) です。送信元インターフェイスの場合は、ポート チャネルも有効なインターフェイスタイプであり、指定できる範囲は 1～128 です。
,	(任意) 複数のインターフェイスまたは VLAN を指定します。または、前の範囲からインターフェイスまたは VLAN の範囲を分離します。カンマの前後にスペースを入れます。
-	(任意) インターフェイスまたは VLAN の範囲を指定します。ハイフンの前後にスペースを入れます。

encapsulation replicate	<p>(任意) 宛先インターフェイスが送信元インターフェイスのカプセル化方式を複製することを指定します。選択しない場合のデフォルトは、ネイティブ形式 (タグなし) でのパケットの送信です。</p> <p>次のキーワードは、ローカル SPAN にだけ有効です。RSPAN、RSPAN VLAN ID は元の VLAN ID を上書きするため、パケットは常にタグなしで送信されます。encapsulation オプションは、no 形式では無視されます。</p>
encapsulation dot1q	<p>(任意) 宛先インターフェイスが IEEE 802.1Q カプセル化の送信元インターフェイスの着信パケットを受け入れるように指定します。</p> <p>次のキーワードは、ローカル SPAN にだけ有効です。RSPAN、RSPAN VLAN ID は元の VLAN ID を上書きするため、パケットは常にタグなしで送信されます。encapsulation オプションは、no 形式では無視されます。</p>
ingress	入力トラフィック転送をイネーブルにします。
dot1q	(任意) 指定された VLAN をデフォルト VLAN として、IEEE 802.1Q カプセル化された着信パケットを受け入れます。
untagged	(任意) 指定された VLAN をデフォルト VLAN として、タグなしカプセル化された着信パケットを受け入れます。
isl	ISL カプセル化を使用して入力トラフィックを転送するように指定します。
remote	<p>RSPAN 送信元または宛先セッションのリモート VLAN を指定します。指定できる範囲は 2 ~ 1001 または 1006 ~ 4094 です。</p> <p>RSPAN VLAN は VLAN 1 (デフォルトの VLAN)、または VLAN ID 1002 ~ 1005 (トークンリングおよび FDDI VLAN に予約済) になることはできません。</p>
vlan <i>vlan-id</i>	ingress キーワードとのみ使用された場合、入力トラフィックに対するデフォルトの VLAN を設定します。

コマンド デフォルト モニタセッションは設定されていません。

ローカル SPAN の宛先ポートで **encapsulation replicate** が指定されなかった場合、パケットはカプセル化のタグなしのネイティブ形式で送信されます。

入力転送は宛先ポートではディセーブルになっています。

all、**local**、**range session-range**、**remote** を **no monitor session** コマンドに指定することで、すべての SPAN および RSPAN、すべてのローカル SPAN、範囲、すべての RSPAN セッションをクリアできます。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 8 つのローカル SPAN セッションおよび RSPAN 送信元セッションを組み合わせた最大値を設定することができます。スイッチまたはスイッチスタック上で、合計 66 の SPAN および RSPAN セッションを保有できます。

SPAN または RSPAN の宛先は物理ポートである必要があります。

スイッチ上またはスイッチスタック上で、最大 64 の宛先ポートを保有できます。

各セッションには複数の入力または出力の送信元ポートまたは VLAN を含めることができますが、1 つのセッション内で送信元ポートと送信元 VLAN を組み合わせることはできません。各セッションは複数の宛先ポートを保有できます。

VLAN-based SPAN (VSPAN) を使用して、VLAN または一連の VLAN 内のネットワークトラフィックを解析する場合、送信元 VLAN のすべてのアクティブポートが SPAN または RSPAN セッションの送信元ポートになります。トランクポートは VSPAN の送信元ポートとして含まれ、モニタリングされた VLAN ID のパケットだけが宛先ポートに送信されます。

1 つのポート、1 つの VLAN、一連のポート、一連の VLAN、ポート範囲、VLAN 範囲でトラフィックをモニタできます。[,|-] オプションを使用して、複数または一定範囲のインターフェイスまたは VLAN を指定します。

一連の VLAN またはインターフェイスを指定するときは、カンマ (,) の前後にスペースが必要です。VLAN またはインターフェイスの範囲を指定するときは、ハイフン (-) の前後にスペースが必要です。

EtherChannel ポートを SPAN または RSPAN 宛先ポートとして設定できます。EtherChannel グループのメンバである物理ポートは、宛先ポートとして使用できます。ただし、SPAN の宛先として機能する間は、EtherChannel グループに参加できません。

宛先ポートとして使用しているポートは、SPAN または RSPAN 送信元ポートにすることはできません。また、同時に複数のセッションの宛先ポートにすることはできません。

SPAN または RSPAN 宛先ポートであるポート上で IEEE 802.1X 認証をイネーブルにすることはできませんが、ポートが SPAN 宛先として削除されるまで IEEE 802.1X 認証はディセーブルで

す。IEEE 802.1X 認証がポート上で使用できない場合、スイッチはエラーメッセージを返します。SPAN または RSPAN 送信元ポートでは IEEE 802.1X 認証をイネーブルにすることができます。

入力トラフィック転送がネットワーク セキュリティ デバイスでイネーブルの場合、宛先ポートはレイヤ 2 でトラフィックを転送します。

宛先ポートは次のような動作を設定できます。

- **monitor session session_number destination interface interface-id** を他のキーワードなしで入力すると、出力のカプセル化はタグなしとなり、入力転送はイネーブルになりません。
- **monitor session session_number destination interface interface-id ingress** を入力した場合は、出力カプセル化はタグなしで、入力カプセル化はそのあとに続くキーワードが **dot1q** と **untagged** のいずれであるかによって決まります。
- **monitor session session_number destination interface interface-id encapsulation replicate** を他のキーワードなしで入力すると、出力のカプセル化はソースインターフェイスのカプセル化を複製し、入力転送はイネーブルになりません（これはローカル SPAN だけに適用します。RSPAN はカプセル化の複製をサポートしていません）。
- **monitor session session_number destination interface interface-id encapsulation replicate ingress** を入力した場合は、出力カプセル化は送信元インターフェイスカプセル化を複製し、入力カプセル化はそのあとに続くキーワードが **dot1q** と **untagged** のいずれであるかによって決まります（これはローカル SPAN だけに適用します。RSPAN はカプセル化の複製をサポートしていません）。

設定を確認するには、**show monitor** 特権 EXEC コマンドを入力します。**show running-config** 特権 EXEC コマンドを入力すると、スイッチの SPAN、RSPAN、FSPAN、および FRSPAN の設定を表示することができます。SPAN 情報は出力の最後付近に表示されます。

例

次の例では、ローカル SPAN セッション 1 を作成し、スタック メンバ 1 の送信元ポート 1 からスタック メンバ 2 の宛先ポート 2 に送受信するトラフィックをモニタする方法を示します。

```
Device(config)# monitor session 1 source interface gigabitethernet1/0/1 both
Device(config)# monitor session 1 destination interface gigabitethernet1/0/2
```

次の例では、宛先ポートを既存のローカル SPAN セッションから削除する方法を示します。

```
Device(config)# no monitor session 2 destination interface gigabitethernet1/0/2
```

次の例では、ある送信元インターフェイスをモニタリングする RSPAN 送信元セッション 1 を設定し、さらに宛先 RSPAN VLAN 900 を設定する方法を示します。

```
Device(config)# monitor session 1 source interface gigabitethernet1/0/1
```

```
Device(config)# monitor session 1 destination remote vlan 900
Device(config)# end
```

次の例では、モニタリングされたトラフィックを受信するスイッチに、RSPAN 宛先セッション 10 を設定する方法を示します。

```
Device(config)# monitor session 10 source remote vlan 900
Device(config)# monitor session 10 destination interface gigabitethernet1/0/2
```

次の例では、IEEE 802.1Q カプセル化をサポートするセキュリティ装置を使用して、VLAN 5 の入力トラフィックに対応する宛先ポートを設定する方法を示します。出力トラフィックは送信元のカプセル化を複製します。入力トラフィックは IEEE 802.1Q カプセル化を使用します。

```
Device(config)# monitor session 2 destination interface gigabitethernet1/0/2 encapsulation
dot1q ingress dot1q vlan 5
```

次の例では、カプセル化をサポートしないセキュリティ デバイスを使用して、VLAN 5 上の入力トラフィックの宛先ポートを設定する方法を示します。出力トラフィックおよび入力トラフィックはタグなしです。

```
Device(config)# monitor session 2 destination interface gigabitethernet1/0/2 ingress
untagged vlan 5
```

monitor session filter

フローベース SPAN (FSPAN) セッションやフローベース RSPAN (FRSPAN) 送信元または宛先セッションを新しく開始する、または特定の VLAN に対して SPAN 送信元トラフィックを制限 (フィルタ処理) するには、**monitor session filter** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。SPAN または RSPAN セッションからフィルタを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

monitor session session-number filter {vlan vlan-id [, | -] }

no monitor session session-number filter {vlan vlan-id [, | -] }

構文の説明

<i>session-number</i>	SPAN または RSPAN セッションで識別されるセッション番号。指定できる範囲は 1～66 です。
vlan <i>vlan-id</i>	SPAN 送信元トラフィックを特定の VLAN に制限するため、トランクの送信元ポート上のフィルタとして VLAN のリストを指定します。 <i>vlan-id</i> で指定できる範囲は 1～4094 です。
,	任意) 複数の VLAN を指定します。または VLAN 範囲を前の範囲から区切ります。カンマの前後にスペースを入れます。
-	(任意) VLAN の範囲を指定します。ハイフンの前後にスペースを入れます。

コマンドデフォルト

モニタ セッションは設定されていません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

2つのローカル SPAN セッションおよび RSPAN 送信元セッションを組み合わせた最大値を設定することができます。スイッチまたはスイッチスタック上で、合計66のSPANおよびRSPANセッションを保有できます。

1つのVLAN、または複数のポートやVLAN、特定範囲のポートやVLANでトラフィックをモニタできます。複数または一定範囲のVLANを指定するには、[,|-]オプションを使用します。

複数のVLANを指定するときは、カンマ(,)の前後にスペースが必要です。VLANの範囲を指定するときは、ハイフン(-)の前後にスペースが必要です。

VLAN のフィルタリングは、トランクの送信元ポート上で選択された一連の VLAN のネットワークトラフィック解析を参照します。デフォルトでは、すべての VLAN がトランクの送信元ポートでモニタリングされます。**monitor session session_number filter vlan vlan-id** コマンドを使用すると、トランク送信元ポートの SPAN トラフィックを指定された VLAN だけに限定できます。

VLAN のモニタリングおよび VLAN のフィルタリングは相互に排他的な関係です。VLAN が送信元の場合、VLAN のフィルタリングはイネーブルにできません。VLAN のフィルタリングが設定されている場合、VLAN は送信元になることができません。

設定を確認するには、**show monitor** 特権 EXEC コマンドを入力します。**show running-config** 特権 EXEC コマンドを入力すると、スイッチの SPAN、RSPAN、FSPAN、および FRSPAN の設定を表示することができます。SPAN 情報は出力の最後付近に表示されます。

例

次の例では、既存のセッションの SPAN トラフィックを指定の VLAN だけに制限する方法を示します。

```
Switch(config)# monitor session 1 filter vlan 100 - 110
```

次に、ローカル SPAN セッション 1 を作成してスタックメンバ 1 の送信元ポート 1 とスタックメンバ 2 の宛先ポートの送受信両方のトラフィックをモニタし、FSPAN セッションでアクセスリスト番号 122 を使用して IPv4 トラフィックをフィルタする例を示します。

```
Device(config)# monitor session 1 source interface gigabitethernet1/0/1 both  
Device(config)# monitor session 1 destination interface gigabitethernet1/0/2  
Device(config)# monitor session 1 filter ip access-group 122
```

monitor session source

スイッチドポートアナライザ (SPAN) セッションまたはリモート SPAN (RSPAN) 送信元セッションを開始する、または既存の SPAN または RSPAN セッションでインターフェイスを追加または削除するには、**monitor session source** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。SPAN または RSPAN セッションを削除したり、SPAN または RSPAN セッションから送信元インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor session session_number source {interface interface-id [, | -] [both | rx | tx] |
[remote] vlan vlan-id [, | -] [both | rx | tx]}
```

```
no monitor session session_number source {interface interface-id [, | -] [both | rx | tx]
| [remote] vlan vlan-id [, | -] [both | rx | tx]}
```

構文の説明

<i>session_number</i>	SPAN または RSPAN セッションで識別されるセッション番号。指定できる範囲は 1～66 です。
interface <i>interface-id</i>	SPAN または RSPAN セッションの送信元インターフェイスを指定します。有効なインターフェイスは物理ポート (タイプ、スタックメンバ、モジュール、ポート番号を含む) です。送信元インターフェイスの場合は、ポートチャネルも有効なインターフェイスタイプであり、指定できる範囲は 1～48 です。
,	(任意) 複数のインターフェイスまたは VLAN を指定します。または、前の範囲からインターフェイスまたは VLAN の範囲を分離します。カンマの前後にスペースを入れます。
-	(任意) インターフェイスまたは VLAN の範囲を指定します。ハイフンの前後にスペースを入れます。
both rx tx	(任意) モニタリングするトラフィックの方向を指定します。トラフィックの方向を指定しない場合、送信元インターフェイスは送受信のトラフィックを送信します。

remote	(任意) RSPAN 送信元または宛先セッションのリモート VLAN を指定します。指定できる範囲は 2 ~ 1001 または 1006 ~ 4094 です。 RSPAN VLAN は VLAN 1 (デフォルトの VLAN)、または VLAN ID 1002 ~ 1005 (トークンリングおよび FDDI VLAN に予約済) になることはできません。
vlan <i>vlan-id</i>	ingress キーワードだけで使用された場合、入力トラフィックにデフォルトの VLAN を設定します。

コマンド デフォルト

モニタセッションは設定されていません。

送信元インターフェイスのデフォルトでは、受信トラフィックと送信トラフィックの両方をモニタリングします。

送信元ポートとして使用されるトランク インターフェイス上では、すべての VLAN がモニタリングされます。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

送信元ポートまたは送信元 VLAN を出入りするトラフィックは、SPAN または RSPAN を使用してモニタできます。送信元ポートまたは送信元 VLAN にルーティングされるトラフィックはモニタできません。

2 つのローカル SPAN セッションおよび RSPAN 送信元セッションを組み合わせた最大値を設定することができます。スイッチまたはスイッチスタック上で、合計 66 の SPAN および RSPAN セッションを保有できます。

物理ポート、ポートチャネル、VLAN が送信元になることができます。

各セッションには複数の入力または出力の送信元ポートまたは VLAN を含めることができますが、1 つのセッション内で送信元ポートと送信元 VLAN を組み合わせることはできません。各セッションは複数の宛先ポートを保有できます。

VLAN-based SPAN (VSPAN) を使用して、VLAN または一連の VLAN 内のネットワークトラフィックを解析する場合、送信元 VLAN のすべてのアクティブポートが SPAN または RSPAN セッションの送信元ポートになります。トランクポートは VSPAN の送信元ポートとして含まれ、モニタリングされた VLAN ID のパケットだけが宛先ポートに送信されます。

1つのポート、1つのVLAN、一連のポート、一連のVLAN、ポート範囲、VLAN範囲でトラフィックをモニタできます。[,|-]オプションを使用して、複数または一定範囲のインターフェイスまたはVLANを指定します。

一連のVLANまたはインターフェイスを指定するときは、カンマ(,)の前後にスペースが必要です。VLANまたはインターフェイスの範囲を指定するときは、ハイフン(-)の前後にスペースが必要です。

個々のポートはそれらがEtherChannelに参加している間もモニタリングすることができます。また、RSPAN送信元インターフェイスとしてport-channel番号を指定することでEtherChannelバンドル全体をモニタリングすることができます。

宛先ポートとして使用しているポートは、SPANまたはRSPAN送信元ポートにすることはできません。また、同時に複数のセッションの宛先ポートにすることはできません。

SPANまたはRSPAN送信元ポートではIEEE 802.1X認証をイネーブルにすることができます。

設定を確認するには、**show monitor** 特権 EXEC コマンドを入力します。**show running-config** 特権 EXEC コマンドを入力すると、スイッチのSPAN、RSPAN、FSPAN、およびFRSPANの設定を表示することができます。SPAN情報は出力の最後付近に表示されます。

例

次の例では、ローカルSPANセッション1を作成し、スタックメンバ1の送信元ポート1からスタックメンバ2の宛先ポート2に送受信するトラフィックをモニタする方法を示します。

```
Switch(config)# monitor session 1 source interface gigabitethernet1/0/1 both
Switch(config)# monitor session 1 destination interface gigabitethernet1/0/2
```

次の例では、複数の送信元インターフェイスをモニタリングするRSPAN送信元セッション1を設定し、さらに宛先RSPANVLAN900を設定する方法を示します。

```
Switch(config)# monitor session 1 source interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config)# monitor session 1 source interface port-channel 2 tx
Switch(config)# monitor session 1 destination remote vlan 900
Switch(config)# end
```

monitor session type

ローカルの Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) セッションを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **monitor session type** コマンドを使用します。ERSPAN 設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor session span-session-number type {erspan-destination | erspan-source}
no monitor session span-session-number type {erspan-destination | erspan-source}
```

構文の説明

<i>span-session-number</i>	ローカル ERSPAN セッションの番号。有効値は 1 ~ 66 です。
----------------------------	--------------------------------------

コマンド デフォルト

ERSPAN 送信元または宛先セッションは設定されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	erspan-destination キーワードが導入されました。

使用上のガイドライン

span-session-number およびセッションタイプは、設定後は変更できません。セッションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用し、新しいセッション ID または新しいセッションタイプでセッションを再作成します。

ERSPAN 送信元セッションの宛先 IP アドレスが (宛先スイッチ上のインターフェイスで設定される必要がある)、ERSPAN 宛先セッションが宛先ポートに送信するトラフィックの送信元です。ERSPAN モニタ宛先セッション コンフィギュレーション モードで **ip address** コマンドを使用して、送信元セッションと宛先セッションの両方に同じアドレスを設定できます。

新しく設定された ERSPAN セッションは、デフォルトで **shutdown** の状態になります。ERSPAN セッションは、送信元インターフェイス、ERSPAN ID、ERSPAN IP アドレスなどの他の必須設定とともに **no shutdown** コマンドが設定されるまで非アクティブのままです。

ERSPAN ID により、同じ宛先 IP アドレスに着信する ERSPAN トラフィックと異なる ERSPAN 送信元セッションとが区別されます。

ローカル ERSPAN 送信元セッションの最大数は 8 に制限されています。

例

次に、ERSPAN 送信元セッション番号を設定する例を示します。

```
Device(config)# monitor session 55 type erspan-source
Device(config-mon-erspan-src)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
monitor session type	ERSPAN 送信元セッション番号または宛先セッション番号を作成するか、セッションに対して ERSPAN セッション コンフィギュレーション モードを開始します。
show capability feature monitor	モニタ機能に関する情報を表示します。
show monitor session	ERSPAN、SPAN、RSPAN のセッションに関する情報を表示します。

option

Flexible NetFlow のフローエクスポートのオプションのデータパラメータを設定するには、フローエクスポート コンフィギュレーションモードで **option** コマンドを使用します。フローエクスポートのオプションのデータパラメータを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

option {**exporter-stats** | **interface-table** | **sampler-table**} [{**timeout** *seconds*}]
no option {**exporter-stats** | **interface-table** | **sampler-table**}

構文の説明

exporter-stats	フローエクスポートの統計情報オプションを設定します。
interface-table	フローエクスポートのインターフェイステーブルオプションを設定します。
sampler-table	フローエクスポートのエクスポート サンプラー テーブルオプションを設定します。
timeout <i>seconds</i>	(任意) フローエクスポートのオプションの再送時間を秒単位で設定します。指定できる範囲は 1 ~ 86400 です。デフォルトは 600 です。

コマンド デフォルト

タイムアウトは 600 秒です。他のすべてのオプション データ パラメータは設定されていません。

コマンド モード

フロー エクスポート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

option exporter-stats コマンドを実行すると、レコード数、バイト数、送信されたパケット数など、エクスポートの統計情報が定期的送信されます。このコマンドを使用して、コレクタは受信するエクスポート レコードのパケット損失を見積もります。オプションのタイムアウトでは、レポートが送信される頻度を変更できます。

option interface-table コマンドを実行すると、オプション テーブルが定期的送信されます。このオプション テーブルを使用して、コレクタはフロー レコードに記録されている SNMP インターフェイスインデックスを各インターフェイス名にマッピングします。オプションのタイムアウトでは、レポートが送信される頻度を変更できます。

option sampler-table コマンドを実行すると、オプション テーブルが定期的送信されます。このオプションテーブルには、各サンプラーの設定の詳細が含まれており、これを使用して、コレクタは任意のフロー レコードに記録されているサンプラー ID を、フローの統計情報のスケールアップに使用可能な設定にマッピングします。オプションのタイムアウトでは、レポートが送信される頻度を変更できます。

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no option** または **default option** フロー エクスポート コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次の例では、サンプラー オプションテーブルの定期的な送信をイネーブルにして、コレクタでサンプラー ID をサンプラーのタイプとレートにマッピングする方法を示します。

```
Device(config)# flow exporter FLOW-EXPORTER-1
Device(config-flow-exporter)# option sampler-table
```

次の例では、レコード数、バイト数、送信されたパケット数など、エクスポートの統計情報の定期的な送信をイネーブルする方法を示します。

```
Device(config)# flow exporter FLOW-EXPORTER-1
Device(config-flow-exporter)# option exporter-stats
```

次の例では、オプションテーブルの定期的な送信をイネーブルにし、そのオプションテーブルをコレクタで使用して、フローレコードに記録されている SNMP インターフェイス インデックスをインターフェイス名にマッピングする方法を示します。

```
Device(config)# flow exporter FLOW-EXPORTER-1
Device(config-flow-exporter)# option interface-table
```

record

Flexible NetFlow フローモニタのフローレコードを追加するには、フロー モニタ コンフィギュレーションモードで **record** コマンドを使用します。Flexible NetFlow フローモニタのフローレコードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

record *record-name*
no record

構文の説明

record-name 事前に設定したユーザ定義のフローレコードの名前。

コマンド デフォルト

フローレコードは設定されていません。

コマンドモード

フロー モニタ コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フロー モニタごとに、キャッシュ エントリの内容およびレイアウトを定義するレコードが必要です。フロー モニタがさまざまな事前定義済みレコードフォーマットの1つを使用することも、上級ユーザが独自のレコードフォーマットを作成することもできます。



- (注) フローモニタで **record** コマンドのパラメータを変更する前に、**no ip flow monitor** コマンドを使用して、すべてのインターフェイスから適用済みのフローモニタを削除する必要があります。

例

次の例では、FLOW-RECORD-1 を使用するようにフロー モニタを設定します。

```
Device(config)# flow monitor FLOW-MONITOR-1
Device(config-flow-monitor)# record FLOW-RECORD-1
```

show flow monitor etta-mon cache

ETA モニタキャッシュの詳細を表示するには、特権 EXEC モードで **show flow monitor etta-mon cache** コマンドを使用します。

show flow monitor etta-mon cache

コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例：

次に、ETA フロー モニタ キャッシュの詳細を表示する例を示します。

```
Device>enable
Device#configure terminal
Device# show flow monitor etta-mon cache
Cache type: Normal (Platform cache)
Cache size: 10000
Current entries: 4
Flows added: 6
Flows aged: 2
- Inactive timeout ( 15 secs) 2
IPV4 DESTINATION ADDRESS: 15.15.15.35
IPV4 SOURCE ADDRESS: 72.163.128.140
IP PROTOCOL: 17
TRNS SOURCE PORT: 53
TRNS DESTINATION PORT: 12032
counter bytes long: 128
counter packets long: 1
timestamp abs first: 06:23:24.799
timestamp abs last: 06:23:24.799
interface input: Null
interface output: Null
```

show platform software et-analytics

et-analytics 設定を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform software et-analytics** コマンドを使用します。

show platform software et-analytics {global | interfaces}

構文の説明	global	グローバル et-analytics 設定を表示します。
	インターフェイス	インターフェイス et-analytics 設定を表示します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例：

次に、グローバル et-analytics 設定を表示する例を示します。

```
Device>enable
Device#configure terminal
Device# show platform software et-analytics global
```

```
ET-Analytics Global state
=====
All Interfaces : Off
IP Flow-record Destination: 10.126.71.20 : 2055
Inactive timer: 0
ET-Analytics interfaces
GigabitEthernet1/0/3
```

次に、グローバル et-analytics 設定を表示する例を示します。

```
Device>enable
Device#configure terminal
Device# show platform software et-analytics interfaces
```

```
ET-Analytics interfaces
GigabitEthernet1/0/3
```


show platform software fed switch active fnf et-analytics-flow-dump

インターフェイス et-analytics フローダンプを表示するには、特権 EXEC モードで **show platform software fed switch active fnf et-analytics-flow-dump** コマンドを使用します。

show platform software fed switch active fnf et-analytics-flow-dump

コマンドデフォルト	なし	
コマンドモード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例：

次に、インターフェイス et-analytics フローダンプを表示する例を示します。

```
Device>enable
Device#configure terminal
Device# show platform software fed switch active fnf et-analytics-flow-dump

ET Analytics Flow dump
=====
Total packets received (27)
Excess packets received (0)
(Index:0) 72.163.128.140, 15.15.15.35, protocol=17, source port=53, dest port=12032,
flow
done=u
SPLT: len = 2, value = (25600,0) (128,0)
IDP: len = 128, value = 45:0:0:80:f0:6c:0:0:f9:11:
(Index:1) 72.163.128.140, 15.15.15.35, protocol=17, source port=53, dest port=32356,
flow
done=u
SPLT: len = 2, value = (59649,0) (128,0)
IDP: len = 517, value = 45:0:2:5:c3:1:0:0:f9:11:
(Index:2) 15.15.15.35, 72.163.128.140, protocol=17, source port=12032, dest port=53,
flow
done=u
SPLT: len = 2, value = (10496,0) (128,0)
IDP: len = 69, value = 45:0:0:45:62:ae:40:0:40:11:
(Index:3) 15.15.15.35, 72.163.128.140, protocol=17, source port=32356, dest port=53,
flow
done=u
SPLT: len = 2, value = (10496,0) (128,0)
IDP: len = 69, value = 45:0:0:45:62:ad:40:0:40:11:
```

sampler

Flexible NetFlow フローサンプラーを作成するか既存の Flexible NetFlow フローサンプラーを変更し、Flexible NetFlow フロー サンプラー コンフィギュレーションモードを開始するには、グローバル コンフィギュレーションモードで **sampler** コマンドを使用します。サンプラーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

sampler *sampler-name*
no sampler *sampler-name*

構文の説明	<i>sampler-name</i> 作成または変更するフローサンプラーの名前。
-------	---

コマンド デフォルト	Flexible NetFlow フローサンプラーは設定されません。
------------	------------------------------------

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション
----------	-------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン フローサンプラーは分析されるパケット数を制限することで、トラフィックをモニタするために Flexible NetFlow によってネットワークデバイスで生じる負荷を軽減するために使用されます。2～1024 パケットの範囲から 1 パケットの割合でサンプリング レートを設定します。フローサンプラーは、サンプリングされた Flexible NetFlow を実装するためにフローモニタとともにインターフェイスに適用されます。

フロー サンプリングをイネーブルにするには、トラフィック分析に使用して、フロー モニタに割り当てるレコードを設定します。インターフェイスにサンプラーを含むフローモニタを適用すると、サンプリングされたパケットはサンプラーによって指定されたレートで分析され、フローモニタに対応するフローレコードと比較されます。分析されるパケットがフローレコードによって指定された条件を満たす場合、フロー モニタ キャッシュに追加されます。

例 次に、フロー サンプラーの名前 SAMPLER-1 を作成する例を示します。

```
Device(config)# sampler SAMPLER-1
Device(config-sampler)#
```

show capability feature monitor

モニタ機能に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show capability feature monitor** コマンドを使用します。

show capability feature monitor {erspan-destination | erspan-source}

構文の説明	erspan-destination 設定済みの Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) 送信元セッションに関する情報を表示します。				
	erspan-source すべての設定済みのグローバル組み込みテンプレートを表示します。				
コマンドモード	特権 EXEC (#)				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

例

次に、**show capability feature monitor erspan-source** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show capability feature monitor erspan-source

ERSPAN Source Session Supported: true
No of Rx ERSPAN source session: 8
No of Tx ERSPAN source session: 8
ERSPAN Header Type supported: II
ACL filter Supported: true
Fragmentation Supported: true
Truncation Supported: false
Sequence number Supported: false
QOS Supported: true
```

次に、**show capability feature monitor erspan-destination** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show capability feature monitor erspan-destination

ERSPAN Destination Session Supported: false
```

関連コマンド	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>monitor session type erspan-source</td> <td>ERSPAN 送信元セッション番号を作成するか、セッションに対して ERSPAN セッションコンフィギュレーションモードを開始します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	monitor session type erspan-source	ERSPAN 送信元セッション番号を作成するか、セッションに対して ERSPAN セッションコンフィギュレーションモードを開始します。
コマンド	説明				
monitor session type erspan-source	ERSPAN 送信元セッション番号を作成するか、セッションに対して ERSPAN セッションコンフィギュレーションモードを開始します。				

show class-map type control subscriber

設定されている制御ポリシーのクラスマップ統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show class-map type control subscriber** コマンドを使用します。

show class-map type control subscriber {all | name *control-class-name*}

構文の説明	all	すべての制御ポリシーのクラスマップ統計情報を表示します。
	name <i>control-class-name</i>	指定した制御ポリシーのクラスマップ統計情報を表示します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

例

次に、**show class-map type control subscriber name *control-class-name*** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show class-map type control subscriber name platform

Class-map          Action          Exec  Hit  Miss  Comp
-----          -
match-all platform  match platform-type C9xxx  0    0    0    0
Key:
  "Exec" - The number of times this line was executed
  "Hit" - The number of times this line evaluated to TRUE
  "Miss" - The number of times this line evaluated to FALSE
  "Comp" - The number of times this line completed the execution of its
           condition without a need to continue on to the end
```

show ip sla statistics

Cisco IOS IP サービスレベル契約（SLA）のすべての動作または指定された動作の現在または集約された動作ステータスおよび統計情報を表示するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show ip sla statistics** コマンドを使用します。

show ip sla statistics [*operation-number* [**details**]] | **aggregated** [*operation-number* | **details**] | **details**]

構文の説明	<i>operation-number</i>	(任意) 動作ステータスおよび統計情報を表示する動作の番号。受け入れられる値の範囲は 1 ~ 2147483647 です。
	details	(任意) 詳細出力を指定します。
	aggregated	(任意) IP SLA 集約統計を指定します。

コマンドデフォルト 稼働しているすべての IP SLA 動作の出力を表示します。

コマンドモード ユーザ EXEC

特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 動作の残りの継続時間、動作がアクティブかどうか、完了時刻など、IP SLA 動作の現在の状態を表示するには、**show ip sla statistics** を使用します。出力には、最後の（最近完了した）動作に対して返されたモニタリングデータも含まれます。この生成された操作 ID は、基本マルチキャスト操作に対して、また操作全体の要約統計の一部として **show ip sla** コンフィギュレーション コマンドを使用すると表示されます。

あるレスポンスに対して詳細を表示するには、その特定の操作 ID に **show** コマンドを入力します。

例

次に、**show ip sla statistics** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show ip sla statistics

Current Operational State
Entry Number: 3
Modification Time: *22:15:43.000 UTC Sun Feb 11 2001
Diagnostics Text:
Last Time this Entry was Reset: Never
Number of Octets in use by this Entry: 1332
Number of Operations Attempted: 2
Current Seconds Left in Life: 3511
```

show ip sla statistics

```
Operational State of Entry: active
Latest Completion Time (milliseconds): 544
Latest Operation Start Time: *22:16:43.000 UTC Sun Feb 11 2001
Latest Oper Sense: ok
Latest Sense Description: 200 OK
Total RTT: 544
DNS RTT: 12
TCP Connection RTT: 28
HTTP Transaction RTT: 504
HTTP Message Size: 9707
```

show monitor

すべてのスイッチドポートアナライザ (SPAN) およびリモート SPAN (RSPAN) セッションに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show monitor** コマンドを使用します。

show monitor [**session** {*session_number* | **all** | **local** | **range list** | **remote**} [**detail**]]

構文の説明

session	(任意) 指定された SPAN セッションの情報を表示します。
<i>session_number</i>	SPAN または RSPAN セッションで識別されるセッション番号。指定できる範囲は 1 ~ 66 です。
all	(任意) すべての SPAN セッションを表示します。
local	(任意) ローカル SPAN セッションだけを表示します。
range list	(任意) 一定範囲の SPAN セッションを表示します。 <i>list</i> は有効なセッションの範囲です。 range は単一のセッション、または 2 つの数字を小さい数字からハイフンで区切ったセッションの範囲です。カンマ区切りのパラメータ間、またはハイフン指定の範囲にスペースは入力しません。 (注) このキーワードは、特権 EXEC モードの場合だけ使用可能です。
remote	(任意) リモート SPAN セッションだけを表示します。
detail	(任意) 指定されたセッションの詳細情報を表示します。

コマンドモード

ユーザ EXEC
特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show monitor コマンドと **show monitor session all** コマンドの出力は同じです。

SPAN 送信元セッションの最大数 : 2 (送信元およびローカルセッションに適用)

例

次に、**show monitor** ユーザ EXEC コマンドの出力例を示します。

```
Device# show monitor
Session 1
-----
Type : Local Session
Source Ports :
RX Only : Gi4/0/1
Both : Gi4/0/2-3,Gi4/0/5-6
Destination Ports : Gi4/0/20
Encapsulation : Replicate
Ingress : Disabled
Session 2
-----
Type : Remote Source Session
Source VLANs :
TX Only : 10
Both : 1-9
Dest RSPAN VLAN : 105
```

次の例では、ローカル SPAN 送信元セッション 1 に対する **show monitor** ユーザ EXEC コマンドの出力を示します。

```
Device# show monitor session 1
Session 1
-----
Type : Local Session
Source Ports :
RX Only : Gi4/0/1
Both : Gi4/0/2-3,Gi4/0/5-6
Destination Ports : Gi4/0/20
Encapsulation : Replicate
Ingress : Disabled
```

次の例では、入力トラフィック転送をイネーブルにした場合の **show monitor session all** ユーザ EXEC コマンドの出力を示します。

```
Device# show monitor session all
Session 1
-----
Type : Local Session
Source Ports :
Both : Gi4/0/2
Destination Ports : Gi4/0/3
Encapsulation : Native
Ingress : Enabled, default VLAN = 5
Ingress encap : DOT1Q
Session 2
-----
Type : Local Session
Source Ports :
Both : Gi4/0/8
Destination Ports : Gi4/0/12
```



```
Encapsulation : Replicate  
Ingress : Enabled, default VLAN = 4  
Ingress encap : Untagged
```

show monitor capture

モニタキャプチャ（WireShark）の内容を表示するには、特権 EXEC モードで **show monitor capture file** コマンドを使用します。

show monitor capture [*capture-name* [**buffer**] | **file** *file-location* : *file-name*][**brief** | **detailed** | **display-filter** *display-filter-string*]

構文の説明	<i>capture-name</i>	(任意) 表示するキャプチャの名前を指定します。
	buffer	(任意) 指定されたキャプチャに関連するバッファが表示されることを指定します。
	file <i>file-location</i> : <i>file-name</i>	(任意) 表示するキャプチャストレージファイルのファイル位置と名前を指定します。
	brief	(任意) 表示内容の概要を指定します。
	detailed	(任意) 詳細な表示内容を指定します。
	display-filter <i>display-filter-string</i> <i>display-filter-string</i>	<i>display-filter-string</i> に従って表示内容をフィルタ処理します。
コマンドデフォルト	すべてのキャプチャの内容を表示します。	
コマンドモード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	none	

例

mycap という名前のキャプチャのキャプチャを表示するには次を実行します。

```
Device# show monitor capture mycap

Status Information for Capture mycap
Target Type:
Interface: CAPWAP,
  Ingress:
0
  Egress:
0
Status : Active
Filter Details:
  Capture all packets
Buffer Details:
```

```
Buffer Type: LINEAR (default)
File Details:
Associated file name: flash:mycap.pcap
Size of buffer(in MB): 1
Limit Details:
Number of Packets to capture: 0 (no limit)
Packet Capture duration: 0 (no limit)
Packet Size to capture: 0 (no limit)
Packets per second: 0 (no limit)
Packet sampling rate: 0 (no sampling)
```

show monitor session

スイッチドポートアナライザ (SPAN)、リモート SPAN (RSPAN)、および Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) のセッションに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show monitor session** コマンドを使用します。

```
show monitor session {session_number | all | erspan-destination | erspan-source | local
| range list | remote} [detail]
```

構文の説明

<i>session_number</i>	SPAN または RSPAN セッションで識別されるセッション番号。指定できる範囲は 1 ~ 66 です。
all	すべての SPAN セッションを表示します。
erspan-source	送信元 ERSPAN セッションだけを表示します。
erspan-destination	宛先 ERSPAN セッションだけを表示します。
local	ローカル SPAN セッションだけを表示します。
range list	一定範囲の SPAN セッションを表示します。 <i>list</i> は有効なセッションの範囲です。 range は単一のセッション、または 2 つの数字を小さい数字からハイフンで区切ったセッションの範囲です。カンマ区切りのパラメータ間、またはハイフン指定の範囲にスペースは入力しません。 (注) このキーワードは、特権 EXEC モードの場合だけ使用可能です。
remote	リモート SPAN セッションだけを表示します。
detail	(任意) 指定されたセッションの詳細情報を表示します。

コマンドモード

ユーザ EXEC (>)
特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	erspan-destination キーワードが導入されました。

使用上のガイドライン ローカルの ERSPAN 送信元セッションの最大数は 8 です。

例

次に、ローカル SPAN 送信元セッション 1 に対する **show monitor session** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show monitor session 1
Session 1
-----
Type : Local Session
Source Ports :
RX Only : Gi4/0/1
Both : Gi4/0/2-3,Gi4/0/5-6
Destination Ports : Gi4/0/20
Encapsulation : Replicate
Ingress : Disabled
```

次に、入力トラフィックの転送が有効になっている場合の **show monitor session all** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show monitor session all
Session 1
-----
Type : Local Session
Source Ports :
Both : Gi4/0/2
Destination Ports : Gi4/0/3
Encapsulation : Native
Ingress : Enabled, default VLAN = 5
Ingress encap : DOT1Q
Session 2
-----
Type : Local Session
Source Ports :
Both : Gi4/0/8
Destination Ports : Gi4/0/12
Encapsulation : Replicate
Ingress : Enabled, default VLAN = 4
Ingress encap : Untagged
```

次に、**show monitor session erspan-source** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show monitor session erspan-source

Type : ERSPAN Source Session
Status : Admin Enabled
Source Ports :
RX Only : Gi1/4/33
Destination IP Address : 20.20.163.20
Destination ERSPAN ID : 110
Origin IP Address : 10.10.10.216
IPv6 Flow Label : None
```

次に、**show monitor session erspan-destination** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show monitor session erspan-destination

Type                : ERSPAN Destination Session
Status              : Admin Enabled
Source IP Address    : 10.10.10.210
Source ERSPAN ID    : 40
```

show parameter-map type subscriber attribute-to-service

パラメータマップの統計を表示するには、特権 EXEC モードで **show parameter-map type subscriber attribute-to-service** コマンドを使用します。

show parameter-map type subscriber attribute-to-service {all | name *parameter-map-name*}

構文の説明	all	すべてのパラメータマップの統計を表示します。
	name <i>parameter-map-name</i>	指定したパラメータマップの統計を表示します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

例

次に、**show parameter-map type subscriber attribute-to-service name *parameter-map-name*** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show parameter-map type subscriber attribute-to-service name platform
```

```
Parameter-map name: platform
Map: 10 platform-type regex "C9xxx"
Action(s):
  10 interface-template critical
```

show platform software fed switch ip wccp

プラットフォーム依存 Web Cache Communication Protocol (WCCP) 情報を表示するには、**show platform software fed switch ip wccp** 特権 EXEC コマンドを使用します。

```
show platform software fed switch{switch-number|active|standby}ip
wccp{cache-engines |interfaces |service-groups}
```

構文の説明

switch{*switch_num*|**active**|**standby**} 情報を表示するデバイス。

- **switch_num** : スイッチ ID を入力します。指定されたスイッチに関する情報を表示します。
- **active** : アクティブスイッチの情報を表示します。
- **standby** : 存在する場合、スタンバイスイッチの情報を表示します。

cache-engines WCCP キャッシュ エンジンを表示します。

interfaces WCCP インターフェイスを表示します。

service-groups WCCP サービス グループを表示します。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、テクニカルサポート担当者とともに問題解決を行う場合にだけ使用してください。テクニカルサポート担当者がこのコマンドの使用を推奨した場合以外には使用しないでください。

このコマンドは、デバイスが IP サービスフィーチャセットを実行している場合だけ使用可能です。

次に、WCCP インターフェイスを表示する例を示します。

```
Device# show platform software fed switch 1 ip wccp interfaces
```

```
WCCP Interface Info
```

```
=====
```

```
**** WCCP Interface: Port-channel13 iif_id: 000000000000007c (#SG:3), VRF: 0 Ingress
WCCP ****
port_handle:0x20000f9
```

```
List of Service Groups on this interface:
```



```
* Service group id:90 vrf_id:0 (ref count:24)
type: Dynamic      Open service      prot: PROT_TCP    l4_type: Dest ports    priority:
35
Promiscuous mode (no ports).

* Service group id:70 vrf_id:0 (ref count:24)
type: Dynamic      Open service      prot: PROT_TCP    l4_type: Dest ports    priority:
35
Promiscuous mode (no ports).

* Service group id:60 vrf_id:0 (ref count:24)
type: Dynamic      Open service      prot: PROT_TCP    l4_type: Dest ports    priority:
35
Promiscuous mode (no ports).

**** WCCP Interface: Port-channel14 iif_id: 0000000000000007e (#SG:3), VRF: 0 Ingress
WCCP ****
port_handle:0x880000fa

List of Service Groups on this interface:
* Service group id:90 vrf_id:0 (ref count:24)
type: Dynamic      Open service      prot: PROT_TCP    l4_type: Dest ports    priority:
35
Promiscuous mode (no ports).

* Service group id:70 vrf_id:0 (ref count:24)
type: Dynamic      Open service      prot: PROT_TCP    l4_type: Dest ports    priority:
35
Promiscuous mode (no ports).
<output truncated>
```

show platform software swspan

スイッチドポートアナライザ（SPAN）情報を表示するには、特権EXECモードで **show platform software swspan** コマンドを使用します。

```
show platform software swspan {switch} {{{F0 | FP active} counters} | R0 | RP active}
{destination sess-id session-ID | source sess-id session-ID}
```

構文の説明	switch	スイッチに関する情報を表示します。
	F0	Embedded Service Processor（ESP）スロット 0 に関する情報を表示します。
	FP	ESP に関する情報を表示します。
	active	ESP またはルートプロセッサ（RP）のアクティブインスタンスに関する情報を表示します。
	counters	SWSPAN メッセージカウンタを表示します。
	R0	RP スロット 0 に関する情報を表示します。
	RP	RP に関する情報を表示します。
	destination sess-id session-ID	指定された宛先セッションに関する情報を表示します。
	source sess-id session-ID	指定された送信元セッションに関する情報を表示します。

コマンドモード 特権 EXEC（#）

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドは、Cisco IOS Release 16.1.1 よりも前のリリースで導入されました。

使用上のガイドライン セッション番号が存在しないか、SPAN セッションがリモート接続先セッションの場合、コマンド出力には「% Error: No Information Available」のメッセージが表示されます。

例

次に、**show platform software swspan FP active source** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show platform software swspan FP active source sess-id 0

Showing SPAN source detail info

Session ID : 0
Intf Type : PORT
Port dpidx : 30
PD Sess ID : 1
Session Type : Local
```

```
Direction : Ingress
Filter Enabled : No
ACL Configured : No
AOM Object id : 579
AOM Object Status : Done
Parent AOM object Id : 118
Parent AOM object Status : Done
```

```
Session ID : 9
Intf Type : PORT
Port dpidx : 8
PD Sess ID : 0
Session Type : Local
Direction : Ingress
Filter Enabled : No
ACL Configured : No
AOM Object id : 578
AOM Object Status : Done
Parent AOM object Id : 70
Parent AOM object Status : Done
```

次に、**show platform software swspan RP active destination** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show platform software swspan RP active destination

Showing SPAN destination table summary info

Sess-id IF-type IF-id Sess-type
-----
1 PORT 19 Remote
```

show flow exporter

フローエクスポートのステータスと統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show flow exporter** コマンドを使用します。

```
show flow exporter [{broker [{detail | picture}] | export-ids netflow-v9 | [name] exporter-name
[statistics | templates}] | statistics | templates}]
```

構文の説明	broker	(任意) Flexible NetFlow フローエクスポートのブローカのステータスに関する情報を表示します。
	detail	(任意) フローエクスポートのブローカに関する詳細な情報を表示します。
	picture	(任意) ブローカ状態の画像を表示します。
	export-ids netflow-v9	(任意) エクスポート可能な NetFlow バージョン 9 エクスポートフィールドとその ID を表示します。
	name	(任意) フローエクスポートの名前を指定します。
	<i>exporter-name</i>	(任意) 以前に設定されたフローエクスポートの名前。
	statistics	(任意) すべてのフローエクスポートまたは指定されたフローエクスポートの統計情報を表示します。
	templates	(任意) すべてのフローエクスポートまたは指定されたフローエクスポートのテンプレート情報を表示します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、デバイスで設定されているすべてのフローエクスポートのステータスと統計情報を表示する例を示します。

```
Device# show flow exporter
Flow Exporter FLOW-EXPORTER-1:
  Description:           Exports to the datacenter
  Export protocol:       NetFlow Version 9
  Transport Configuration:
    Destination IP address: 192.168.0.1
    Source IP address:     192.168.0.2
    Transport Protocol:    UDP
    Destination Port:      9995
```

```

Source Port:          55864
DSCP:                0x0
TTL:                 255
Output Features:     Used

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドについて説明します。

表 1: *show flow exporter* のフィールドの説明

フィールド	説明
Flow Exporter	設定したフロー エクスポートの名前。
Description	エクスポートに設定した説明、またはユーザ定義のデフォルトの説明。
Transport Configuration	このエクスポートのトランスポート設定フィールド。
Destination IP address	宛先ホストの IP アドレス。
Source IP address	エクスポートされたパケットで使用される送信元 IP アドレス。
Transport Protocol	エクスポートされたパケットで使用されるトランスポート層プロトコル。
Destination Port	エクスポートされたパケットが送信される宛先 UDP ポート。
Source Port	エクスポートされたパケットが送信される送信元 UDP ポート。
DSCP	Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServ コードポイント) 値。
TTL	存続可能時間値。
Output Features	output-features コマンドが使用されたかどうかを指定します。このコマンドが使用されると、Flexible NetFlow エクスポートパケット上で出力機能が実行されます。

次に、デバイスで設定されているすべてのフローエクスポートのステータスと統計情報を表示する例を示します。

```

Device# show flow exporter name FLOW-EXPORTER-1 statistics
Flow Exporter FLOW-EXPORTER-1:
  Packet send statistics (last cleared 2w6d ago):
    Successfully sent:          0                (0 bytes)

```

show flow interface

インターフェイスの Flexible NetFlow 設定およびステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show flow interface** コマンドを使用します。

show flow interface [*type number*]

構文の説明	<i>type</i> (任意) Flexible NetFlow アカウンティング設定情報を表示するインターフェイスのタイプ。
	<i>number</i> (任意) Flexible NetFlow アカウンティング設定情報を表示するインターフェイスの番号。
コマンドモード	特権 EXEC
コマンド履歴	リリース 変更内容 Cisco IOS XE Everest 16.5.1a このコマンドが導入されました。

例

次に、イーサネットインターフェイス 0/0 と 0/1 の Flexible NetFlow アカウンティング設定を表示する例を示します。

```
Device# show flow interface gigabitethernet1/0/1

Interface Ethernet1/0
  monitor:          FLOW-MONITOR-1
  direction:        Output
  traffic(ip):       on
Device# show flow interface gigabitethernet1/0/2
Interface Ethernet0/0
  monitor:          FLOW-MONITOR-1
  direction:        Input
  traffic(ip):       sampler SAMPLER-2#
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 2: **show flow interface** のフィールドの説明

フィールド	説明
Interface	情報が適用されるインターフェイス。
monitor	インターフェイス上に設定されているフローモニタの名前。

フィールド	説明
direction:	フローモニタによってモニタされているトラフィックの方向。 次の値が可能です。 <ul style="list-style-type: none">• Input : インターフェイスが受信しているトラフィック。• Output : インターフェイスが送信しているトラフィック。
traffic(ip)	フローモニタが通常モードとサンプラーモードのどちらであることを示します。 次の値が可能です。 <ul style="list-style-type: none">• on : 通常モード。• sampler : サンプラーモード (サンプラーの名前も表示されます)。

show flow monitor

Flexible NetFlow フローモニタのステータスと統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show flow monitor** コマンドを使用します。

```
show flow monitor [{broker [{detail | picture}] | [name] monitor-name [{cache [format {csv | record | table}]}] | provisioning | statistics}]
```

構文の説明	
broker	(任意) フロー モニタのブローカの状態に関する情報を表示します。
detail	(任意) フロー モニタのブローカに関する詳細情報を表示します。
picture	(任意) ブローカ状態の画像を表示します。
name	(任意) フロー モニタの名前を指定します。
<i>monitor-name</i>	(任意) 事前に設定されたフロー モニタの名前。
cache	(任意) フロー モニタのキャッシュの内容を表示します。
format	(任意) ディスプレイ出力のフォーマット オプションのいずれかを使用することを指定します。
csv	(任意) フロー モニタのキャッシュの内容をカンマ区切り値 (CSV) 形式で表示します。
record	(任意) フロー モニタのキャッシュの内容をレコード形式で表示します。
table	(任意) フロー モニタのキャッシュの内容を表形式で表示します。
provisioning	(任意) フロー モニタのプロビジョニング情報を表示します。
statistics	(任意) フロー モニタの統計情報を表示します。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **cache** キーワードでは、デフォルトでレコード形式が使用されます。

show flowmonitor monitor-name cache コマンドのディスプレイ出力に含まれる大文字のフィールド名は、フローの識別に Flexible NetFlow が使用するキーフィールドです。 **show flow monitor monitor-name cache** コマンドのディスプレイ出力に含まれる小文字のフィールド名は、Flexible NetFlow がキャッシュの追加データとして値を収集する非キーフィールドです。

例

次の例では、フロー モニタのステータスを表示します。

```
Device# show flow monitor FLOW-MONITOR-1

Flow Monitor FLOW-MONITOR-1:
  Description:      Used for basic traffic analysis
  Flow Record:     flow-record-1
  Flow Exporter:   flow-exporter-1
                  flow-exporter-2

  Cache:
    Type:           normal
    Status:         allocated
    Size:           4096 entries / 311316 bytes
    Inactive Timeout: 15 secs
    Active Timeout: 1800 secs
    Update Timeout: 1800 secs
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 3: `show flow monitor monitor-name` フィールドの説明

フィールド	説明
Flow Monitor	設定したフロー モニタの名前。
Description	モニタに設定した説明、またはユーザ定義のデフォルトの説明。
Flow Record	フロー モニタに割り当てられたフロー レコード。
Flow Exporter	フロー モニタに割り当てられたエクスポータ。
Cache	フロー モニタのキャッシュに関する情報。
Type	フロー モニタのキャッシュ タイプ。 次の値が可能です。 <ul style="list-style-type: none"> • immediate : フローは即座に期限切れになります。 • normal : フローは通常どおり期限切れになります。 • Permanent : フローは期限切れになりません。
Status	フロー モニタのキャッシュのステータス。 次の値が可能です。 <ul style="list-style-type: none"> • allocated : キャッシュが割り当てられています。 • being deleted : キャッシュが削除されています。 • not allocated : キャッシュが割り当てられていません。
Size	現在のキャッシュ サイズ。

フィールド	説明
Inactive Timeout	非アクティブ タイムアウトの現在の値 (秒単位)。
Active Timeout	アクティブ タイムアウトの現在の値 (秒単位)。
Update Timeout	更新タイムアウトの現在の値 (秒単位)。

次の例では、FLOW-MONITOR-1 という名前のフロー モニタのステータス、統計情報、およびデータを表示します。

```
Device# show flow monitor FLOW-MONITOR-1 cache
Cache type:                               Normal (Platform cache)
Cache size:                                Unknown
Current entries:                           1

Flows added:                               3
Flows aged:                                2
  - Active timeout      ( 300 secs)        2

DATALINK MAC SOURCE ADDRESS INPUT:         0000.0000.1000
DATALINK MAC DESTINATION ADDRESS INPUT:    6400.F125.59E6
IPV6 SOURCE ADDRESS:                       2001:DB8::1
IPV6 DESTINATION ADDRESS:                  2001:DB8:1::1
TRNS SOURCE PORT:                          1111
TRNS DESTINATION PORT:                     2222
IP VERSION:                                6
IP PROTOCOL:                               6
IP TOS:                                    0x05
IP TTL:                                    11
tcp flags:                                 0x20
counter bytes long:                         132059538
counter packets long:                       1158417
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 4: show flow monitor monitor-name cache フィールドの説明

フィールド	説明
Cache type	フローモニタのキャッシュタイプ。この値は常に normal となります。これが唯一サポートされているキャッシュタイプです。
Cache Size	キャッシュ内のエントリ数。
Current entries	キャッシュ内の使用中のエントリ数。
Flows added	キャッシュの作成後にキャッシュに追加されたフロー。
Flows aged	キャッシュの作成後に期限切れになったフロー。
Active timeout	アクティブ タイムアウトの現在の値 (秒単位)。
Inactive timeout	非アクティブ タイムアウトの現在の値 (秒単位)。

フィールド	説明
DATALINK MAC SOURCE ADDRESS INPUT	入力パケットの MAC 送信元アドレス。
DATALINK MAC DESTINATION ADDRESS INPUT	入力パケットの MAC 宛先アドレス。
IPV6 SOURCE ADDRESS	IPv6 送信元アドレスです。
IPV6 DESTINATION ADDRESS	IPv6 宛先アドレス。
TRNS SOURCE PORT	トランスポート プロトコルの送信元ポート。
TRNS DESTINATION PORT	トランスポート プロトコルの宛先ポート。
IP VERSION	IP バージョン。
IP PROTOCOL	プロトコル番号。
IP TOS	IP タイプ オブ サービス (ToS) の値。
IP TTL	IP 存続可能時間 (TTL) の値。
tcp flags	TCP フラグの値。
counter bytes	カウントされたバイト数。
counter packets	カウントされたパケット数。

次の例では、FLOW-MONITOR-1 という名前のフロー モニタのステータス、統計情報、およびデータを表形式で表示します。

```

Device# show flow monitor FLOW-MONITOR-1 cache format table
Cache type:                Normal (Platform cache)
Cache size:                 Unknown
Current entries:            1

Flows added:                3
Flows aged:                 2
  - Active timeout         ( 300 secs) 2

DATALINK MAC SRC ADDR INPUT  DATALINK MAC DST ADDR INPUT  IPV6 SRC ADDR  IPV6 DST ADDR
TRNS SRC PORT  TRNS DST PORT  IP VERSION  IP PROT  IP TOS  IP TTL  tcp flags  bytes
long  pkts long
=====
=====
=====
0000.0000.1000                6400.F125.59E6                2001:DB8::1    2001:DB8:1::1
      1111                2222                6                6 0x05                11 0x20                132059538
1158417
    
```

次の例では、FLOW-MONITOR-IPv6 という名前のフロー モニタ (キャッシュに IPv6 データを格納) のステータス、統計情報、およびデータをレコード形式で表示します。

```
Device# show flow monitor name FLOW-MONITOR-IPv6 cache format record
Cache type:                               Normal (Platform cache)
Cache size:                               Unknown
Current entries:                          1

Flows added:                              3
Flows aged:                               2
  - Active timeout      ( 300 secs)      2

DATALINK MAC SOURCE ADDRESS INPUT:        0000.0000.1000
DATALINK MAC DESTINATION ADDRESS INPUT:    6400.F125.59E6
IPV6 SOURCE ADDRESS:                      2001::2
IPV6 DESTINATION ADDRESS:                 2002::2
TRNS SOURCE PORT:                         1111
TRNS DESTINATION PORT:                   2222
IP VERSION:                               6
IP PROTOCOL:                              6
IP TOS:                                   0x05
IP TTL:                                   11
tcp flags:                                0x20
counter bytes long:                       132059538
counter packets long:                     1158417
```

次の例では、フロー モニタのステータスと統計情報を表示します。

```
Device# show flow monitor FLOW-MONITOR-1 statistics
Cache type:                               Normal (Platform cache)
Cache size:                               Unknown
Current entries:                          1

Flows added:                              3
Flows aged:                               2
  - Active timeout      ( 300 secs)      2
```

show flow record

Flexible NetFlow フローレコードのステータスと統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show flow record** コマンドを使用します。

```
show flow record [{broker} [{detail | picture}] [name] record-name}]
```

構文の説明	broker (任意) Flexible NetFlow フローレコードのブローカの状態に関する情報を表示します。				
	detail (任意) フローレコードのブローカに関する詳細な情報を表示します。				
	picture (任意) ブローカ状態の画像を表示します。				
	name (任意) フローレコードの名前を指定します。				
	<i>record-name</i> (任意) 前に設定されたユーザ定義のフローレコードの名前。				
コマンドデフォルト	なし				
コマンドモード	特権 EXEC				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

次に、FLOW-RECORD-1 のステータスおよび統計情報を表示する例を示します。

```
Device# show flow record FLOW-RECORD-1
flow record FLOW-RECORD-1:
  Description:      User defined
  No. of users:    0
  Total field space: 24 bytes
  Fields:
    match ipv6 destination address
    match transport source-port
    collect interface input
```

show sampler

Flexible NetFlow サンプラーのステータスと統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show sampler** コマンドを使用します。

```
show sampler [{broker [{detail | picture}]] [name] sampler-name}]
```

構文の説明	
broker	(任意) Flexible NetFlow サンプラーのブローカのステータスに関する情報を表示します。
detail	(任意) サンプラーのブローカに関する詳細な情報を表示します。
picture	(任意) ブローカ状態の画像を表示します。
name	(任意) サンプラーの名前を指定します。
<i>sampler-name</i>	(任意) 前に設定されたサンプラーの名前。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、設定されたフローサンプラーすべてのステータスと統計情報を表示する例を示します。

```
Device# show sampler
Sampler SAMPLER-1:
  ID:                2083940135
  export ID:         0
  Description:       User defined
  Type:              Invalid (not in use)
  Rate:              1 out of 32
  Samples:           0
  Requests:          0
  Users (0):

Sampler SAMPLER-2:
  ID:                3800923489
  export ID:         1
  Description:       User defined
  Type:              random
  Rate:              1 out of 100
  Samples:           1
  Requests:          124
  Users (1):
    flow monitor FLOW-MONITOR-1 (datalink,vlan1) 0 out of 0
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 5: *show sampler* のフィールドの説明

フィールド	説明
ID	フロー サンプラーの ID 番号。
Export ID	フロー サンプラーのエクスポートの ID。
Description	フローサンプラーに設定した説明、またはユーザ定義のデフォルトの説明。
Type	フロー サンプラーに設定したサンプリングモード。
Rate	フローサンプラーに設定したウィンドウサイズ (パケットの選択用)。指定できる範囲は 2 ~ 32768 です。
Samples	フローサンプラーを設定してから、またはデバイスを再起動してからサンプリングされたパケットの数。この数は、トラフィックのサンプリングが必要かどうかを決定するためにサンプラーが呼び出されたときに肯定応答を受信した回数と同じです。この表の Requests フィールドの説明を参照してください。
Requests	トラフィックのサンプリングが必要かどうかを決定するためにサンプラーが呼び出された回数。
Users	フロー サンプラーが設定されるインターフェイス。

show snmp stats

SNMP の統計を表示するには、特権 EXEC モードで **show snmp stats** コマンドを使用します。

```
show snmp stats { hosts | oid }
```

構文の説明

hosts SNMP エージェントにポーリングされた SNMP サーバの詳細を表示します。

oid 最近要求されたオブジェクト識別子 (OID) を表示します。

コマンド デフォルト

SNMP エージェントにポーリングされた SNMP マネージャエントリを表示します。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.1.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show snmp stats hosts コマンドは、NMS の IP アドレス、NMS がエージェントをポーリングした回数、およびポーリングのタイムスタンプを一覧表示するために使用します。SNMP エージェントにポーリングされたエントリを削除するには、**clear snmp stats hosts** コマンドを使用します。

show snmp stats oid コマンドを実行する前に、デバイスを NMS に接続します。コマンド出力には、NMS から最近要求された OID のリストが表示されます。また、オブジェクト ID が NMS から要求された回数も示します。この情報は、NMS が照会している MIB に関する情報がほとんどない場合に、メモリリークやネットワーク障害のトラブルシューティングに役立ちます。

show snmp stats oid コマンドを使用すると、NMS から最近要求された OID をいつでも確認できます。

次に、**show snmp stats hosts** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show snmp stats hosts
Request Count          Last Timestamp          Address
2                    00:00:01 ago            3.3.3.3
1                    1w2d ago                 2.2.2.2
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 6: **show snmp stats hosts** のフィールドの説明

フィールド	説明
Request Count	SNMP マネージャから SNMP エージェントに要求が送信された回数が表示されます。

フィールド	説明
Last Timestamp	SNMP マネージャから SNMP エージェントに要求が送信された時刻が表示されます。
アドレス (Address)	要求を送信した SNMP マネージャの IP アドレスが表示されます。

次に、**show snmp stats oid** コマンドの出力例を示します。

Device# **show snmp stats oid**

```

time-stamp                #of times requested      OID
15:30:01 UTC Dec 2 2019      6      ifPhysAddress
15:30:01 UTC Dec 2 2019     10      system.2
15:30:01 UTC Dec 2 2019      9      system.1
09:39:39 UTC Nov 26 2019      3      system.5
09:39:39 UTC Nov 26 2019      3      stem.4
09:39:39 UTC Nov 26 2019      3      system.7
09:39:39 UTC Nov 26 2019      2      system.6
09:39:39 UTC Nov 26 2019     10      ceemEventMapEntry.2
09:39:39 UTC Nov 26 2019      6      ipAddrEntry.4
09:39:39 UTC Nov 26 2019      3      ipAddrEntry.5
09:39:39 UTC Nov 26 2019     10      ipAddrEntry.3
09:39:39 UTC Nov 26 2019      7      ipAddrEntry.2
09:39:39 UTC Nov 26 2019      4      ipAddrEntry.1
09:39:39 UTC Nov 26 2019      1      lsystem.3

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 7: **show snmp stats oid** のフィールドの説明

フィールド	説明
time-stamp	NMS からオブジェクト識別子が要求された日時が表示されます。
#of times requested	オブジェクト ID が要求された回数を表示します。
OID	NMS から最近要求されたオブジェクト識別子が表示されます。

shutdown (モニタセッション)

設定された ERSPAN セッションをディセーブルにするには、ERSPAN モニタ送信元セッション コンフィギュレーション モードで **shutdown** コマンドを使用します。設定された ERSPAN セッションをイネーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

shutdown
no shutdown

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

新しく設定された ERSPAN セッションは、シャットダウンの状態になります。

コマンド モード

ERSPAN モニタ送信元セッション コンフィギュレーション モード (config-mon-erspan-src)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ERSPAN セッションは、**no shutdown** コマンドが設定されるまで非アクティブのままです。

例

次に、**no shutdown** コマンドを使用して ERSPAN セッションをアクティブにする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# monitor session 1 type erspan-source
Device(config-mon-erspan-src)# description source1
Device(config-mon-erspan-src)# source interface GigabitEthernet1/0/1 rx
Device(config-mon-erspan-src)# destination
Device(config-mon-erspan-src-dst)# erspan-id 100
Device(config-mon-erspan-src-dst)# origin ip address 10.10.0.1
Device(config-mon-erspan-src-dst)# ip address 10.1.0.2
Device(config-mon-erspan-src-dst)# ip dscp 10
Device(config-mon-erspan-src-dst)# ip ttl 32
Device(config-mon-erspan-src-dst)# mtu 512
Device(config-mon-erspan-src-dst)# vrf monitoring
Device(config-mon-erspan-src-dst)# exit
Device(config-mon-erspan-src)# no shutdown
Device(config-mon-erspan-src)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
monitor session type	ERSPAN 送信元セッション番号と宛先セッション番号を作成するか、セッションに対して ERSPAN セッション コンフィギュレーション モードを開始します。

snmp ifmib ifindex persist

維持させる ifIndex 値をグローバルにイネーブルにし、リブート後も維持されるようにして、Simple Network Management Protocol (SNMP) で使用できるようにするには、グローバル コンフィギュレーションモードで **snmp ifmib ifindex persist** コマンドを使用します。ifIndex パーシステンスをグローバルにディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp ifmib ifindex persist
no snmp ifmib ifindex persist

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デバイスの ifIndex パーシステンスがディセーブルになります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

使用上のガイドライン

snmp ifmib ifindex persist コマンドは、インターフェイス固有の設定をオーバーライドしません。ifIndex パーシステンスのインターフェイス固有の設定は、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **snmp ifindex persist** コマンドと **snmp ifindex clear** コマンドを使用して設定されます。

snmp ifmib ifindex persist コマンドは、インターフェイス MIB (IF-MIB) の ifIndex テーブル内の ifDescr エントリと ifIndex エントリを使用して、ルーティングデバイス上のすべてのインターフェイスの ifIndex パーシステンスをイネーブルにします。

ifIndex パーシステンスとは、リブート後も IF-MIB 内の ifIndex 値を存続させ、SNMP を使用する特定のインターフェイスの ID が維持されるようにします。

ifIndex パーシステンスが **no snmp ifindex persist** コマンドを使用して、特定のインターフェイスに対して以前にディセーブルされていた場合、ifIndex パーシステンスはそのインターフェイスではディセーブルのままとなります。

例

次に、すべてのインターフェイスの ifIndex パーシステンスをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# snmp ifmib ifindex persist
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp ifindex clear	以前に特定のインターフェイスに対してインターフェイスコンフィギュレーションモードで発行された設定済み snmp ifindex コマンドをクリアします。
snmp ifindex persist	IF-MIB でリブート後も維持する (ifIndex persistence) ifIndex 値をイネーブルにします。

snmp-server community

Simple Network Management Protocol (SNMP) へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス ストリングを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server community** コマンドを使用します。指定したコミュニティ ストリングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server community [clear | encrypted] community-string [view
view-name] [RO | RW] [SDROwner | SystemOwner] [access-list-name]
no snmp-server community community-string
```

構文の説明

clear	(任意) 入力された <i>community-string</i> がクリアテキストで、 show running コマンドで表示されるときに暗号化されるように指定します。
encrypted	(任意) 入力された <i>community-string</i> が暗号化テキストで、 show running コマンドの実行時に暗号化されて表示されるように指定します。
<i>community-string</i>	パスワードのように動作し、SNMP プロトコルへのアクセスを許可します。 <i>community-string</i> 引数の最大長は 32 文字の英字です。 clear キーワードが使用された場合、 <i>community-string</i> はクリアテキストと見なされます。 encrypted キーワードが使用された場合、 <i>community-string</i> は暗号化テキストと見なされます。どちらも使用されなかった場合、 <i>community-string</i> はクリアテキストと見なされます。
view <i>view-name</i>	(任意) 事前に定義したビューの名前を指定します。ビューには、コミュニティで使用できるオブジェクトが定義されています。
RO	(任意) 読み取り専用アクセス権を指定します。許可された管理ステーションは、MIB オブジェクトの取得だけを実行できます。
RW	(任意) 読み取り/書き込みアクセス権を指定します。許可された管理ステーションは、MIB オブジェクトの取得と修正の両方を実行できます。
SDROwner	(任意) オーナー Service Domain Router (SDR) へのアクセスを制限します。
SystemOwner	(任意) オーナー以外のすべての SDR へのアクセスを含むシステム全体へのアクセスを提供します。
<i>access-list-name</i>	(任意) SNMP エージェントへアクセスするためにコミュニティ ストリングの使用を許可された IP アドレスのアクセス リスト名。

コマンド デフォルト

SNMP コミュニティ ストリングは、デフォルトで、すべての MIB オブジェクトへの読み取り専用アクセスを許可しています。コミュニティ ストリングは、デフォルトで、SDR オーナーに割り当てられます。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合、AAA 管理者に連絡してください。

コミュニティアクセスストリングを設定して SNMP へのアクセスを許可するには、**snmp-server community** コマンドを使用します。

指定したコミュニティストリングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

クリアテキストで入力したコミュニティストリングを **show running** コマンドの出力で暗号化して表示するには、**clear** キーワードを使用します。暗号化されたストリングを入力するには、**encrypted** キーワードを使用します。クリアテキストでコミュニティストリングを入力し、それがシステムによって暗号化されないようにするには、どちらのキーワードも使用しないようにします。

SDROwner キーワードを指定して **snmp-server community** コマンドを入力すると、オーナー SDR 内の MIB オブジェクトインスタンスに対してのみ SNMP アクセスが許可されます。

SystemOwner キーワードを指定して **snmp-server community** コマンドを入力すると、システム内のすべての SDR に SNMP アクセスが許可されます。



(注) オーナー以外の SDR では、コミュニティ名は、そのコミュニティ名に割り当てられたアクセス権限に関係なく、その SDR に属するオブジェクトインスタンスだけにアクセスを許可します。オーナー SDR へのアクセスおよびシステム全体のアクセス特権は、オーナー SDR からだけ使用できます。

例

次に、**comaccess** ストリングを SNMP に割り当てて読み取り専用アクセスを許可する方法、および IP アクセス リスト 4 がコミュニティ ストリングを使用できるように指定する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# snmp-server community comaccess ro 4
```

次に、**mgr** ストリングを SNMP に割り当てて、制限ビューのオブジェクトへの読み取りと書き込みアクセスを許可する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# snmp-server community mgr view restricted rw
```

次に、**comaccess** コミュニティを削除する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# no snmp-server community comaccess
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server view	SNMP のビューエントリを作成または更新します。

snmp-server enable traps

デバイスでネットワーク管理システム（NMS）にインフォーム要求やさまざまなトラップの Simple Network Management Protocol（SNMP）通知を送信可能にするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **snmp-server enable traps** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server enable traps [ auth-framework [ sec-violation ] | bridge | call-home
| config | config-copy | config-ctid | copy-config | cpu | dot1x | energywise
| entity | envmon | errdisable | event-manager | flash | fru-ctrl | license |
mac-notification | port-security | power-ethernet | rep | snmp | stackwise |
storm-control | stpx | syslog | transceiver | tty | vlan-membership | vlancreate
| vdelete | vstack | vtp ]
no snmp-server enable traps [ auth-framework [ sec-violation ] | bridge | call-home
| config | config-copy | config-ctid | copy-config | cpu | dot1x | energywise
| entity | envmon | errdisable | event-manager | flash | fru-ctrl | license |
mac-notification | port-security | power-ethernet | rep | snmp | stackwise |
storm-control | stpx | syslog | transceiver | tty | vlan-membership | vlancreate
| vdelete | vstack | vtp ]
```

構文の説明

auth-framework	(任意) SNMP CISCO-AUTH-FRAMEWORK-MIB トラップをイネーブルにします。
sec-violation	(任意) SNMP camSecurityViolationNotif 通知をイネーブルにします。
bridge	(任意) SNMP STP ブリッジ MIB トラップをイネーブルにします。*
call-home	(任意) SNMP CISCO-CALLHOME-MIB トラップをイネーブルにします。*
config	(任意) SNMP 設定トラップをイネーブルにします。
config-copy	(任意) SNMP 設定コピー トラップをイネーブルにします。
config-ctid	(任意) SNMP 設定 CTID トラップをイネーブルにします。
copy-config	(任意) SNMP コピー設定トラップをイネーブルにします。
cpu	(任意) CPU 通知トラップをイネーブルにします。*
dot1x	(任意) SNMP dot1x トラップをイネーブルにします。*
energywise	(任意) SNMP energywise トラップをイネーブルにします。 *

entity	(任意) SNMP エンティティ トラップをイネーブルにします。
envmon	(任意) SNMP 環境モニタ トラップをイネーブルにします。*
errdisable	(任意) SNMP エラーディセーブルトラップをイネーブルにします。*
event-manager	(任意) SNMP 組み込みイベントマネージャトラップをイネーブルにします。
flash	(任意) SNMP フラッシュ通知トラップをイネーブルにします。*
fru-ctrl	(任意) エンティティ現場交換可能ユニット (FRU) 制御トラップを生成します。デバイススタックでは、このトラップはスタックにおけるデバイスの挿入/取り外しを意味します。
license	(任意) ライセンス トラップをイネーブルにします。*
mac-notification	(任意) SNMP MAC 通知トラップをイネーブルにします。*
port-security	(任意) SNMP ポートセキュリティトラップをイネーブルにします。*
power-ethernet	(任意) SNMP パワーイーサネットトラップをイネーブルにします。*
rep	(任意) SNMP レジリエントイーサネットプロトコルトラップをイネーブルにします。
snmp	(任意) SNMP トラップをイネーブルにします。*
stackwise	(任意) SNMP StackWise トラップをイネーブルにします。*
storm-control	(任意) SNMP ストーム制御トラップパラメータをイネーブルにします。
stpx	(任意) SNMP STPX MIB トラップをイネーブルにします。*
syslog	(任意) SNMP syslog トラップをイネーブルにします。
transceiver	(任意) SNMP トランシーバトラップをイネーブルにします。*

tty	(任意) TCP接続トラップを送信します。この設定はデフォルトでイネーブルになっています。
vlan-membership	(任意) SNMP VLAN メンバーシップトラップをイネーブルにします。
vlancreate	(任意) SNMP VLAN 作成トラップをイネーブルにします。
vlandelete	(任意) SNMP VLAN 削除トラップをイネーブルにします。
vstack	(任意) SNMP スマートインストールトラップをイネーブルにします。*
vtp	(任意) VLAN トランキンングプロトコル (VTP) トラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト SNMP トラップの送信をディセーブルにします。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

上記の表のアスタリスクが付いているコマンドオプションにはサブコマンドがあります。これらのサブコマンドの詳細については、関連コマンドの項を参照してください。

snmp-server host グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。

トラップまたは情報がサポートされている場合に、これらの送信をイネーブルにするには、**snmp-server enable traps** コマンドを使用します。



(注) **fru-ctrl, insertion** および **removal** キーワードは、コマンドラインのヘルプストリングに表示されますが、デバイスでサポートされていません。**snmp-server enable informs** グローバルコンフィギュレーションコマンドは、サポートされていません。SNMP 情報通知の送信をイネーブルにするには、**snmp-server enable traps** グローバルコンフィギュレーションコマンドと **snmp-server host host-addr informs** グローバルコンフィギュレーションコマンドを組み合わせで使用します。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、複数の SNMP トラップタイプをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps config  
Device(config)# snmp-server enable traps vtp
```

snmp-server enable traps bridge

STPブリッジMIBトラップを生成するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **snmp-server enable traps bridge** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps bridge [newroot] [topologychange]
no snmp-server enable traps bridge [newroot] [topologychange]

構文の説明	newroot (任意) SNMP STPブリッジMIB新規ルートトラップをイネーブルにします。				
	topologychange (任意) SNMP STPブリッジMIBトポロジ変更トラップをイネーブルにします。				
コマンドデフォルト	ブリッジSNMPトラップの送信はディセーブルになります。				
コマンドモード	グローバルコンフィギュレーション				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

使用上のガイドライン **snmp-server host** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト(NMS)を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次の例では、NMSにブリッジ新規ルートトラップを送信する方法を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps bridge newroot
```

snmp-server enable traps bulkstat

データ収集 MIB トラップをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable traps bulkstat** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps bulkstat [collection | transfer]
no snmp-server enable traps bulkstat [collection | transfer]

構文の説明

collection (任意) データ収集 MIB 収集トラップをイネーブルにします。

transfer (任意) データ収集 MIB 送信トラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

データ収集 MIB トラップの送信はディセーブルになります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップ タイプを指定しない場合は、すべてのトラップ タイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、データ収集 MIB 収集トラップを生成する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps bulkstat collection
```

snmp-server enable traps call-home

SNMP CISCO-CALLHOME-MIB トラップをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーションモードで **snmp-server enable traps call-home** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps call-home [**message-send-fail** | **server-fail**]
no snmp-server enable traps call-home [**message-send-fail** | **server-fail**]

構文の説明

message-send-fail (任意) SNMP メッセージ送信失敗トラップをイネーブルにします。

server-fail (任意) SNMP サーバ障害トラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

SNMP CISCO-CALLHOME-MIB トラップの送信はディセーブルになります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

次に、SNMP メッセージ送信失敗トラップを生成する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps call-home message-send-fail
```

例

snmp-server enable traps cef

SNMP Cisco Express Forwarding (CEF) トラップをイネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **snmp-server enable traps cef** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server enable traps cef [inconsistency | peer-fib-state-change | peer-state-change | resource-failure]
no snmp-server enable traps cef [inconsistency | peer-fib-state-change | peer-state-change | resource-failure]
```

構文の説明

inconsistency	(任意) SNMP CEF 矛盾トラップをイネーブルにします。
peer-fib-state-change	(任意) SNMP CEF ピア FIB ステート変更トラップをイネーブルにします。
peer-state-change	(任意) SNMP CEF ピア ステート変更トラップをイネーブルにします。
resource-failure	(任意) SNMP リソース障害トラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

SNMP CEF トラップの送信はディセーブルになります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、SNMP CEF 矛盾トラップを生成する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps cef inconsistency
```

snmp-server enable traps cpu

CPU通知をイネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **snmp-server enable traps cpu** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps cpu [threshold]
no snmp-server enable traps cpu [threshold]

構文の説明	threshold (任意) CPUしきい値通知をイネーブルにします。
-------	--

コマンド デフォルト	CPU 通知の送信はディセーブルになります。
------------	------------------------

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション
----------	-------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **snmp-server host** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

次に、CPU しきい値通知を生成する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps cpu threshold
```

例

snmp-server enable traps envmon

SNMP 環境トラップをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable traps envmon** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps envmon [**fan**] [**shutdown**] [**status**] [**supply**] [**temperature**]
no snmp-server enable traps envmon [**fan**] [**shutdown**] [**status**] [**supply**] [**temperature**]

構文の説明

fan	(任意) ファントラップをイネーブルにします。
shutdown	(任意) 環境シャットダウンモニタトラップをイネーブルにします。
status	(任意) SNMP 環境ステータス変更トラップをイネーブルにします。
supply	(任意) 環境電源モニタトラップをイネーブルにします。
temperature	(任意) 環境温度モニタトラップをイネーブルにします。

コマンドデフォルト

環境 SNMP トラップの送信はディセーブルになります。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、ファントラップを生成する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps envmon fan
```

snmp-server enable traps errdisable

エラーディセーブルのSNMP通知をイネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **snmp-server enable traps errdisable** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps errdisable [**notification-rate** *number-of-notifications*]
no snmp-server enable traps errdisable [**notification-rate** *number-of-notifications*]

構文の説明	notification-rate <i>number-of-notifications</i>	(任意) 通知レートとして1分当たりの通知の数を指定します。受け入れられる値の範囲は0～10000です。
コマンド デフォルト	エラー ディセーブルの SNMP 通知送信はディセーブルになります。	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **snmp-server host** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例 次に、エラー ディセーブルの SNMP 通知数を 2 に設定する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps errdisable notification-rate 2
```


snmp-server enable traps flash

SNMP フラッシュ通知をイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable traps flash** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps flash [insertion] [removal]
no snmp-server enable traps flash [insertion] [removal]

構文の説明

insertion (任意) SNMP フラッシュ挿入通知をイネーブルにします。

removal (任意) SNMPフラッシュ取り出し通知をイネーブルにします。

コマンド デフォルト

SNMP フラッシュ通知の送信はディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップ タイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、SNMP フラッシュ挿入通知を生成する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps flash insertion
```

snmp-server enable traps isis

Intermediate System-to-Intermediate System (IS-IS) リンクステートルーティングプロトコルトラップをイネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **snmp-server enable traps isis** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps isis [errors | state-change]
no snmp-server enable traps isis [errors | state-change]

構文の説明

errors (任意) IS-IS エラー トラップをイネーブルにします。

state-change (任意) IS-IS ステート変更トラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

IS-IS のトラップ送信はディセーブルになります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、IS-IS エラー トラップを生成する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps isis errors
```

snmp-server enable traps license

ライセンストラップをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable traps license** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps license [**deploy**] [**error**] [**usage**]
no snmp-server enable traps license [**deploy**] [**error**] [**usage**]

構文の説明

deploy (任意) ライセンス導入トラップをイネーブルにします。

error (任意) ライセンスエラートラップをイネーブルにします。

usage (任意) ライセンス使用トラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

ライセンス トラップの送信はディセーブルになります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップ タイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、ライセンス導入トラップを生成する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps license deploy
```

snmp-server enable traps mac-notification

SNMP MAC 通知トラップをイネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **snmp-server enable traps mac-notification** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps mac-notification [**change**] [**move**] [**threshold**]
no snmp-server enable traps mac-notification [**change**] [**move**] [**threshold**]

構文の説明

change (任意) SNMP MAC 変更トラップをイネーブルにします。
move (任意) SNMP MAC 移動トラップをイネーブルにします。
threshold (任意) SNMP MAC しきい値トラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

SNMP MAC 通知トラップの送信はディセーブルになります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、SNMP MAC 通知変更トラップを生成する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps mac-notification change
```

snmp-server enable traps ospf

SNMP の Open Shortest Path First (OSPF) トラップをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable traps ospf** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server enable traps ospf [cisco-specific | errors | lsa | rate-limit rate-limit-time
max-number-of-traps | retransmit | state-change]
no snmp-server enable traps ospf [cisco-specific | errors | lsa | rate-limit rate-limit-time
max-number-of-traps | retransmit | state-change]
```

構文の説明

cisco-specific	(任意) シスコ固有のトラップをイネーブルにします。
errors	(任意) エラー トラップをイネーブルにします。
lsa	(任意) リンクステート アドバタイズメント (LSA) トラップをイネーブルにします。
rate-limit	(任意) レート制限トラップをイネーブルにします。
<i>rate-limit-time</i>	(任意) レート制限トラップの時間の長さを秒数で指定します。指定できる値は 2 ~ 60 です。
<i>max-number-of-traps</i>	(任意) 設定した時間内に送信するレート制限トラップの最大数を指定します。
retransmit	(任意) パケット再送信トラップをイネーブルにします。
state-change	(任意) 状態変更トラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

OSPF SNMP トラップの送信はディセーブルになります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップ タイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、LSA トラップをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps ospf lsa
```

snmp-server enable traps pim

SNMP プロトコル独立型マルチキャスト (PIM) トラップをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable traps pim** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps pim [**invalid-pim-message**] [**neighbor-change**] [**rp-mapping-change**]
no snmp-server enable traps pim
 [**invalid-pim-message**] [**neighbor-change**] [**rp-mapping-change**]

構文の説明

invalid-pim-message (任意) 無効な PIM メッセージトラップをイネーブルにします。

neighbor-change (任意) PIM ネイバー変更トラップをイネーブルにします。

rp-mapping-change (任意) ランデブーポイント (RP) マッピング変更トラップをイネーブルにします。

コマンドデフォルト

PIM SNMP トラップの送信はディセーブルになります。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップ タイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、無効な PIM メッセージトラップをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps pim invalid-pim-message
```

snmp-server enable traps port-security

SNMP ポートセキュリティトラップをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable traps port-security** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps port-security [*trap-rate value*]
no snmp-server enable traps port-security [*trap-rate value*]

構文の説明	trap-rate value (任意) 1 秒間に送信するポートセキュリティトラップの最大数を設定します。指定できる範囲は 0 ~ 1000 です。デフォルトは 0 です (制限はなく、トラップは発生するたびに送信されます)。				
コマンド デフォルト	ポートセキュリティ SNMP トラップの送信はディセーブルになります。				
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

使用上のガイドライン **snmp-server host** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、1 秒当たり 200 の速度でポートセキュリティトラップをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps port-security trap-rate 200
```


snmp-server enable traps power-ethernet

SNMP の Power over Ethernet (PoE) トラップをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable traps power-ethernet** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server enable traps power-ethernet {group number | police}
no snmp-server enable traps power-ethernet {group number | police}
```

構文の説明	group number	police
	指定したグループ番号に対するインラインパワーグループベーストラップをイネーブルにします。受け入れられる値の範囲は 1 ~ 9 です。	インライン パワー ポリシング トラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト Power over Ethernet の SNMP トラップの送信はディセーブルになります。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **snmp-server host** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、グループ 1 の Power over Ethernet (PoE) トラップをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps poover-over-ethernet group 1
```

snmp-server enable traps snmp

SNMP トラップをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable traps snmp** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server enable traps snmp [authentication] [coldstart] [linkdown] [linkup]
] [warmstart]
no snmp-server enable traps snmp [authentication] [coldstart] [linkdown] [linkup]
] [warmstart]
```

構文の説明

authentication	(任意) 認証トラップをイネーブルにします。
coldstart	(任意) コールドスタートトラップをイネーブルにします。
linkdown	(任意) リンクダウントラップをイネーブルにします。
linkup	(任意) リンクアップトラップをイネーブルにします。
warmstart	(任意) ウォームスタートトラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

SNMP トラップの送信をディセーブルにします。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、ウォーム スタートの SNMP トラップをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps snmp warmstart
```

snmp-server enable traps stackwise

SNMP StackWise トラップをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable traps stackwise** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server enable traps stackwise [GLS] [ILS] [SRLS]
[insufficient-power] [invalid-input-current]
[invalid-output-current] [member-removed] [member-upgrade-notification]
[new-master] [new-member] [port-change] [power-budget-warning] [power-invalid-topology]
[power-link-status-changed] [power-oper-status-changed]
[power-priority-conflict] [power-version-mismatch] [ring-redundant]
[stack-mismatch] [unbalanced-power-supplies] [under-budget] [under-voltage]
no snmp-server enable traps stackwise [GLS] [ILS] [SRLS]
[insufficient-power] [invalid-input-current]
[invalid-output-current] [member-removed] [member-upgrade-notification]
[new-master] [new-member] [port-change] [power-budget-warning] [power-invalid-topology]
[power-link-status-changed] [power-oper-status-changed]
[power-priority-conflict] [power-version-mismatch] [ring-redundant]
[stack-mismatch] [unbalanced-power-supplies] [under-budget] [under-voltage]
```

構文の説明

GLS	(任意) StackWise スタック電源 GLS トラップをイネーブルにします。
ILS	(任意) StackWise スタック電源 ILS トラップをイネーブルにします。
SRLS	(任意) StackWise スタック電源 SRLS トラップをイネーブルにします。
insufficient-power	(任意) Stackwise スタック電源の不平衡電源トラップをイネーブルにします。
invalid-input-current	(任意) Stackwise スタック電源の無効入力電流トラップをイネーブルにします。
invalid-output-current	(任意) Stackwise スタック電源の無効出力電流トラップをイネーブルにします。
member-removed	(任意) StackWise スタックメンバ削除トラップをイネーブルにします。
member-upgrade-notification	(任意) StackWise メンバのアップグレード用リロードトラップをイネーブルにします。
new-master	(任意) StackWise の新規プライマリトラップをイネーブルにします。

new-member	(任意) StackWise の新規メンバ トラップをイネーブルにします。
port-change	(任意) StackWise のスタック ポート変更トラップをイネーブルにします。
power-budget-warning	(任意) StackWise スタック電源バジェット警告トラップをイネーブルにします。
power-invalid-topology	(任意) Stackwise スタック電源の無効トポロジトラップをイネーブルにします。
power-link-status-changed	(任意) StackWise スタック電源リンク ステータス変更トラップをイネーブルにします。
power-oper-status-changed	(任意) StackWise スタック電源ポート動作ステータス変更トラップをイネーブルにします。
power-priority-conflict	(任意) StackWise スタック電源のプライオリティ競合トラップをイネーブルにします。
power-version-mismatch	(任意) StackWise スタック電源のバージョン不一致トラップをイネーブルにします。
ring-redundant	(任意) StackWise のリング冗長トラップをイネーブルにします。
stack-mismatch	(任意) StackWise スタック不一致トラップをイネーブルにします。
unbalanced-power-supplies	(任意) Stackwise スタック電源の不平衡電源トラップをイネーブルにします。
under-budget	(任意) StackWise スタック電源の不足バジェットトラップをイネーブルにします。
under-voltage	(任意) Stackwise スタック電源の不足電圧トラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト SNMP StackWise トラップの送信はディセーブルになります。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **snmp-server host** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト（NMS）を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、StackWise スタック電源の GLS トラップを生成する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps stackwise GLS
```

snmp-server enable traps storm-control

SNMP ストーム制御トラップパラメータをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable traps storm-control** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server enable traps storm-control {trap-rate number-of-minutes}
no snmp-server enable traps storm-control {trap-rate}
```

構文の説明	trap-rate <i>number-of-minutes</i>	(任意) SNMP ストーム制御トラップ レートを分単位で指定します。受け入れられる値の範囲は 0 ~ 1000 です。
コマンド デフォルト	SNMP ストーム制御トラップ パラメータの送信はディセーブルになります。	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **snmp-server host** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、SNMP ストーム制御トラップレートを 1 分あたり 10 トラップに設定する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps storm-control trap-rate 10
```

snmp-server enable traps stpx

SNMP STPX MIB トラップをイネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **snmp-server enable traps stpx** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps stpx [inconsistency] [loop-inconsistency] [root-inconsistency]
no snmp-server enable traps stpx [inconsistency] [loop-inconsistency] [root-inconsistency]

構文の説明

inconsistency (任意) SNMP STPX MIB 矛盾更新トラップをイネーブルにします。

loop-inconsistency (任意) SNMP STPX MIB ループ矛盾更新トラップをイネーブルにします。

root-inconsistency (任意) SNMP STPX MIB ルート矛盾更新トラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

SNMP STPX MIB トラップの送信はディセーブルになります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、SNMP STPX MIB 矛盾更新トラップを生成する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps stpx inconsistency
```

snmp-server enable traps transceiver

SNMP トランシーバトラップをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable traps transceiver** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server enable traps transceiver {all}
no snmp-server enable traps transceiver {all}
```

構文の説明

all (任意) すべての SNMP トランシーバトラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

SNMP トランシーバトラップの送信はディセーブルになります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップ タイプを指定しない場合は、すべてのトラップ タイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

次に、すべての SNMP トランシーバトラップを設定する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps transceiver all
```

例

snmp-server enable traps vrfmib

SNMP vrfmib トラップを許可するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable traps vrfmib** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps vrfmib [vnet-trunk-down | vnet-trunk-up | vrf-down | vrf-up]
no snmp-server enable traps vrfmib [vnet-trunk-down | vnet-trunk-up | vrf-down | vrf-up]

構文の説明

vnet-trunk-down	(任意) vrfmib trunk ダウン トラップをイネーブルにします。
vnet-trunk-up	(任意) vrfmib trunk アップ トラップをイネーブルにします。
vrf-down	(任意) vrfmib vrf ダウン トラップをイネーブルにします。
vrf-up	(任意) vrfmib vrf アップ トラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

SNMP vrfmib トラップの送信はディセーブルになります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップ タイプを指定しない場合は、すべてのトラップ タイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

この例は、vrfmib trunk ダウン トラップを生成する方法を示しています。

```
Device(config)# snmp-server enable traps vrfmib vnet-trunk-down
```

snmp-server enable traps vstack

SNMP スマートインストールトラップをイネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **snmp-server enable traps vstack** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server enable traps vstack [addition] [failure] [lost] [operation]
no snmp-server enable traps vstack [addition] [failure] [lost] [operation]

構文の説明

addition (任意) クライアントによって追加されたトラップをイネーブルにします。

failure (任意) ファイルのアップロードとダウンロード障害トラップをイネーブルにします。

lost (任意) クライアントの損失トラップをイネーブルにします。

operation (任意) 動作モード変更トラップをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

SNMP スマートインストールトラップの送信はディセーブルになります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

snmp-server host グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、トラップを受信するホスト (NMS) を指定します。トラップタイプを指定しない場合は、すべてのトラップタイプが送信されます。



(注) SNMPv1 では、情報はサポートされていません。

複数のトラップタイプをイネーブルにするには、トラップタイプごとに **snmp-server enable traps** コマンドを個別に入力する必要があります。

例

次に、SNMP スマートインストールクライアント追加トラップを生成する例を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps vstack addition
```


snmp-server group

新しい Simple Network Management Protocol (SNMP) グループを設定するには、グローバル コンフィギュレーションモードで **snmp-server group** コマンドを使用します。指定した SNMP グループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server group group-name {v1 | v2c | v3 {auth | noauth | priv}} [context context-name]
[match {exact | prefix}] [read read-view] [write write-view] [notify notify-view] [access [ipv6
named-access-list] [{acl-numberacl-name}]]
no snmp-server group group-name {v1 | v2c | v3 {auth | noauth | priv}} [context context-name]
```

構文の説明

<i>group-name</i>	グループの名前。
v1	グループが SNMPv1 セキュリティ モデルを使用していることを指定します。SNMPv1 は、最も安全性の低い SNMP セキュリティ モデルです。
v2c	グループが SNMPv2c セキュリティ モデルを使用していることを指定します。 SNMPv2c セキュリティ モデルでは、インフォームを送信でき、64 文字の文字列がサポートされています。
v3	グループが SNMPv3 セキュリティ モデルを使用していることを指定します。 SMNPv3 は、サポートされているセキュリティ モデルの中で最も安全です。SMNPv3 では、認証特性を明示的に設定できます。
auth	暗号化を行わないパケットの認証を指定します。
noauth	パケットの認証を行わないことを指定します。
priv	暗号化を行うパケットの認証を指定します。
context	(任意) この SNMP グループとそのビューと関連付ける SNMP コンテキストを指定します。
<i>context-name</i>	(任意) コンテキスト名。
match	(任意) 正確なコンテキスト マッチを指定するか、またはコンテキストプレフィックスのみを照合します。
<i>exact</i>	(任意) 正確なコンテキストを照合します。
<i>prefix</i>	(任意) コンテキストプレフィックスのみを照合します。
read	(任意) SNMP グループの読み取りビューを指定します。このビューでは、エージェントのコンテンツのみを表示できます。

<i>read-view</i>	(任意) ビューの名前である最大 64 文字の文字列。 デフォルトでは、 read オプションを使用してこの状態を上書きしない限り、読み取りビューはインターネットオブジェクト識別子 (OID) のスペース (1.3.6.1) に属するすべてのオブジェクトであるとみなされます。
write	(任意) SNMP グループの書き込みビューを指定します。このビューでは、データを入力してエージェントのコンテンツを設定できます。
<i>write-view</i>	(任意) ビューの名前である最大 64 文字の文字列。 デフォルトでは、書き込みビュー (つまり、ヌルOID) には何も定義されていません。書き込みアクセスを設定する必要があります。
notify	(任意) SNMP グループの通知ビューを指定します。このビューでは、通知、インフォーム、またはトラップを指定できます。
<i>notify-view</i>	(任意) ビューの名前である最大 64 文字の文字列。 デフォルトでは、 snmp-server host コマンドが設定されるまで、通知ビュー (つまり、ヌルOID) には何も定義されていません。ビューを snmp-server group コマンドで指定した場合、生成されるそのビューのすべての通知は、グループに関連付けられているすべてのユーザに送信されます (そのユーザに対して SNMP サーバホストの設定が存在する場合)。 シスコでは、ソフトウェアに通知ビューを自動生成させることを推奨しています。このドキュメントの「通知ビューの設定」の項を参照してください。
access	(任意) グループに関連付ける標準アクセスコントロールリスト (ACL) を指定します。
ipv6	(任意) IPv6 名前付きアクセスリストを指定します。IPv6 と IPv4 の両方のアクセスリストが示されている場合は、IPv6 名前付きアクセスリストがリストの最初に表示されている必要があります。
<i>named-access-list</i>	(任意) IPv6 アクセスリストの名前。
<i>acl-number</i>	(任意) <i>acl-number</i> 引数は、以前に設定された標準アクセスリストを識別する 1 ~ 99 の整数です。
<i>acl-name</i>	(任意) <i>acl-name</i> 引数は、以前に設定された標準アクセスリストの名前である最大 64 文字の文字列です。

コマンドデフォルト

SNMP サーバグループは設定されていません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

コミュニティストリングが内部的に設定されている場合、**public** という名前の 2 つのグループが自動生成されます。1 つは v1 セキュリティ モデル用、もう 1 つは v2c セキュリティ モデル用です。同様に、コミュニティストリングを削除すると、**public** という名前の v1 グループと **public** という名前の v2c グループが削除されます。

snmp-server group コマンドを設定する際、認証やプライバシーアルゴリズムにはデフォルト値はありません。また、デフォルトのパスワードも存在しません。**Message Digest 5 (MD5)** パスワードの指定については、**snmp-server user** コマンドのドキュメントを参照してください。

通知ビューの設定

notify view オプションは、2 つの目的に使用できます。

- グループに SNMP を使用して設定された通知ビューがあり、その通知ビューを変更する必要がある。
- **snmp-server host** コマンドは、**snmp-server group** コマンドの前に設定されている可能性があります。この場合、**snmp-server host** コマンドを再設定するか、または適切な通知ビューを指定する必要があります。

次の理由から、SNMP グループを設定する際に通知ビューを指定することは推奨されていません。

- **snmp-server host** コマンドによってユーザに対して自動生成された通知ビューを、そのユーザに関連付けられているグループに追加する。
- グループの通知ビューを変更すると、そのグループに対応付けられたすべてのユーザが影響を受けます。

snmp-server group コマンドの一部としてグループの通知ビューを指定する代わりに、指定された順序で次のコマンドを使用します。

1. **snmp-server user** : SNMP ユーザを設定します。
2. **snmp-server group** : 通知ビューを追加しないで SNMP グループを設定します。
3. **snmp-server host** : トラップ操作の受信者を指定して、通知ビューを自動生成します。

SNMP コンテキスト

SNMP コンテキストによって、MIB データにアクセスする安全な方法が VPN ユーザに提供されます。VPN がコンテキストに関連付けられると、VPN 固有の MIB データがそのコンテキストに存在します。VPN をコンテキストに関連付けると、サービスプロバイダーが、複数 VPN でネットワークを管理できます。コンテキストを作成して VPN に関連付けることにより、サービスプロバイダーは、ある VPN のユーザが同じネットワークデバイス上で他の VPN のユーザに関する情報にアクセスするのを防ぐことができます。

読み取り、書き込み、または通知 SNMP ビューを SNMP コンテキストに関連付けるには、**context context-name** キーワードおよび引数とともにこのコマンドを使用します。

SNMP グループの作成

次の例は、SNMP サーバグループ「public」を作成して、すべてのオブジェクトに対して標準名前付きアクセスリスト「lmmop」のメンバーへの読み取り専用アクセスを許可する方法を示しています。

```
Device(config)# snmp-server group public v2c access lmmop
```

SNMP サーバグループの削除

次の例に、設定から SNMP サーバグループ「public」を削除する方法を示します。

```
Device(config)# no snmp-server group public v2c
```

SNMP サバグループと指定されたビューとの関連付け

次の例に、SNMPv2c グループ「GROUP1」のビューに関連付けられた SNMP コンテキスト「A」を示します。

```
Device(config)# snmp-server context A
Device(config)# snmp mib community commA
Device(config)# snmp mib community-map commA context A target-list commAVpn
Device(config)# snmp-server group GROUP1 v2c context A read viewA write viewA notify viewB
```

関連コマンド

Command	Description
show snmp group	デバイス上のグループの名前、セキュリティモデル、各種ビューのステータス、および各グループのストレージタイプを表示します。
snmp mib community-map	SNMP コミュニティを SNMP コンテキスト、エンジン ID、セキュリティ名、または VPN ターゲットリストに関連付けます。
snmp-server host	SNMP 通知動作の受信者を指定します。
snmp-server user	SNMP グループに新しいユーザを設定します。

snmp-server host

Simple Network Management Protocol (SNMP) 通知操作の受信者 (ホスト) を指定するには、デバイスで **snmp-server host** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。指定したホストを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server host {host-addr} [vrf vrf-instance] [informs | traps] [version {1 | 2c | 3 {auth | noauth | priv} } ] {community-string [notification-type] }
no snmp-server host {host-addr} [vrf vrf-instance] [informs | traps] [version {1 | 2c | 3 {auth | noauth | priv} } ] {community-string [notification-type] }
```

構文の説明

<i>host-addr</i>	ホスト (ターゲットとなる受信側) の名前またはインターネットアドレスです。
<i>vrf vrf-instance</i>	(任意) 仮想プライベートネットワーク (VPN) ルーティングインスタンスとこのホストの名前を指定します。
informs traps	(任意) このホストに SNMP トラップまたは情報を送信します。
version 1 2c 3	(任意) トラップの送信に使用する SNMP のバージョンを指定します。 1 : SNMPv1。情報の場合は、このオプションを使用できません。 2c : SNMPv2C。 3 : SNMPv3。認証キーワードの 1 つ (次の表の行を参照) が、バージョン 3 キーワードに従っている必要があります。
auth noauth priv	auth (任意) : Message Digest 5 (MD5) およびセキュア ハッシュ アルゴリズム (SHA) パケット認証をイネーブルにします。 noauth (デフォルト) : noAuthNoPriv セキュリティ レベル。 auth noauth priv キーワードの選択が指定されていない場合、これがデフォルトとなります。 priv (任意) : データ暗号規格 (DES) によるパケット暗号化 (「プライバシー」ともいう) をイネーブルにします。
<i>community-string</i>	通知処理にともなって送信される、パスワードと類似したコミュニティストリングです。 snmp-server host コマンドを使用してこのストリングを設定できますが、このストリングを定義するには、 snmp-server community グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してから、 snmp-server host コマンドを使用することを推奨します。 (注) コンテキスト情報を区切るには @ 記号を使用します。このコマンドの設定時に SNMP コミュニティストリングの一部として @ 記号を使用しないでください。

notification-type (任意) ホストに送信される通知のタイプです。タイプが指定されていない場合、すべての通知が送信されます。通知タイプには、次のキーワードの1つまたは複数指定できます。

- **auth-framework** : SNMP CISCO-AUTH-FRAMEWORK-MIB トラップを送信します。
 - **bridge** : SNMP スパニング ツリー プロトコル (STP) ブリッジ MIB トラップを送信します。
 - **bulkstat** : データ収集 MIB 収集通知トラップを送信します。
 - **call-home** : SNMP CISCO-CALLHOME-MIB トラップを送信します。
 - **cef** : SNMP CEF トラップを送信します。
 - **config** : SNMP 設定トラップを送信します。
 - **config-copy** : SNMP config-copy トラップを送信します。
 - **config-ctid** : SNMP config-ctid トラップを送信します。
 - **copy-config** : SNMP コピー設定トラップを送信します。
 - **cpu** : CPU 通知トラップを送信します。
 - **cpu threshold** : CPU しきい値通知トラップを送信します。
 - **eigrp** : SNMP EIGRP トラップを送信します。
 - **entity** : SNMP エントリ トラップを送信します。
-

-
- **envmon** : 環境モニタ トラップを送信します。
 - **errdisable** : SNMP errdisable 通知トラップを送信します。
 - **event-manager** : SNMP Embedded Event Manager トラップを送信します。
 - **flash** : SNMP FLASH 通知を送信します。
 - **flowmon** : SNMP flowmon 通知トラップを送信します。
 - **ipmulticast** : SNMP IP マルチキャストルーティングトラップを送信します。
 - **ipsla** : SNMP IP SLA トラップを送信します。
 - **isis** : SNMP IS-IS トラップを送信します。
 - **license** : ライセンス トラップを送信します。
 - **local-auth** : SNMP ローカル認証トラップを送信します。
 - **mac-notification** : SNMP MAC 通知トラップを送信します。
 - **ospf** : Open Shortest Path First (OSPF) トラップを送信します。
 - **pim** : SNMP プロトコル独立型マルチキャスト (PIM) トラップを送信します。
 - **port-security** : SNMP ポートセキュリティ トラップを送信します。
 - **power-ethernet** : SNMP パワーイーサネット トラップを送信します。
 - **snmp** : SNMP タイプ トラップを送信します。
 - **storm-control** : SNMP ストーム制御トラップを送信します。
 - **stp** : SNMP STP 拡張 MIB トラップを送信します。
 - **syslog** : SNMP syslog トラップを送信します。
 - **transceiver** : SNMP トランシーバトトラップを送信します。
 - **tty** : TCP 接続トラップを送信します。
 - **vlan-membership** : SNMP VLAN メンバーシップトラップを送信します。
 - **vlancreate** : SNMP VLAN 作成のトラップを送信します。
 - **vlandelete** : SNMP VLAN 削除トラップを送信します。
 - **vrfmib** : SNMP vrfmib トラップを送信します。
 - **vstackSNMP** : スマート インストール トラップを送信します。
 - **vtp** : SNMP VLAN Trunking Protocol (VTP) トラップを送信します。
 - **wireless** : ワイヤレス トラップを送信します。
-

コマンドデフォルト

このコマンドは、デフォルトでディセーブルになっています。通知は送信されません。

キーワードを指定しないでこのコマンドを入力した場合は、デフォルトで、すべてのトラップタイプがホストに送信されます。情報はこのホストに送信されません。

version キーワードがない場合、デフォルトはバージョン 1 になります。

バージョン 3 を選択し、認証キーワードを入力しなかった場合は、デフォルトで **noauth** (noAuthNoPriv) セキュリティレベルになります。



(注) **fru-ctrl** キーワードは、コマンドラインのヘルプ ストリングには表示されますが、サポートされていません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

SNMP 通知は、トラップまたは情報要求として送信できます。トラップを受信しても受信側は確認応答を送信しないため、トラップは信頼できません。送信側では、トラップが受信されたかどうかを判別できません。ただし、情報要求を受信した SNMP エンティティは、SNMP 応答 PDU を使用してメッセージに確認応答します。送信側が応答を受信しない場合、インフォーム要求を再送信して、インフォームが目的の宛先に到達する可能性を向上できます。

ただし、情報はエージェントおよびネットワークのリソースをより多く消費します。送信と同時に破棄されるトラップと異なり、インフォーム要求は応答を受信するまで、または要求がタイムアウトになるまで、メモリ内に保持する必要があります。また、トラップの送信は 1 回限りですが、情報は数回にわたって再試行が可能です。再送信の回数が増えるとトラフィックが増加し、ネットワークのオーバーヘッドが高くなる原因にもなります。

snmp-server host コマンドを入力しなかった場合は、通知が送信されません。SNMP 通知を送信するようにデバイスを設定するには、**snmp-server host** コマンドを少なくとも 1 つ入力する必要があります。キーワードを指定しないでこのコマンドを入力した場合、そのホストではすべてのトラップタイプがイネーブルになります。複数のホストをイネーブルにするには、ホストごとに **snmp-server host** コマンドを個別に入力する必要があります。コマンドには複数の通知タイプをホストごとに指定できます。

ローカルユーザがリモートホストと関連付けられていない場合、デバイスは **auth** (authNoPriv) および **priv** (authPriv) の認証レベルの情報を送信しません。

同じホストおよび同じ種類の通知（トラップまたは情報）に対して複数の **snmp-server host** コマンドを指定した場合は、後に入力されたコマンドによって前のコマンドが上書きされます。最後の **snmp-server host** コマンドだけが有効です。たとえば、ホストに **snmp-server host inform** コマンドを入力してから、同じホストに別の **snmp-server host inform** コマンドを入力した場合は、2 番目のコマンドによって最初のコマンドが置き換えられます。

snmp-server host コマンドは、**snmp-server enable traps** グローバル コンフィギュレーション コマンドと組み合わせて使用します。グローバルに送信される SNMP 通知を指定するには、**snmp-server enable traps** コマンドを使用します。1つのホストでほとんどの通知を受信する場合は、このホストに対して、少なくとも1つの **snmp-server enable traps** コマンドと **snmp-server host** コマンドをイネーブルにする必要があります。一部の通知タイプは、**snmp-server enable traps** コマンドで制御できません。たとえば、ある通知タイプは常にイネーブルですが、別の通知タイプはそれぞれ異なるコマンドによってイネーブルになります。

キーワードを指定しないで **no snmp-server host** コマンドを使用すると、ホストへのトラップはディセーブルになりますが、情報はディセーブルになりません。情報をディセーブルにするには、**no snmp-server host informs** コマンドを使用してください。

例

次の例では、トラップに対して一意の SNMP コミュニティ スtring **comaccess** を設定し、この String による、アクセス リスト **10** を介した SNMP ポーリング アクセスを禁止します。

```
Device(config)# snmp-server community comaccess ro 10
Device(config)# snmp-server host 172.20.2.160 comaccess
Device(config)# access-list 10 deny any
```

次の例では、名前 **myhost.cisco.com** で指定されたホストに SNMP トラップを送信する方法を示します。コミュニティ String は、**comaccess** として定義されています。

```
Device(config)# snmp-server enable traps
Device(config)# snmp-server host myhost.cisco.com comaccess snmp
```

次の例では、コミュニティ String **public** を使用して、すべてのトラップをホスト **myhost.cisco.com** に送信するようにデバイスをイネーブルにする方法を示します。

```
Device(config)# snmp-server enable traps
Device(config)# snmp-server host myhost.cisco.com public
```

設定を確認するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドを入力します。

snmp-server manager

Simple Network Management Protocol (SNMP) マネージャプロセスを起動するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server manager** コマンドを使用します。SNMP マネージャプロセスを停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server manager
no snmp-server manager

コマンドデフォルト

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

SNMP マネージャ プロセスは SNMP 要求をエージェントに送信し、エージェントから SNMP 応答と通知を受け取ります。SNMP マネージャプロセスがイネーブルになっているときには、ルータはその他の SNMP エージェントに問い合わせ、送信されてきた SNMP トラップを処理できます。

ほとんどのネットワークセキュリティポリシーでは、ルータが SNMP 要求を受け付け、SNMP 応答を送信し、SNMP 通知を送信するものと想定されています。SNMP マネージャ機能がイネーブルになっている状態では、ルータは、SNMP 要求の送信、SNMP 応答の受信、および SNMP 通知の受信も行います。場合によっては、この機能をイネーブルにする前にセキュリティポリシーの実装を更新する必要がある場合もあります。

通常、SNMP 要求は UDP ポート 161 に送信されます。通常、SNMP 応答は UDP ポート 161 から送信されます。通常、SNMP 通知は UDP ポート 162 に送信されます。

次に、SNMP マネージャ プロセスをイネーブルにする例を示します。

```
Router(config)# snmp-server manager
```

関連コマンド

Command	Description
show running-config	現在実行中のコンフィギュレーションファイルまたは特定のインターフェイスのコンフィギュレーションの内容、またはマップ クラス情報を表示します。
show snmp user	グループ ユーザ名テーブルの各 SNMP ユーザ名に関する情報を表示します。
snmp-server engineID	デバイスで設定されたローカル SNMP エンジンおよびすべてのリモートエンジンの ID を表示します。

snmp-server user

Simple Network Management Protocol (SNMP) グループに新しいユーザを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **snmp-server user** コマンドを使用します。SNMP グループからユーザを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server user username group-name [remote host [udp-port port] [vrf vrf-name]] {v1 | v2c | v3 [encrypted] [auth {md5 | sha} auth-password]} [access [ipv6 nacl] [priv {des | 3des | aes {128 | 192 | 256}}] privpassword] {acl-numberacl-name}]
```

```
no snmp-server user username group-name [remote host [udp-port port] [vrf vrf-name]] {v1 | v2c | v3 [encrypted] [auth {md5 | sha} auth-password]} [access [ipv6 nacl] [priv {des | 3des | aes {128 | 192 | 256}}] privpassword] {acl-numberacl-name}]
```

構文の説明

<i>username</i>	エージェントに接続する、ホスト上のユーザの名前。
<i>group-name</i>	エントリが属する ACL (アクセス コントロール リスト) 名
remote	(任意) ユーザが属するリモート SNMP エンティティ、およびそのエンティティのホスト名または IPv6 アドレスまたは IPv4 IP アドレスを指定します。IPv6 アドレスおよび IPv4 IP アドレスの両方を指定すると、IPv6 ホストが最初に表示されます。
<i>host</i>	(任意) リモート SNMP ホストの名前または IP アドレス。
udp-port	(任意) リモート ホストのユーザ データグラム プロトコル (UDP) ポート番号を指定します。
<i>port</i>	(任意) UDP ポートを識別する整数値。デフォルトは 162 です。
vrf	(任意) ルーティング テーブルのインスタンスを指定します。
<i>vrf-name</i>	(任意) データの格納に使用するバーチャルプライベート ネットワーク (VPN) ルーティングおよび転送 (VRF) テーブルの名前。
v1	SNMPv1 を使用することを指定します。
v2c	SNMPv2c を使用することを指定します。
v3	SNMPv3 セキュリティ モデルを使用することを指定します。 encrypted キーワードまたは auth キーワード、あるいはその両方の使用を許可します。
encrypted	(任意) パスワードが暗号化された形式で表示されるかどうかを指定します。
auth	(任意) 使用する認証レベルを指定します。
md5	(任意) HMAC-MD5-96 認証レベルを指定します。
sha	(任意) HMAC-SHA-96 認証レベルを指定します。

<i>auth-password</i>	(任意) エージェントがホストからパケットを受信できるようにするストリング (64 文字以下)。
access	(任意) この SNMP ユーザと関連付けるアクセスコントロールリスト (ACL) を指定します。
ipv6	(任意) この SNMP ユーザと関連付ける IPv6 名前付きアクセスリストを指定します。
<i>nacl</i>	(任意) ACL の名前です。IPv4、IPv6、または IPv4 と IPv6 の両方のアクセスリストを指定できます。両方を指定した場合は、IPv6 名前付きアクセスリストがステートメントの最初に表示されます。
priv	(任意) SNMP メッセージ レベルの安全性のための SNMP バージョン 3 のユーザベースセキュリティモデル (USM) の使用を指定します。
des	(任意) 暗号化について 56 ビット Digital Encryption Standard (DES) アルゴリズムの使用を指定します。
3des	(任意) 暗号化について 168 ビット 3DES アルゴリズムの使用を指定します。
aes	(任意) 暗号化について Advanced Encryption Standard (AES) アルゴリズムの使用を指定します。
128	(任意) 暗号化について 128 ビット AES アルゴリズムの使用を指定します。
192	(任意) 暗号化について 192 ビット AES アルゴリズムの使用を指定します。
256	(任意) 暗号化について 256 ビット AES アルゴリズムの使用を指定します。
<i>privpassword</i>	(任意) プライバシーユーザパスワードを指定する文字列 (64 文字以下)。
<i>acl-number</i>	(任意) IP アドレスの標準アクセスリストを指定する 1~99 の範囲の整数。
<i>acl-name</i>	(任意) IP アドレスの標準アクセスリストの名前である文字列 (64 文字以下)。

コマンドデフォルト 暗号化、パスワード、およびアクセスリストのデフォルト動作については、「使用上のガイドライン」の項にある表を参照してください。

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン リモートユーザを設定する場合は、ユーザが存在するデバイスのリモート SNMP エージェントに対応する IP アドレスまたはポート番号を指定します。また、特定のエージェントにリモ-

トユーザを設定する前に、**snmp-server engineID** コマンドに **remote** キーワードを指定して SNMP エンジン ID を設定します。リモート エージェントの SNMP エンジン ID は、パスワードから認証とプライバシー ダイジェストを計算する際に必要です。最初にリモート エンジン ID が設定されていない場合、コンフィギュレーション コマンドは失敗します。

privpassword 引数と *auth-password* 引数については、最小の長さが 1 文字で、推奨される長さは 8 文字以上であり、文字と数字の両方を含める必要があります。推奨される最大長は 64 文字です。

次の表に、暗号化、パスワード、およびアクセス リストのデフォルトのユーザ特性を示します。

表 8: *snmp-server user* のデフォルトの説明

特性	デフォルト
アクセスリスト	すべての IP アクセス リストからのアクセスが許可されます。
暗号化	デフォルトでは存在しません。 encrypted キーワードは、パスワードがメッセージ ダイジェスト アルゴリズム 5 (MD5) ダイジェストであり、テキストパスワードではないことを指定するために使用されます。
パスワード	テキスト文字列と見なされます。
リモートユーザ	すべてのユーザは、 remote キーワードを使用してリモートであることを指定しないかぎり、この SNMP エンジンに対してローカルであると見なされます。

SNMP パスワードは、権威 SNMP エンジンの SNMP ID を使用してローカライズされます。インフォームの場合、正規の SNMP エージェントはリモート エンジンです。プロキシ要求またはインフォームを送信できるようにするには、SNMP データベース内のリモート エンジンの SNMP エンジン ID を設定する必要があります。



(注) SNMP ユーザ設定後にエンジン ID を変更すると、ユーザを削除できません。ユーザを削除するには、まず、SNMP ユーザを再設定する必要があります。

パスワードおよびダイジェストの取り扱い

コマンドを設定する際、認証やプライバシー アルゴリズムにはデフォルト値はありません。また、デフォルトのパスワードも存在しません。パスワードの最小の長さは 1 文字ですが、シスコではセキュリティのために 8 文字以上にすることを推奨しています。パスワードの推奨される最大長は 64 文字です。パスワードを忘れた場合は回復できないため、ユーザを再設定する必要があります。プレーンテキストのパスワードとローカライズされた MD5 ダイジェストの、どちらも指定できます。

ローカライズされた MD5 またはセキュア ハッシュ アルゴリズム (SHA) ダイジェストを持っている場合は、プレーンテキストのパスワードではなく、その文字列を指定できます。ダイ

例

ジェストは `aa:bb:cc:dd` の形式にする必要があります。aa、bb、および cc は 16 進値です。また、ダイジェストは正確に 16 個のオクテットであることが必要です。

次の例は、ユーザ `abcd` を `public` という名前の SNMP サーバグループに追加する方法を示しています。この例では、ユーザにアクセスリストが指定されていないため、グループに適用されている標準の名前付きアクセスリストがユーザに適用されます。

```
Device(config)# snmp-server user abcd public v2c
```

次の例は、ユーザ `abcd` を `public` という名前の SNMP サーバグループに追加する方法を示しています。この例では、標準の名前付きアクセスリスト `qrst` からのアクセスルールがユーザに適用されます。

```
Device(config)# snmp-server user abcd public v2c access qrst
```

次の例では、プレーンテキストのパスワード `cisco123` が、`public` という名前の SNMP サーバグループのユーザ `abcd` に対して設定されています。

```
Device(config)# snmp-server user abcd public v3 auth md5 cisco123
```

`show running-config` コマンドを入力すると、このユーザの行が表示されます。このユーザが設定に追加されたことを確認するには、`show snmp user` コマンドを使用します。



(注) `show running-config` コマンドは、`noAuthNoPriv` モードで作成されたユーザを表示しますが、`authPriv` モードまたは `authNoPriv` モードで作成されたアクティブな SNMP ユーザは表示しません。`authPriv`、`authNoPriv`、または `noAuthNoPriv` モードで作成したアクティブな SNMPv3 ユーザを表示するには、`show snmp user` コマンドを使用します。

ローカライズされた MD5 または SHA ダイジェストを持っている場合は、プレーンテキストのパスワードではなく、その文字列を指定できます。ダイジェストは `aa:bb:cc:dd` の形式にする必要があります。aa、bb、および cc は 16 進値です。また、ダイジェストは正確に 16 個のオクテットであることが必要です。

次の例では、プレーンテキストのパスワードの代わりに MD5 ダイジェスト文字列が使用されています。

```
Device(config)# snmp-server user abcd public v3 encrypted auth md5
00:11:22:33:44:55:66:77:88:99:AA:BB:CC:DD:EE:FF
```

次の例では、ユーザ `abcd` が `public` という名前の SNMP サーバグループから削除されます。

```
Device(config)# no snmp-server user abcd public v2c
```

次の例では、**public**という名前のSNMPサーバグループからのユーザ**abcd**が、**secure3des**をパスワードとして使用してプライバシーの暗号化のために168ビット3DESアルゴリズムを使用することを指定しています。

```
Device(config)# snmp-server user abcd public priv v2c 3des secure3des
```

関連コマンド

Command	Description
show running-config	現在実行中のコンフィギュレーションファイルまたは特定のインターフェイスのコンフィギュレーションの内容、またはマップクラス情報を表示します。
show snmp user	グループ ユーザ名テーブルの各 SNMP ユーザ名に関する情報を表示します。
snmp-server engineID	デバイスで設定されたローカルSNMPエンジンおよびすべてのリモートエンジンの ID を表示します。

snmp-server view

ビューエントリを作成または更新するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server view** コマンドを使用します。指定された Simple Network Management Protocol (SNMP) サーバビューエントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server view view-name oid-tree {included | excluded}
no snmp-server view view-name
```

構文の説明

<i>view-name</i>	更新または作成しているビューレコードのラベル。レコードはこの名前でも参照されます。
<i>oid-tree</i>	ビューに含める、またはビューから除外する ASN.1 サブツリーのオブジェクト識別子。サブツリーを識別するために、1.3.6.2.4 などの数字や system などの単語で構成されるテキスト文字列を指定します。サブツリーファミリを指定するには、サブ ID の 1 文字をアスタリスク (*) ワイルドカードに変えます。たとえば、1.3.*.4 です。
included	<i>oid-tree</i> 引数に指定されている OID (およびサブツリー OID) を SNMP ビューに含めるように設定します。
excluded	<i>oid-tree</i> 引数に指定されている OID (およびサブツリー OID) を SNMP ビューから明示的に除外するように設定します。

コマンドデフォルト

ビュー エントリは存在しません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.8.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

他の SNMP コマンドでは、引数として **SMP** ビューが必要です。このコマンドを使用して、他のコマンドの引数として使用するビューを作成します。

ビューを定義する代わりに、ビューが必要なときに 2 つの標準の定義済みビューを使用できます。1 つは *everything* で、ユーザがすべてのオブジェクトを表示することができることを示します。もう 1 つは *restricted* で、ユーザが **system**、**snmpStats**、**snmpParties** の 3 つのグループを表示できることを示します。定義済みビューは、RFC 1447 で説明されています。

最初に入力する **snmp-server** コマンドは、ルーティングデバイス上で SNMP をイネーブルにします。

例

次に、MIB-II サブツリー内のすべてのオブジェクトを含むビューを作成する例を示します。

```
snmp-server view mib2 mib-2 included
```

次に、MIB-II システム グループのすべてのオブジェクトおよび Cisco エンタープライズ MIB のすべてのオブジェクトを含むビューを作成する例を示します。

```
snmp-server view root_view system included
snmp-server view root_view cisco included
```

次に、sysServices (System 7) と MIB-II インターフェイス グループ内のインターフェイス 1 のすべてのオブジェクトを除く、MIB-II システム グループのすべてのオブジェクトを含むビューを作成する例を示します。

```
snmp-server view agon system included
snmp-server view agon system.7 excluded
snmp-server view agon ifEntry.*.1 included
```

次の例では、USM、VACM、およびコミュニティ MIB は、ルート親「internet」の下にある他のすべての MIB とともにビュー「test」に明示的に含まれています。

```
! -- include all MIBs under the parent tree "internet"
snmp-server view test internet included
! -- include snmpUsmMIB
snmp-server view test 1.3.6.1.6.3.15 included
! -- include snmpVacmMIB
snmp-server view test 1.3.6.1.6.3.16 included
! -- exclude snmpCommunityMIB
snmp-server view test 1.3.6.1.6.3.18 excluded
```

関連コマンド

Command	Description
snmp-server community	SNMP プロトコルへのアクセスを許可するようにコミュニティ アクセス スtring を設定します。
snmp-server manager	SNMP マネージャ プロセスを開始します。

source

Flexible NetFlow フローエクスポートから送信されるすべてのパケットの送信元 IP アドレスのインターフェイスを設定するには、フロー エクスポート コンフィギュレーション モードで **source** コマンドを使用します。Flexible NetFlow フローエクスポートから送信されるすべてのパケットの送信元 IP アドレスのインターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

source *interface-type interface-number*
no source

構文の説明

<i>interface-type</i>	Flexible NetFlow フローエクスポートから送信されるパケットの送信元 IP アドレス向けに使用する IP アドレスのインターフェイスのタイプ。
<i>interface-number</i>	Flexible NetFlow フローエクスポートから送信されるパケットの送信元 IP アドレス向けに使用する IP アドレスのインターフェイス番号。

コマンド デフォルト

Flexible NetFlow データグラムを送信するインターフェイスの IP アドレスが、送信元 IP アドレスとして使用されます。

コマンド モード

フロー エクスポート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Flexible NetFlow が送信するデータグラムに一貫した送信元 IP アドレスを使用することの利点として、以下が含まれます。

- Flexible NetFlow によりエクスポートされるデータグラムの送信元 IP アドレスは、Flexible NetFlow データがどちらのデバイスから到着するかを判断するために、宛先システムによって使用されます。デバイスから宛先システムに Flexible NetFlow データグラムを送信するのに使用できるパスがネットワークに複数あり、送信元 IP アドレスを取得する送信元インターフェイスが指定されていない場合、デバイスはデータグラムが送信されるインターフェイスの IP アドレスを、データグラムの送信元 IP アドレスとして使用します。この場合、宛先システムは同じデバイスから送信元 IP アドレスが異なる Flexible NetFlow データグラムを受信する場合があります。宛先システムが、異なる送信元 IP アドレスを持つ同じデバイスから Flexible NetFlow データグラムを受信すると、宛先システムは異なるデバイスから送信されたものとして Flexible NetFlow データグラムを処理します。宛先システムが Flexible NetFlow データグラムを異なるデバイスから送信されたものとして処理しないようにするには、宛先システムがデバイスですべての可能な送信元 IP アドレスから受信する Flexible NetFlow データグラムを単一の Flexible NetFlow フローに集約するように、宛先システムを設定する必要があります。

- データグラムを宛先システムに送信するために使用できる複数のインターフェイスがデバイスにあり、**source** コマンドを設定していない場合、Flexible NetFlow トラフィックを許可するために作成するアクセスリストに、各インターフェイスの IP アドレスのエントリを追加する必要があります。既知の送信元からの Flexible NetFlow トラフィックを許可し、不明な送信元からはブロックするためにアクセスリストを作成および維持することは、Flexible NetFlow トラフィックをエクスポートするデバイスごとに単一の IP アドレスに Flexible NetFlow データグラムの送信元 IP アドレスを制限すると、より簡単に行えるようになります。



注意 **source** インターフェイスとして設定するインターフェイスには、設定された IP アドレスが必須であり、アップされている必要があります。



ヒント **source** コマンドで設定したインターフェイス上で一時的な停止が発生した場合、Flexible NetFlow エクスポートは、データグラムが送信されるインターフェイスの IP アドレスをデータグラムの送信元 IP アドレスとして使用するデフォルトの動作に戻ります。この問題を回避するには、ループバック インターフェイスを送信元インターフェイスとして使用します。これは、ループバック インターフェイスが物理インターフェイスで発生する可能性のある一時的な停止の影響を受けないためです。

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no source** または **default source** フロー エクスポート コンフィギュレーション コマンドを使用します。

例

次に、NetFlow トラフィックの送信元インターフェイスとして、ループバック インターフェイスを使用するように Flexible NetFlow を設定する例を示します。

```
Device(config)# flow exporter FLOW-EXPORTER-1
Device(config-flow-exporter)# source loopback 0
```

source (ERSPAN)

Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) 送信元インターフェイスまたは VLAN、およびモニタするトラフィックの方向を設定するには、ERSPAN モニタ送信元セッション コンフィギュレーション モードで **source** コマンドを使用します。この設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

source {**interface** *type number* | **vlan** *vlan-ID*}[**{**, | **-** | **both** | **rx** | **tx**}]

構文の説明

interface <i>type number</i>	インターフェイスのタイプおよび番号を指定します。
vlan <i>vlan-ID</i>	ERSPAN 送信元セッション番号と VLAN を関連付けます。有効な値は 1 ~ 4094 です。
,	(任意) 別のインターフェイスを指定します。
-	(任意) インターフェイスの範囲を指定します。
both	(任意) ERSPAN の送受信トラフィックをモニタします。
rx	(任意) 受信トラフィックのみモニタします。
tx	(任意) 送信トラフィックのみモニタします。

コマンドデフォルト

送信元インターフェイスまたは VLAN が設定されていません。

コマンドモード

ERSPAN モニタ送信元セッション コンフィギュレーション モード (config-mon-erspan-src)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

送信元 VLAN とフィルタ VLAN を同じセッションに含めることはできません。

例

次に、ERSPAN 送信元セッションのプロパティの設定例を示します。

```
Device(config)# monitor session 2 type erspan-source
Device(config-mon-erspan-src)# source interface fastethernet 0/1 rx
```

関連コマンド

コマンド	説明
monitor session type	ローカルの ERSPAN 送信元または宛先セッションを設定します。

socket

クライアントソケットを指定し、TCL インタープリタの TCP over IPv4/IPv6 を経由した接続を可能にし、TCP ネットワーク接続を開くには、TCL で **socket** コマンドを使用します。

socket myaddr address myport port myvrf vrf-table-name host port

構文の説明

myaddr 接続に必要なクライアント側ネットワークインターフェイスのドメイン名または数値 IP アドレスを指定します。特にクライアントのマシンに複数のネットワーク インターフェイスがある場合はこのオプションを使用します。

myport クライアントの接続に必要なポート番号を指定します。

myvrf vrf テーブル名を指定します。vrf テーブルが設定されていない場合、コマンドは TCL_ERROR を返します。

コマンド デフォルト

コマンド モード

TCL コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1	myvrf キーワードが導入されました。

switchport mode access

トランキングなし、タグなしの単一VLANイーサネットインターフェイスとしてインターフェイスを設定するには、テンプレート コンフィギュレーション モードで **switchport mode access** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport mode access
no switchport mode access

構文の説明	switchport mode access トランキングなし、タグなしの単一VLANイーサネットインターフェイスとして、インターフェイスを設定します。				
コマンド デフォルト	アクセス ポートは、1つのVLANのトラフィックだけを伝送できます。アクセス ポートは、デフォルトで、VLAN 1のトラフィックを送受信します。				
コマンド モード	テンプレート コンフィギュレーション				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

例

次に、単一VLANインターフェイスを設定する例を示します。

```
Device(config-template)# switchport mode access
```

switchport voice vlan

指定された VLAN からのすべての音声トラフィックを転送するように指定するには、テンプレートコンフィギュレーションモードで **switchport voice vlan** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport voice vlan*vlan_id*
no switchport voice vlan

構文の説明	switchport voice vlan <i>vlan_id</i> すべての音声トラフィックを指定された VLAN 経由で転送するように指定します。				
コマンド デフォルト	1 ~ 4094 の値を指定できます。				
コマンド モード	テンプレート コンフィギュレーション				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a Cisco IOS XE Fuji 16.9.1</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。				

例

次に、指定された VLAN からのすべての音声トラフィックを転送するように指定する例を示します。

```
Device(config-template)# switchport voice vlan 20
```

ttl

存続可能時間（TTL）を設定するには、フローエクスポート コンフィギュレーション モードで **ttl** コマンドを使用します。TTL 値を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ttl ttl
no ttl ttl
```

構文の説明	<i>ttl</i> エクスポートされたデータグラムの存続可能時間（TTL）値。指定できる範囲は 1 ～ 255 です。デフォルトは 255 です。				
コマンドデフォルト	フローエクスポートでは TTL 値 255 が使用されています。				
コマンドモード	フローエクスポート コンフィギュレーション				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				
使用上のガイドライン	このコマンドをデフォルト設定に戻すには、 no ttl または default ttl フローエクスポート コンフィギュレーション コマンドを使用します。				

次に、TTL 値 15 を指定する例を示します。

```
Device(config)# flow exporter FLOW-EXPORTER-1
Device(config-flow-exporter)# ttl 15
```

transport

Flexible NetFlow のフローエクスポートのトランスポートプロトコルを設定するには、フローエクスポート コンフィギュレーション モードで **transport** コマンドを使用します。フローエクスポートのトランスポートプロトコルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
transport udp udp-port
no transport udp udp-port
```

構文の説明

udp *udp-port* トランスポートプロトコルとして User Datagram Protocol (UDP; ユーザデータグラムプロトコル) を指定し、UDP ポート番号を指定します。

コマンドデフォルト

フローエクスポートでは、UDP をポート 9995 で使用します。

コマンドモード

フローエクスポート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no transport** または **default transport flow exporter** コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、トランスポートプロトコルとして UDP を設定し、UDP ポート番号を 250 に設定する例を示します。

```
Device(config)# flow exporter FLOW-EXPORTER-1
Device(config-flow-exporter)# transport udp 250
```

template data timeout

フローエクスポートテンプレートデータの再送信のタイムアウト期間を指定するには、フローエクスポート コンフィギュレーションモードで **template data timeout** コマンドを使用します。フローエクスポートの再送信のタイムアウトを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

template data timeout *seconds*
no template data timeout *seconds*

構文の説明

seconds 秒単位のタイムアウト値です。指定できる範囲は 1 ～ 86400 です。デフォルトは 600 です。

コマンド デフォルト

デフォルトのフローエクスポートテンプレート再送信のタイムアウトは、600 秒です。

コマンド モード

フローエクスポート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フローエクスポートのテンプレートデータには、エクスポートされるデータレコードが記述されています。対応するテンプレートなしでデータレコードをデコードすることはできません。**template data timeout** コマンドを使用して、これらのテンプレートをエクスポートする頻度を制御します。

このコマンドをデフォルト設定に戻すには、**no template data timeout** または **default template data timeout** フローレコードエクスポートコマンドを使用します。

次の例では、1000 秒というタイムアウトに基づいてテンプレートの再送信を設定します。

```
Device(config)# flow exporter FLOW-EXPORTER-1
Device(config-flow-exporter)# template data timeout 1000
```

udp peek

UDP ソケットへのピークを有効にするには、TCL コンフィギュレーションモードで **udp_peek** コマンドを使用します。

udp_peek *socket* **buffersize** *buffer-size*

構文の説明

buffersize バッファサイズを指定します。

コマンドデフォルト

コマンドモード

TCL コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1 このコマンドが導入されました。
